

鹿児島高専だより

第 61 号

平成21年10月

〈特集〉教育GP



独立行政法人 国立高等専門学校機構

鹿児島工業高等専門学校

目次

校長室から

シンガポールのポリテクニックとの
国際交流について…………… 1

特集「技術士会と連携した新たな 実践的技術者教育」

教育GPとしての取組…………… 2

教務だより

全人教育に基づく技術者教育…………… 7
平成21年度一日体験入学…………… 8
平成21年度1年生集団研修報告…………… 9
平成21年度授業参観…………… 9
総合学力調査について……………10
平成21年度「きりしまっ子リーダー塾」…11

学生だより

学生の皆さんへ……………12
地域との連携について……………12
平成21年度 都城高専親善試合……………13
校内清掃について……………14
交通だより……………15
鹿児島・都城高専親善試合結果……………16
第46回（平成21年度）九州沖縄地区
国立工業高等専門学校体育大会等結果…17

志学寮だより

志学寮・雑感……………18

専攻科だより

もっと勉強したい
学生のための「専攻科」……………19
専攻科の近況……………20

特別研究の紹介……………20

レーザーカオス光を用いたテラヘルツ波の発生…21

異方性弾性円柱への圧裂試験に対する理論解…21

地域共同テクノセンターだより

地域共同テクノセンター報告……………22

産学官連携による長期インターンシップについて…22

産学官連携推進会議と全国高専テクノフォーラム…22

共同研究について……………23

「ソフトプラザかごしま」での活動について…23

平成21年度人材育成事業について……………24

半導体関連企業での体験実習について…24

学生何でも相談室だより

メンタルヘルスと相談室……………25

教職員研究活動

「ゲルマニスティク」とは何か？……………26

研究雑感……………27

私にとっての研究小史……………28

教員交流

教員交流報告……………29

退職教員だより

気骨ある卒業生たち 前編……………30

教職員の動向

新任教職員紹介……………33

留学生だより

平成21年度留学生活動報告(1)……………40

卒業生から

高専七年間を経て……………41

ご挨拶……………41

新社会人になって……………42

知識のつかいどき……………42

本科を卒業して思うこと……………43

大学院進学について……………43

専攻科を修了して……………44

鹿児島高専専攻科を修了して思うこと…44

専攻科で学んだこと……………45

後援会だより

鹿児島高専後援会活動について……………46

前期を振り返って……………46

15の夏、成長の記録……………47

新入生の親となり……………47

鹿児島高専で感じたこと……………48

保護者懇談会実施について……………48

授業参観ツアー5年目にして……………49

1年生授業参観・懇談会アンケート集計結果…50

2年生授業参観・懇談会アンケート集計結果…52

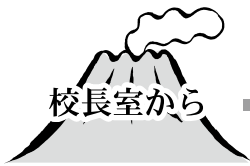
3年生授業参観・懇談会アンケート集計結果…54

その他（5年）授業参観・懇談会アンケート集計結果…56

【表紙の説明】

特集に因み、鹿児島県技術士協会の技術士と本校教員の
共同教育における授業模様を掲載しました。





シンガポールのポリテクニク との国際交流について

校長 赤坂 裕

本校は、現在、カセサート大学（タイ）、南京航空航天大学機電学院（中国）、釜山情報大学（韓国）と交流協定を結んでいます。また、バンクーバー（カナダ）のノートルダム・リージョナル・セカンダリー・スクールに、毎年、主に2年生を語学研修に送っています。これらに加え、今年度からは、シンガポールのテマセク・ポリテクニクとの学生交流を始めました。9月に、本校の4年生を主とする学生がテマセク・ポリテクニクを訪問し、来年3月にはテマセク・ポリテクニクの学生が本校を訪れます。

では、ポリテクニクとはどのような学校でしょうか。シンガポールは、初等、中等教育段階から試験によって進路を振り分けられるという厳しい教育制度が敷かれている国です。小学校では、6年生終了時だけではなく、4年生終了時にも学習内容や進路を振り分ける試験があります。ポリテクニクは、小学校6年、中学校4年を経た工業技術や商業に興味のある学生が入学しますが、試験制度により、1年または2年、年上の学生も含まれています。ポリテクニクの教育期間は3年間で、本校の2～4年生と数は少ないですが5年生、専攻科1年生に相当する学生から構成されています。

私がシンガポールを初めて訪問したのは15年ほど前のことです。訪問の目的はシンガポールの住宅と宗教建築を見学することでした。日本の知人に現地の建設会社で働くミャンマー人を紹介してもらい、シンガポール中心部や郊外を案内してもらいました。シンガポールには仏教、ヒンズー教、イスラム教、キリスト教など様々な宗教が共存しています。英国の植民地でアジア交易の拠点港だったシンガポールは、中国、インド、マレー等の移民から構成されています。そのため、同じ仏教でも、中国人とミャンマー系の寺院では、祭られている仏像の姿や表情が違います。日本の仏像とも違って、私にはやはり日本の仏像が一番美しく厳かに見えます。どの寺院や教会に行っても、共通しているのは、多くの人が来

ていて日常生活の場の様な雰囲気があり、宗教が生活の中に入り込んでいることが実感される点です。私を案内してくれたミャンマー人も、当然のごとく、訪問したミャンマー寺院の仏像に正座し、長い間丁寧にお祈りしていました。この1回目のシンガポール訪問では、異なる宗教を持つ国民が上手に共存していることに感銘を受けました。

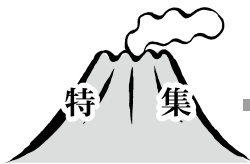
私の2回目のシンガポール訪問は2007年の9月のことでした。2回目のシンガポール訪問は、シンガポールのテマセク・ポリテクニクが主催した国際研究集会に出席するのが目的でした。「テマセク」とはどういう意味かというと、シンガポールの古名であって「海の町」という意味だそうです。1回目の訪問でもそうでしたが、2回目の訪問でもシンガポールは近代的でよく整備された国だと思いました。地下鉄やビル等の多くは日本の企業が建設しているのですが、地下鉄は日本以上に安全に配慮されていて、車両も清潔です。

参加した国際研究集会は、シンガポールの3つのポリテクニク（シンガポール・ポリテクニク、テマセク・ポリテクニク、リパブリック・ポリテクニク）と九州沖縄地区の10高専との包括協定に基づいて開催され、学生の教育方法や研究についての発表とディスカッションが行われていました。鹿児島高専からも植村先生と堤先生が参加しました。この研究集会は年1回開催されており、昨年は熊本電波高専が主催して熊本で、今年はシンガポール・ポリテクニクが主催し9月にシンガポールで開催されます。本校からも多くの教員が参加します。来年（2010年9月）には、本校がこの国際研究集会を主催し、鹿児島で開催する予定です。

今回のテーマは、シンガポール、及びシンガポールのポリテクニクとの交流です。シンガポールのポリテクニクは本校との交流にとっても適した学校だと思います。シンガポールのポリテクニクとの交流の利点のひとつは、シンガポールが二言語主義をとっている点です。二言語主義とは、初等教育段階から、共通語としての英語と、各民族の母語（北京語、マレー語、タミール語）を習得させている教育制度をいいます。そのため、シンガポールには英語の上手な人もいれば、それほど上手でない人もいます。「英語は上手くて当然」という国ではなく、英語が堪能でない人に対しても理解がある国です。ですから、英語がそれ程得意でない学生諸君にもやさしい国だと思います。

バンクーバーのノートルダム・リージョナル・セカンダリー・スクールが低学年（主として2年生）の学生を対象としているのに対し、テマセク・ポリテクニクとの国際交流は高学年（主として4年生）の学生を対象としています。高学年の学生諸君には、語学研修だけでなく、それぞれの専門分野での交流もしてもらいたと思います。

多くの学生諸君がこれらの交流に興味を持って参加し、国際感覚を養い視野を広げることを期待しています。



技術士会と連携した新たな実践的技術者教育 —教育GPとしての取組—

教育GPプロジェクト委員長 土木工学科 岡林 巧
教育GPプロジェクト副委員長 一般教育科文系 松田 忠大

はじめに

平成20年度の文部科学省の大学改革推進事業「質の高い大学教育推進プログラム（通称、教育GPという）」に、本校の提案した「技術士会と連携した新たな実践的技術者教育（以下、本取組という）」が採択された。本取組の期間は、平成20年度および平成21年度の二か年であり、交付された補助金は、平成20年度が2000万円、平成21年度が1900万円である。今回は、本取組を特集として取り上げ、その内容および将来展望について述べることにする。

1. 本取組の背景

本校は、「幅広い人間性を培い、豊かな未来を創造しうる開発型技術者を育成すること」を教育理念と定め、「国際性を持った教養豊かな人間を育て、個性的で創造性に富んだ開発型技術者を育成すること」を具体的目標として掲げている。本校では、この教育理念および教育目標の下で、準学士課程における低学年のうちから専門教育を充実させるとともに、知識や理論に偏頗せず、実験・実習を重視した実践的技術者教育のためのカリキュラムを編成し、学生が創造性豊かな実践的開発型技術者になるための教育に努めている。そのためには、十分な工学的基礎知識および理論の教授に加えて、実務的視点からのものづくり教育が不可欠となり、重視されることは言うまでもない。これまでは、様々な社会経験を有する教員と種々の技能を有する技術職員とが連携をとりながら、このような本校の実践的技術者教育を支えてきた。

しかし、わが国の教育の高度化に伴い、高等専門学校の高専教育機関としての性格がより一層強まる中で、教員の研究活動が重視されてきたことや、これまでの高専教育を支えてきた経験豊富なベテラン教員の大量退職により、実務経験がなく、教育経験も浅い若い教員の数も増加しつつあることなどが影響して、実践的技術者教育のための人的基盤が脆弱になりつつあるのが高専の現状である。たとえば、本校においては、専任教員のうち、民間企業勤務などにより技術者としての実務経験を有している教員は78名中15名（約20%）にとどまり（平成20年4月1日現在）、毎年減少する傾向にある。また、技術士をはじめとする実務に関する各種資格を有する教員も

それほど多くはない。

もっとも、社会・経済構造の変化、科学技術の急速な高度化・融合化の進む近年にあっては、教育機関（学校）単独の力では、実践的技術者教育の実現には限界があるものと言わざるを得ない。実践的技術者教育に関して、このような課題を抱えているのは、本校のみならず、目的および使命を同じくする他の高専でも同様である。

この点、中央教育審議会大学分科会「高等専門学校特別委員会」の審議経過報告では、次のような提言がまとめられていることが注目される。これからのわが国のものづくりを支えるために、「高等専門学校の果たす役割が重要となり、産業界など社会のニーズが多様化する中で、主体的に課題を設定し解決する資質を備えた実践的な人材育成を目指した教育課程の編成や、キャリア教育の実施による教育の質の向上を図ることがますます重要となってきた」との指摘に対して、これを実現するための方策として、「教育内容の計画段階から実施・評価までを、学内の閉じた体制ではなく、産業界や他の高等教育機関を初めとする地域との有機的連携による共同教育として展開することが有効である」との提言である。このことは、高専における実践的技術者教育をより充実させるために、地域の企業や実務者の協力を得るべきこと示唆するものであると解される。さらに、国立高等専門学校機構が定める中期目標においても、教員についての「多様な人材の確保」として、教員のうち60%は多様な社会的背景を持った人材を確保すべきことが掲げられている。このように、現在の高専に望まれていることは、その使命であるところの実践的技術者教育の更なる質の向上であり、地域との共同教育などの実施によりそれを実現すべきことであると考えられる。

本取組は、このような高専の抱える実践的技術者教育に関する課題の解決と高専に対する社会的なニーズの両面を満たす取組として、本校の実践的技術者教育に、社会、特に鹿児島県技術士会の協力を得ようとする取組である。

2. 本取組の目的および意義

本校では、実践的技術者教育に関する課題を解決するための方策として、これまで、高等専門学校間、大学地

域コンソーシアム鹿児島、および産業界・地域社会などとの幅広い連携を強化し、本校の教育組織内だけでの教育にとどまらず、産業界・地域社会との共同教育実現のための基盤整備を実施してきた。これらの取組の中で、特筆すべき点は、全国の高専の中で初めての取組として、平成19年に鹿児島県技術士会と本校との間で連携協定を締結したことである。

平成19年度からは、この連携協力協定に基づき、専攻科第1学年の専門共通科目である「環境創造工学特別講義」を、「鹿児島県技術士会」からの非常勤講師の派遣を受け実施している。この講義は、省エネ・省資源、環境対策、環境保護など環境に関連した19の技術専門分野において、その最新の動向やタイムリーなトピックスについて、各専門分野の技術士14名が交代して教授するオムニバス方式で実施され、学生は「技術士」から直に実務者レベルの受講ができる仕組みとなっていることから、専攻科学生の実践的な素養の伸張などの成果が顕著になりつつある。

一方、準学士課程についても、実践的技術者教育充実の観点から、カリキュラムの見直しを行い、平成18年度から新教育課程が実施されている。この新教育課程では、専門科目のこれまでの実験・実習に加えて、ものづくりを中心とした創造実習等のPBL科目が新設された。これまで、この授業科目において、環境保全のためのヤシの枝払いロボットの開発をはじめ、自治体と協力した公園設計などまちづくりへの参画、循環型社会を目指した廃棄物利用の研究開発などをテーマとして、実践的技術者教育について一定の成果があげられている。しかし、実践的技術者教育を更に推進し、充実させていくためには、このようなカリキュラムの実施とともに、本校のカリキュラム全般にわたって、豊富な実務経験を有する人材による教育支援が不可欠である。

そこで、本取組は図1に示すように、専攻科における技術士会との共同教育を準学士課程にも拡張し、本校教員と技術士との連携により、①学生に対する実践的技術者教育の充実を図り、さらに、新たな取組として、②技術士の有する実務経験を活かして、本校専任教員の実践的技術者教育に関する教授能力の向上（FD）を図ること、本校の技術教育の到達目標である創造性豊かな実践的開発型技術者の育成を推進することを目的とするものである。

本取組の実施により、これまで工学教育現場で低迷していた実践的技術者教育の質が飛躍的に改善され、「プロフェッショナル・エンジニア」の育成が現実化するものと考えられる。また、本取組のような技術士会との連携協定に基づく共同教育の実施は、全国高専においては、他に類を見出すことはできず、本校の取組が唯一のリーディング・ケースとなる。したがって、本取組の実施は、他の高等専門学校における実践的技術者教育の参考に十分に資するものになると考えられる。

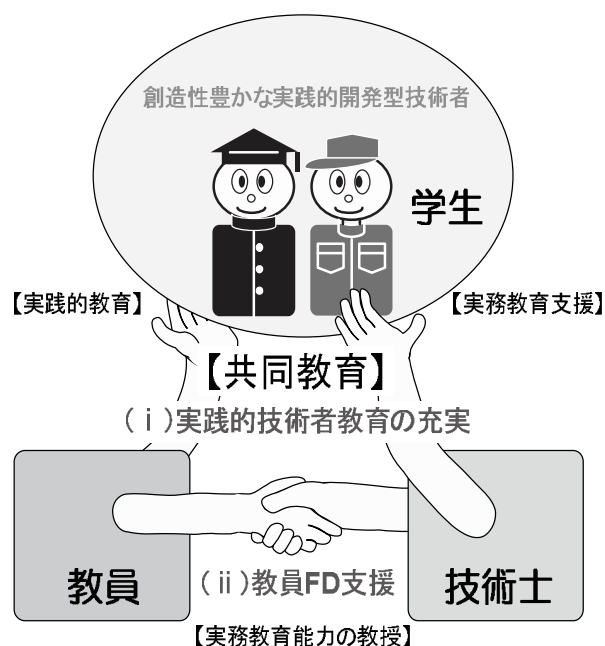


図1 新たな実践的技術者教育

3. 本取組の具体的内容

(1) 共同教育の実施

本校の教育目標の一つに、「創造性豊かな実践的開発型技術者」の育成が挙げられており、そのため、多くのものづくり科目を開講し、各学科において、実践的技術者教育に力を入れている。これらの科目には、ものづくり基礎教育科目と課題解決型（PBL）科目がある。

そこで、学生に対する実践的技術者教育の充実を図り、実践的技術者の素養の質を向上させるために、本校教員と技術士による共同教育を、まずは、これらのものづくり科目に適用する。具体的な共同教育の内容としては、下記の2つの項目が挙げられる。

① 技術士との共同による教材開発

PBL科目における課題設定、ものづくり授業に用いる補助教材としての模型、参考資料・演習問題の作成について、技術士のサポートをうける。

② 授業への技術士の参加

ものづくりの過程における技術士の専門的なアドバイスを受けるとともに、PBL科目におけるコンテストなどの成果発表会に技術士に参画してもらい、実務的な面からの評価を受けることで、もの作りにおけるより高度な技術力の向上を図る。また、実践的技術者を育成するにあたり、今後ますます重要となる地球環境面に配慮できる技術者として不可欠な倫理観を身につけさせることも重要である。本校では、平成18年度から新教育課程が実施され、この中に5年次開講の「技術倫理総論」が共通科目として設けられているが、新教育課程が完成年度を迎える2年後まではこの科目が開講されず、準学士課程

における技術者倫理教育は十分に行われない。さらに、本校において技術者として立場から実務面における技術倫理教育を担当できる教員が充実していない面もあり、この部分で技術士の支援が是非とも必要である。そこで、本取組により、技術士の協力を得て、先行して技術倫理に相当する科目を開講し、学生への技術倫理教育の充実を図る。

このような共同教育の取組みの実施は、本校の学習・目標である「人類の未来と自然との共存をデザインする技術者、グローバルに活躍する技術者、創造力豊かな開発型技術者、相手の立場に立ってものを考える技術者」を育成するために、より具体的な質の高い実践的教育方法として位置づけられる。

他方、学生にとってもそれまでの基礎教育中心の講義から、基礎知識を実践的な問題に応用し展開していく質の高い授業を受けることで、当該科目に対する興味が引き起こされ技術者としてのモチベーションの向上が期待される。

このように本校教員と技術士との共同教育というこれまでにない新たな本校独自の取組は、ソフト面における教育環境を充実させる要因となりうるし、質の高い教育の推進につながるものと期待される。

(2) 技術士による教育内容の点検・評価および改善(FD)への支援

前述した本取組の目的の一つである「技術士の有する実務経験を活かして、本校専任教員の実務教育に関する教授能力の向上(FD)を図る」を達成するために、以下のような具体的な取組を行う。

本校では、学生による授業評価アンケート(全科目)と教員相互による授業参観(一部科目)を実施し、その結果に基づいて教授能力の向上を図ってきた。各教員による教育方法の改善活動の結果は、主に翌年度の授業計画(シラバス)に反映される。本取組において技術士との共同教育を実施する科目では、シラバス作成段階から技術士が参画するが、このことは、教員の教授能力の向上活動に直結している。また、授業実施段階においては、技術士が教員の授業に立ち会うことで、教授方法の更なる改善に結びついていくことが期待できる。さらに、技術士による授業評価アンケートを実施し、学生の授業評価アンケートとの対比により、より客観的な授業評価体制を実現する。なお、技術士との共同教育を実施しない科目においても、より実践的な内容を授業に導入することを希望する教員があれば、シラバス作成段階において技術士による実践的応用能力の立場からのアドバイスを受ける機会を設ける。

以上のような授業を通したFD活動に並行して、教員を対象とした技術士による講演会を実施し、技術者の経験に裏打ちされた現場のノウハウと学術理論との融合について教員組織の啓発を図る。

(3) 実現に向けた実施体制(組織的な取組体制、学外と

の連携等)

本取組の実施体制を図2に示す。この取組の基本方針および実施計画案は、学内における実務担当者および関係教職員で構成される教育支援GPプロジェクト会議が策定する。その策定案について、鹿児島県技術士会との連携協力協定に基づき、鹿児島県技術士会・鹿児島工業高等専門学校連携協力推進会議(以下、連携協力推進会議という。)が審議する。この審議結果を基に、教育支援GPプロジェクト会議が具体的な実施計画と方法を作成する。その実施計画等は、教務委員会またはFD委員会に提示され、これらの委員会が審議する。その審議結果に基づき、各学科で様々な取組が実施される。また、本取組の今後の発展を視野に入れ、必要に応じて、他の本校との連携協力関係にある霧島市教育委員会、錦江湾テクノパーククラブ等などの協力も得ながら、取組の具体策を企画・立案の検討を行う。

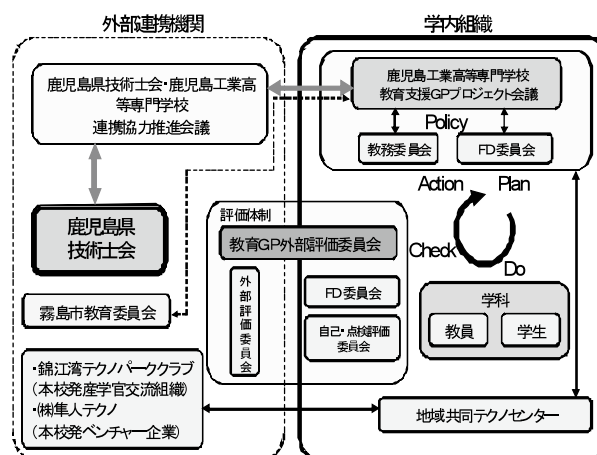


図2 本取組の実施体制

(4) 取組の評価体制

本取組に関する評価は二段階で行われる。まず、各学期において実施された取組については、教育GP外部評価委員会において、評価され、改善案が提示される。改善案は教育支援GPプロジェクト会議に示され、基本方針の変更を伴うような場合には、連携協力推進会議との連携の下で、取組に対する改善策が作成される。それを教務委員会またはFD委員会で審議し、その審議結果に基づき、各学科で改善策が実施される。

さらに、年間を通じたこの取組に対する評価は、本校の教育改善システム(PDCAサイクル)の中で実施される。各学科において実施された本取組の内容は、自己点検・評価委員会において点検・評価がなされる。その結果は、自己点検・評価報告書としてまとめられ、関係機関への配布、本校ウェブページにおいても公開される。自己点検・評価委員会における評価結果は、外部有識者の視点から、外部評価委員会において審議・評価が行われる。

外部評価委員会開催後、自己点検・評価委員会が中心となって、提言に対する現状分析を行った上で、教務委員会またはFD委員会へ外部評価委員からの意見・提言をフィードバックする。これらの委員会は、現状分析の確認及び提言に対する今後の対応を検討の上、改善案を作成し、これらの内容が外部評価結果報告書として取りまとめられる。その後、教育支援GPプロジェクト会議が、連携協力推進会議との連携の下で、今後の対応について、具体的プランを立て、それを教務委員会またはFD委員会で審議し、その審議結果に基づき、各学科で改善策が実施される。これらの改善結果は、自己点検・評価委員会で取りまとめられ、次回の外部評価委員会で報告を行う。

このような二段階を経た細かな評価・改善の仕組みを構築することで、効果的かつ持続的に評価体制が機能することとなる。

4. 平成20年度までの取組内容



電子制御工学科4年 「最新の技術事情について」

平成20年度は、まず、技術士会と連携して共同教育の計画を練り、実施した。共同教育の立案に際しては、教育支援GPプロジェクト会議を設置し、鹿児島県技術士会との共同組織である連携協力推進会議と連携して、具体的な取組の計画および実施方法を立案した。共同教育の実施については、本校の現在の教育カリキュラムにおいて、PBL科目や特別講座など比較的外部から支援を得やすい科目から順次共同教育を導入した。

共同教育を実施に際しては、人的な基盤整備だけでなく、教育環境（設備および教材等）の整備も不可欠となる。そこで、実際にものづくりを行う科目において必要な設備を整え、また、共同教育を行うための各種教材研究を行った。新たに導入した主な設備は、CAD/CAM/CAE用パソコンおよびソフトウェア、測量機器一式、粉碎機一式、実習用設備・資材等である。

また、教室におけるプレゼンテーション用として液晶プロジェクターも整備した。

また、理論と実務者教育との融合についてのFD活動

品 名	数 量
教育支援用パソコン一式	26式
CAD/CAE用解析ソフト 一式	1 式
カラーレーザープリンタ	1 台
液晶プロジェクター一式	2 式
伐採ヤシ枝粉碎機一式	1 式
小型レーザー加工システム	1 台
フライス盤	2 台

導入した設備等の一覧

の一環として、技術士による授業評価アンケートを実施するとともに、トヨタ自動車株式会社からプリウスの開発の最前線で活躍されている小木曾聡チーフエンジニア、日本技術士会において技術者倫理教育の最前線で活躍されている杉本泰治技術士、鹿児島県技術士会から稲田博会長、沖縄高専から吉永文雄教授を招いてのシンポジウムを実施し、技術者の経験に裏打ちされた現場のノウハウと学術理論との融合について教員組織の啓発を図る等の取組を行った。

さらに、国内外のより先進的な実践的技術者教育を調査し、本取組のさらなる充実を図るために、横浜国立大学、カナダのブリティッシュ・コロンビア工科大学（British Columbia Institute of Technology：BCIT）、米国のマサチューセッツ工科大学（Massachusetts Institute of Technology：MIT）および英国のサウザンプトン大学（University of Southampton）への訪問調査を行った。

そして、年度末には、本取組を評価・改善するために教育GP外部評価委員会による点検評価を受けた。



トヨタ自動車(株)トヨタ第2乗用車センター
チーフエンジニア 小木曾 聡 氏



T.スギモト技術士事務所代表・技術士
杉本 泰治 氏



【パネルディスカッション】

テーマ：「企業が求めるものづくり技術者像」

5. 平成21年度の取組と将来展望

(1) 平成21年度の取組

今年度も、前年度に引き続き、技術士会と連携した共同教育を実施している。また、より発展的な共同教育を実施できるよう、教育基盤の整備として、これまで、デジタルストレージ・オシロスコープ、卓上フライス盤、放送・視聴覚設備一式などの備品を整備した。

また、FDに関しては、昨年度同様、各種授業評価アンケートを実施するとともに、8月には、カナダのブリティッシュ・コロンビア工科大学（British Columbia Institute of Technology）から、Barbara Dabrowski 環境建設学部副学部長およびRishi Gupta環境建設学部教育プログラムマネージャー、中国の南京航天大学の左敦穩教授、大阪府立高専の新納格教授、鹿児島県技術士会理事の上小鶴博技術士、そして第一工業大学のミョーキン教授を招いての国際シンポジウムの開催を開催する予定である。

そして、最終的には、2か年の本取組を検証し、その成果を学内外に公表するために、フォーラムの開催を計

画している。

(2) 本取組の将来展望

本取組を恒常的に実施していくために、2か年にわたって、文部科学省の補助金により、人的物的両面での基盤整備をおこなっている。本取組に対する文部科学省による補助事業が終了した後も本取組を継続させていくためには、特に、現実に教育を担っていただく学外の技術者の協力が不可欠である。幸いに、鹿児島県技術士会からは、本校が締結した連携協力協定に基づき、教育支援を無償で受けることが可能であることから、この取組を半永久的に実施していくことは可能である。しかし、わが国のものづくりを担っているのは、現実には、技術士の資格を有する技術者だけではない。資格はなくても、企業の最前線でものづくりを支える優秀な技術者も多数存在する。今後は、そのような企業技術者も本取組に積極的に登用し本校の実践的技術者教育をより活性化させることを考えている。

現在、実践的な教育を一つの高専だけで行うことは困難である。それを補うためには、産業界や地域社会の協力は不可欠である。具体的には、鹿児島県技術士会のみならず、本校の産学交流組織である錦江湾テクノパーククラブ、さらには、霧島市教育委員会との連携を、一層強化し学生教育の面での連携を強化していくことが重要である。その結果、本校を中核として共同教育の場が広がり、地域全体で未来を担う若手技術者の育成を行うシステムが構築され、本取組がより発展していくことにつながる。

平成21年度前学期に実施された共同教育

科名	学年	科目	講義内容	担当教員	講義日
機械工学科	4年	特別学修	実際の現場における問題解決事例の紹介およびブレインストーミング	椎	7/22 (水)
	4年	特別学修	ものづくり現場での体験談、これからの技術者に必要なもの、現場における問題解決事例等について	椎	7/29 (水)
土木工学科	5年	環境Ⅱ	環境問題地域づくり	山内	7/30 (木)
	5年	卒業研究	有機性廃棄物の有効利用	山内・山田	8/11 (火)
	4年	地盤工学	火山と地球環境	岡林	7/31 (金)

全人教育に基づく技術者教育

教務主事 植村眞一郎

鹿児島高専は1963年（昭和38年）に設立され、2012年（平成24年）4月で50年目を迎えます。半世紀の足跡を残すこととなります。設立当初は、機械工学科と電気工学科の2学科でスタートしましたが、様々な変遷を経て現在5学科と拡充され、さらに2000年



（平成12年）には専攻科が設置されて、ますます充実しました。また、この3月には一般科目棟も校舎改修により綺麗に生まれ変わり、加えて正門およびグラウンドに至る道路は、カラーブロックを敷き詰めた歩行者用通路を併設し、一新されました。一般科目棟前に植樹された当時、人の高さほどだったワシントン椰子が、今では校舎と高さを競うほどに生長して、南国特有の風情も加わって、正門から見た雰囲気はとても新鮮に映ります。

このように施設設備環境面で時代の流れに合わせて変わってきていますが、教育環境面においても大きく進化しています。本校は申し上げるまでもなく、日本の工業の発展を支える技術者の育成を目的としていますが、設立当初は産業界からの強い要請による実践的な中堅技術者の育成が主目的でした。しかし、社会経済環境の変革とともに、技術者育成のための教育理念も大きく変わってきています。

本校における現在の教育理念は、

- ① 幅広い人間性を培い、豊かな未来を創造しうる開発型技術者を育成する。
- ② 教育内容を学術の進展に対応させるため、また、実践的技術の発展のため、必要な研究を行う。

であり、さらに教育理念を達成するための3つの目標を

- ① 国際性を持った教養豊かな人間を育て、個性的で創造性に富んだ開発型技術者を育成する。
- ② 教育研究活動の高度化・活性化を図る。
- ③ 地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元するとともに、国際交流を推進する。

と定めています。

このように、本校における技術者の育成目標は、「国際性を持った教養豊かな人間を育て、個性的で創造性に富んだ開発型技術者」であり、さらに質の高い上を目指す方向にシフトアップしました。

ところで、高専には中学校を卒業したばかりの学生が入学してきます。そして5年間の技術者教育を受けて巣立っていきますが、この15歳から20歳までは、感受性豊かな年代から大人への成長過程へ至る年代までの学生が同居し、様々な問題も抱えているのも事実です。平成19年1月30日に出席した中央教育審議会の答申「次代を担

う自立した青少年の育成に向けて」の中で、「次代を担う青少年を自立した存在として育成するためには、青少年期を大人への準備期間として、人格の基礎を築き将来の夢や希望を抱いて自己の可能性を伸展させる時期とするとともに、自らの人生をどう設計していくかについて考える時期とする必要がある。自己や社会の様々な物事に興味・関心を抱き、知識・技能の獲得や課題の克服、目標の達成等へ向かって意欲を持つことが、成長のための行動の原動力となるのであり、青少年期には特に、このような意欲を持って生き生きと充実した生活を送ることが重要である。また、次代を担う青少年が社会の形成に参画する意欲を持つことは、我が国の未来へ希望を託すために重要である。このため、社会を構成する我々大人には、青少年に対して特別な配慮と支援を行い、その健全な成長を期する責務がある。」と述べています。高専の学生はこの青少年期の後半にあたり、まさに、次代を担う技術者の卵である学生を自立した青年へと教育していく上で、認識しておくべき視点といえます。

高専教育においては、技術者教育の対象である学生は、その入り口において殆どが精神的にも学問的にも未熟で未完成ですが、その出口である卒業時には本校の教育目標にもあるように、「国際性を持った教養豊かな人間を育て、個性的で創造性に富んだ開発型技術者」となるべく育てあげる使命を持っています。とはいうものの、その両者の姿に大きな隔たりがあり、それ故に学会やその他様々な場面で教育方法等の模索がなされています。

その教育方法のヒントのひとつとして、鹿児島には古くから郷中（ごじゅう）教育という伝統的な教育法があり、幕末における薩摩藩士の活躍はこれによるところが大きいとも言われています。この郷中教育の本質でもあり、同時に現在の学校教育の現場で欠落していると思うことのひとつは、横のつながりだけでなく、縦のつながりの中で、様々なことを学び、コミュニケーション能力、他人（特に弱者）を思いやる気持ち、協調性、忍耐力など、技術者である前に人間として必要なことを培っていくことです。そしてもっとも重要なことは、「教えられた者」が、同時に時を経て「教える者」になるということで、郷中教育は、まさに教えられた者が、次の教える者になっていくシステムでもあります。その意味では、本校の学生寮は、上級生が下級生を指導するという「郷中教育」の基本的な形態がすでに存在し、郷中教育の良さが引き出しやすい環境にあるため、全人教育の場として学生寮をより積極的に活用することも一方策ではないかと考えます。

現代の技術者教育に求められることは、工学的な技術・知識の修得は言うまでもないことですが、同時に学力面以外において、如何に人間的にも成熟した技術者を育てるかです。本校教職員はこのことについて、今後も真剣に取り組んでいきたいと思えます。

平成21年度一日体験入学

教務主事補 岸田 一也

今年度の一日体験入学は、7月4日（土）に行われました。毎年、一日体験入学では、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科、土木工学科（平成22年度より『都市環境デザイン工学科』）の5年生が体験実習の準備から指導、展示テーマの準備・後片付けと頑張ってくれています。テーマによっては専攻科生が手伝ってくれるところもあります。今年度は415名の中学生の皆さんが一日体験入学に参加してくれました。一日体験入学は、中学生の皆さんに実際の鹿児島高専に触れていただく絶好の機会であると同時に、本校にとっても受験生を獲得する重要な機会となっています。例年、参加者の5割弱が、本校を受験しています。

一日体験入学では、体験実習や展示テーマの見学、学寮での昼食（無料）、進学相談、奨学金・授業料免除相談があります。体験実習は、高専で実際に行う実験・実習をもとに内容が作られていますので、高専でどのようなことを学んで行くのかを肌で感じることができるのではないのでしょうか。また、体験実習は5年生が中心となって進めていきますので、見学に来られた保護者の皆様には本校に入学後のご子息、ご息女の成長した姿をイメージすることができると思います。一日体験入学に参加した中学生の感想をアンケートにより把握するようにしていますが、『5年生の先輩方の説明や対応が良かった』、『想像以上におもしろくてとても良かった』という前向きな回答が多く、概ね好評を得ています。ぜひ、今後も多くの中学生に参加してほしいと思っていますので、保護者の皆様方からも近所の保護者の方へ一日体験入学のことを教えていただければと思います。



全体説明会の様子



展示テーマの様子



展示テーマの様子

平成21年度1年生集団研修報告

教務主事補 田中 智樹

今年度の1年生集団研修は、平成21年4月8日(水)、9日(木)の1泊2日で実施されました。例年通り、国立大隅青少年自然の家にて行われ、1年生210名、学生会役員18名、教職員15名が参加しました。研修の目的として、①鹿児島高専の学生としての自覚を持つ、②学友との友情を育もう、という2点を掲げ、2日間の研修が進められました。

第1日目、8:35からのショートホームルームを経て、学科ごとにバスに乗り、鹿児島高専を出発。この車中から学生会が主導し、自己紹介やオリエンテーションが行われ、集団研修に臨む雰囲気作りが行われました。国立大隅青少年自然の家に到着後、入所式を行い、【研修1】として、赤坂校長、植村教務主事、岡林学生主事の講話が行われました。入学式から日も浅く、高専まだ慣れていない新入生に向けて、鹿児島高専での基本的な生活に関する意識付けが語られました。昼食を挟み、【研修2】野外活動1としてスコアオリエンテーションが行われました。天候にも恵まれ、野外での活動を終えた後、夕べの集い、夕食、入浴の時間が取られました。またプレイホールでは高専祭のDVDが放映され、入浴時間を待つ学生たちが見入っていました。その後【研修3】として20:30から学生会によるQ&Aが実施されました。1年生の質問に先輩である学生会役員が答えていくという企画ですが、昨年度より教職員は室内より追い出されており、学生同士のより濃密なコミュニケーションが図られたことと思います。また【研修3】が行われている間、1年生の保護者の方と学級担任を中心とした懇談会も同時に行われ、10名程度の保護者の方にご参加いただきました。

第2日目、起床後、館内清掃を行い、朝の集いが行われ、その後朝食、そして【研修4】として本校土木工学科准教授山内正仁先生によって『焼酎粕の有効利用』と題し講演をいただきました。エコ活動、環境問題にもつながる内容を分かりやすくご講演いただき、学生達も終始真剣に耳を傾けていました。講演の後、【研修5】野外活動2として競技施設を利用した活動が行われました。昼食後、最後の研修として【研修6】学生会長の総括、教務主事からの講評をいただき、研修の全日程を終了しました。

2日間とも天候にも恵まれ、野外活動など予定通り実施することができ満足行く研修が行えたと思います。しかし一方でケガや体調不良を訴える学生も若干名おりましたが、大隅青少年自然の家のスタッフの方々、及び教職員の皆様には、その都度対応に走っていただき、お陰をもって大過なく2日間を終了できました。

1年生がまず体験する高専でのイベントがこの集団研

修です。特にこの企画が学生会を主体としたものであることは1年生にとっても刺激的であったと考えます。先輩とはいえ同じ学生でありながら、200名からの人間を取り仕切っていく姿に、高専生としての誇りや自覚を感じてくれたのではないのでしょうか。

最後に実施にあたり事前の計画、準備、当日の運営と奔走してくれた学生会に感謝し、またご支援、ご協力をいただいた教職員の皆様、大隅青少年自然の家のスタッフの方々、そして遠方よりご出席いただいた保護者の皆様に御礼を申し上げます。

平成21年度授業参観

教務主事補 岸田 一也

授業参観は今年度で5回目を迎えます。今年度は1、2、3年生を対象として、下記のスケジュールにて実施しました。授業参観は後援会と学校との共同開催となっていますので、参加者の人数の把握、当日の受付など後援会の担当者およびクラス理事の方には大変ご足労をいただいております。ありがとうございます。

今年度、授業参観に参加していただいた保護者は概数で1年生が190名、2年生が140名、3年生が130名となっており、1年生の保護者の関心が高かったことが伺えます。1年生の授業参観では、参観の時間を使って、5年生の実験や卒業研究の見学を行いました。卒業研究の見学では、5年生が研究の内容を見学に来られた保護者の方々に説明を行いました。説明終了後に保護者の方々から拍手が起こるなど、好評を得ていたようでした。授業参観後にはクラス懇談、個人面談を実施しましたが、個人面談の希望者が多く、クラスによっては終了が午後9時を過ぎていたようでした。本校では秋に保護者懇談会を実施しており、このときに個人面談の時間を設定しておりますので、授業参観のときの個人面談については必要のある保護者や遠方から参加された保護者に限った対応にするなど、今後検討していく必要があると思われます。

<日程> 6月17日(水曜)

①午 前 後援会総会

②12:00 情報交換会

13:00 受付

③13:15 全体懇談会

④14:10 授業参観

⑤15:20 クラス懇談会

⑥16:00 個人面談

総合学力調査について

教務主事補 椎 保幸

本科5年生を対象とした総合学力調査は平成13年度から実施されております。本年度は新学期が始まってすぐの4月2日、3日に実施されました。

試験科目は従来どおり、共通科目として基礎1（数学）、基礎2（物理、化学）、英語（TOEIC）の3科目、そして各学科の専門1～3、4の科目となります。

総合学力試験では、基礎的で代表的なものを偏りなく含むように努め、これだけは出来ないと困るというような事項を中心に出题されております。昨年度までは定期試験時に行われておりましたが、本年度は新学期始まってすぐに実施されました。これは、就職試験が4月～5

月にあることを考慮し、就職試験の試験勉強を兼ねてこれまでの復習をさせようというのがこの時期に設定した理由です。

表1に今年度の調査結果を示します。表中の○▲記号は昨年度との比較で、○印は昨年度に比べ点数が上がっているもの、▲印は下がっているもの、－印は横這いを表します。結果から、全体の7割以上の科目の平均点が上がっており、実施時期は妥当であったことがうかがえます。ただし、点数そのものは期待したほど向上しておりません。これは、学生の本調査に対する取り組み姿勢が低いことが主因であると考えられます。今後は、本調査の位置づけの明確化および実施方法のさらなる検討が必要であると思われます。

最後に今回の総合学力調査の成績優秀者を表2に示します。これらの優秀者は校長室にて表彰されます。

表1 平成21年度総合学力調査の平均点

平成21年度平均点	基礎1 (数 学)	基礎2 (物理, 化学)	英語 (TOEIC)	専門1	専門2	専門3	専門4
機 械 工 学 科	39.5 ○	51.0 ○	289.1 ○	23.8 ○	49.8 ○	50.9 ▲	58.5 －
電 気 電 子 工 学 科	51.9 ○	55.4 －	325.9 ○	49.6 ○	56.7 ○	54.0 ○	
電 子 制 御 工 学 科	47.5 ○	51.3 ○	293.7 ▲	71.7 ○	47.4 ○	58.2 ○	
情 報 工 学 科	39.3 ▲	49.1 ○	315.4 ○	54.3 ○	56.0 ▲	65.9 ○	
土 木 工 学 科	38.3 －	40.2 ○	282.4 ○	57.1 ○	50.0 ○	43.5 ▲	
全 学 科	43.1 ○	49.2 ○	300.5 ○				

表2 成績優秀者

総合得点 各学科1位		
学 科	氏 名	得点 (満点)
機 械 工 学 科	今別府 大 樹	501.8 (700)
電 気 電 子 工 学 科	リム・キムスルン	497.9 (600)
電 子 制 御 工 学 科	邊志切 琢 磨	466.7 (600)
情 報 工 学 科	鶴 貴 宏	380.9 (600)
土 木 工 学 科	長 瀬 碧	360.4 (600)
共通科目 全学科1位		
学 科	氏 名	得点 (満点)
電 気 電 子 工 学 科	リム・キムスルン	278.9 (300)
英語 (TOEIC) 1位		
学 科	氏 名	得点 (満点)
電 気 電 子 工 学 科	リム・キムスルン	940 (990)
英語 (TOEIC) 一般学生1位		
学 科	氏 名	得点 (満点)
電 子 制 御 工 学 科	邊志切 琢 磨	680 (990)

平成21年度 「きりしまっ子リーダー塾」

教務主事補 田中 智樹

平成21年6月27日（土）、本校において「きりしまっ子リーダー塾」が実施されました。霧島市教育委員会との関係協力事業の一環として昨年度より行われている当事業ですが、昨年は「わんぱく!!!きりしまっ子冒険塾」と平成20年5月から平成21年3月までの期間中、数回行われる企画の一つとして鹿児島高専での工業技術体験が実施されました。

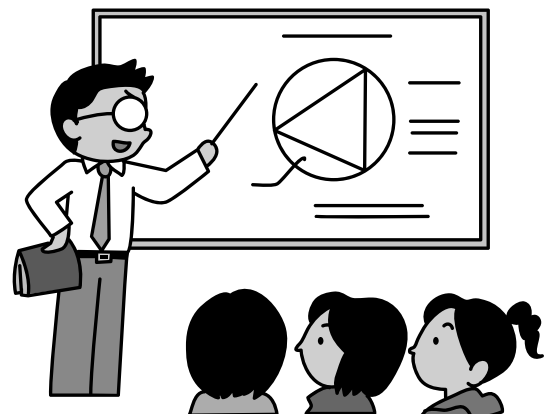
今年度は当初専門5学科にそれぞれ特色ある8テーマを企画いただき、準備を進めていただきましたが、参加者人数の都合上、5学科5テーマに絞っていただいたの実施となりました。今年度は鹿児島高専での工業技術体験が「冒険塾」事業の始めでもあり、当日は9:00より開講行事として霧島市教育委員会からのオリエンテーションから始まりました。開講行事、鹿児島高専の紹介を終え、9:30からそれぞれのテーマごとに分かれて工業技術体験が行われました。

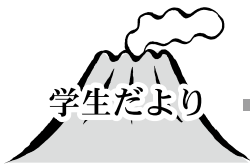
各学科の実習テーマは以下の通りです。

- ・機械工学科 「ウクレレをつくってみんなで弾こう」
- ・電気電子工学科 「太陽電池で動く車を作ろう」
- ・電子制御工学科 「電子ゴマを作ろう」
- ・情報工学科 「Cプログラムをためしてガッテン」
- ・土木工学科 「公園の模型をつくろう」

児童達には事前にテーマを知らせて希望をとっており、それだけに皆真剣に実習に臨んでいました。同時にそれぞれのテーマにも工夫が凝らされており、児童達は集中力を途切れさせることなく2時間半の自習に没頭していました。各実習を終えた児童達は、12:00に大講義室に集合し、総括が行われ日程を終了しました。いつもと違う環境で、学校とは一味違う実験実習を行うという今回の体験は、児童達にとって大変刺激的なものであったと考えます。

実習担当の先生方にはテーマの企画から準備、実施まで、ご多用中にもかかわらず快くお引き受けいただき心より感謝申し上げます。またご協力いただいた職員の皆様、技術職員の皆様、学生の皆様にも、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。





学生の皆さんへ

学生主事 岡林 巧

1. 技術者に必要な品格

本校の実践的技術者教育で最も重要な点は、感性の豊かな年齢から技術者教育を始めているところにあります。また、この感性の豊かな年齢にその人の品格がほぼ定着すると考えています。この考えに基づき、学生委員会の学生育成の基本方針として以下の①～④の手順により、技術者に必要な品格向上につながるよう学生の育成援助をそれぞれの場で実践中であります。また、この実践例として下述の学生会、体育祭・文化祭実行委員の前向きな取り組みに対して手ごたえを感じます。



- ① 問題点を収集・分析する。
- ② 問題解決の手段を明らかにする。
- ③ 問題解決をする。
- ④ 問題解決のプロセスを定着させる。

【実践例】

- (1) 都城高専留学生に係る学生会の募金活動（学生会）
- (2) 校内美化活動（学生会）
- (3) 交通安全活動（学生会）
- (4) クラブ活動安全講習会（学生会）
- (5) 体育祭・文化祭実行委員会（各実行委員会）

2. 新型インフルエンザへの対策について

本校開催校の全国高専体育大会ソフトテニス競技は、8月23日に新型インフルエンザ感染者も無く無事終了いたしました。九州・沖縄地区では久留米高専4人、有明高専8人、都城高専1人および沖縄高専13人の感染速報を受けております（8月24日現在）。また、霧島市でも感染者が多数報じられています。

本校では校長を本部長とする「鹿児島高専の新型インフルエンザの危機管理体制・組織」が機構の指示により組織化されていますが、今後休校などの処置が取られることも考慮する必要性が出てまいりました。さらに、鳥インフルエンザなどの毒性の強い新型インフルエンザ対策も必要と考えられます。各位の予防と校内への拡大防止の対策をお願いいたします。

□学級での対応

- 朝、出来るだけ教室の換気をお願いいたします。
- 学校の対策本部からの緊急連絡を受けた時のために、担任への連絡体制（メール、電話、連絡網等）を確認しておいて下さい。
- 日頃より、各自の健康状態を出来るだけ担任に把握してもらっておいて下さい。

□予防として

- 手洗い・うがいを実施して下さい。

正しい手洗いやうがいで自分自身をウイルスから守りましょう。特に不特定多数の人々のいる場所に出かけた場合は、十分な処置が必要です。

- 鼻・のどを乾燥から守りましょう。
インフルエンザウイルスは、湿度に非常に弱いのので、ぬらしたタオルなどを部屋に干す、エアコンの使用を控えるなど工夫をしましょう。
- 人ごみや繁華街への外出は控えましょう。
- 流行地への旅行は避けましょう。
- 十分な休養と栄養を取り、ウイルスに対抗できる体にしましょう。
- マスクを着用して身を守りましょう。

□流行地へ出かける時

- 就職試験・会議などで流行地に出かける際は、必ず事前に担任へ伝え、渡航先では人ごみを避け、マスクを着用するなど予防に心がけましょう。
- 帰鹿後は担任に報告し、保菌者の可能性を考え、1週間はマスクを着用して「鹿児島高専学生自己健康チェックシート」（保健室、学生係および寮務係に常備してあります）を活用して下さい。

□本人・家族が感染の可能性がある場合

- 保健所に電話連絡相談して下さい。
始良保健所：0995-44-7800（霧島市隼人町松永）
霧島市役所：0995-45-5111（保健福祉部健康増進課）
- 「鹿児島高専学生自己健康チェックシート」を活用して下さい。
- 担任にも連絡して下さい。

地域との連携について

学生主事補 濱川 恭央

1. 始良・伊佐地区の鹿児島高専

鹿児島工業高等専門学校は、国・公立、私立合わせて18校の高校がある始良・伊佐地区の高等教育機関の一つです。

鹿児島県教育庁、鹿児島県霧島市警察、鹿児島県警察少年サポートセンター、各国公立、私立の18の高等学校は、現在の学生の周りに起こっている諸問題を挙げ、その問題に対し話し合い、地域での学生（高校では生徒）指導の充実と、諸機関と連携をとっています。

また霧島市教育委員会の下部組織に霧島市立青少年育成センターがあります。このセンターの補導員および補

導委員は、校区代表や有識者、小・中・高等学校関係者などから92名が選出され、青少年の健全な育成と、非行防止、非行の早期発見のため、日頃よりパトロールと補導をしています。

2. 警察からの犯罪報告

連携会議において、霧島市警察署より犯罪、各学校で抱えている問題について話し合いました。

鹿児島高専に関する内容は、既に「犯罪への注意喚起」として校内掲示済みですが、以下に記述いたします。

3. モラルと防犯

(1) 携帯電話のモラル

鹿児島高専は、学生のモラル信じ持ち込み許可、ネット制限なしとなっております。しかし、講義中などの使用が見つかるようであれば学校への持ち込み禁止ということにも繋がります。学生ひとりひとりがマナーに心がけてください。

(2) 自転車の二人乗り

校内でも自転車の二人乗りは禁止です。ましてや学外での自転車の二人乗りは道路交通法違反です。絶対に自転車の二人乗りは行わないでください。

(3) ネットいじめ

インターネットによるいじめ、誹謗中傷、それによる自殺、犯罪に繋がるケースまであります。低学年で実施されているネチケツ（ネットワークでのエチケツ）を守ってください。

(4) 窃盗

スーパー、コンビニでの万引き、財布の置き引き、自転車の窃盗、単車・原付の窃盗、盗めば窃盗罪で、10年以下の懲役か50万円以下の罰金刑で、捕まれば前科もつきます。

特に自転車の窃盗、置き引きは、万引きと全く同じ「窃盗」という意識をもってください。

(5) 犯罪

暴力行為、恐喝、麻薬所持、麻薬の栽培、タバコも未成年の喫煙は法律で禁止されています。この法律を犯すと犯罪者となります。罪を犯さないのは当たり前、犯罪が起きるような場所に行かない、犯罪に合わないよう数名で行動するなど、防犯にも心がけてください。

(6) 自転車運転中の携帯禁止

7月1日から、「県道路交通法施行細則」の新たな規定で、自転車運転中に携帯電話やヘッドホン、イヤホンなどの使用が禁止となりました。違反した場合、「5万円以下の罰金」です。違反しないよう心がけてください。

4. 今後

「君子危うきに近寄らず」という諺があります。

犯罪に対しては、学生一人一人が君子になってくれるよう願っています。

特にものを盗まれた立場（相手の立場）を考え、盗まない。また皆（周囲）の目で盗ませない、鹿児島高専にしたいです。

最後に、学生一人ひとりが楽しい学生生活を送っていくために、地域ぐるみで学生指導を行っていただけるよう、地域と連携し活動していきたいと考えております。

以上

平成21年度 都城高専親善試合

学生主事補 北園 裕一

平成21年5月9日（土）に、第46回都城高専親善試合が開催されました。本校と都城高専にて各競技が開催され、晴天の中、両会場とも白熱したゲームが展開されました。

本校での開会式では、3年前からの試みとして、本校学生会が進行役を努め、運営から挨拶等、大会に学生の主体性を採り入れました。学生会では打ち合わせも数回開き、積極的に活動してくれました。

また、開会式での学生会による進行は、都城高専会場でも行われ、学生主体の行事としてさらに発展してくれようことでしょう。



本校会場では、どの競技も接戦の中、男子バレーボール、硬式野球、卓球、テニスと多くの種目において勝利を収めることができました。さらには、弓道においては団体及び個人戦でも本校学生が上位に入賞しました。

また都城高専会場では、サッカー、水泳、ソフトテニス、女子バスケットボール等が勝利を収めることができました。

鹿児島・都城両会場において、上記のとおり、鹿児島が勝利する種目が多かったことは、日ごろの学生のクラブ活動に対する取組み意識の高さのあらわれであり、7

月に開催される九州大会での好成績が期待される結果となりました。

さらには各競技において、競技力の向上のみではなくスポーツを通して相手校の学生との交流も深められたようで、本大会の大きな目的も達成できたようであります。

特に今年度は、都城高専のモンゴルからの海外研修生でもある、モンゴル科学技術大学のバドさんへ対し、医療支援としまして、本校学生会より募金の贈呈を行いました。新聞記事より募金活動を知り、本校でも募金活動を行い、集まった募金を贈呈したものです。都城高専での開会式において、本校学生会米田会長より、都城高専学生会長へ手渡されると、会場は大きな拍手で盛り上がりました。

翌日、都城高専の学生主事からもお礼の手紙が届き、募金は確実にバドさんのもとへ届いたとの報告もありました。

今後も学生の主体性を活かした運営と、それぞれの学生が自己表現できる場の構築を心掛け、この伝統ある親善試合をより発展・継続していくために、学生をサポートしていきたいものです。



校内清掃について

学生主事補 檜根 健史

本年度から、週1回の校内一斉清掃をやめて、毎日の各クラスでの教室・廊下清掃を中心とした校内美化活動を行うことになりました。この変更の理由として、校内一斉清掃では「作業をしない学生が多く、一斉清掃の意味がない」、「週1日だけの清掃では、その他の曜日に清掃をしなくなる」、「クラスによる温度差が激しく、一生懸命やっているクラスのモチベーションが保てない」などが挙げられます。以上のことから、校内清掃について学生委員会で検討した結果、「校内美化の基本として、まず、自分たちの使う教室を徹底的に清掃させ、清掃する習慣を身に付けさせよう」ということになり、本年度からは、担任の先生の協力も得ながら、同じ教室を使う学生同士で話し合い、清掃作業を進めてもらうことにしました。

このような形で校内清掃を始めて半年が経ちましたが、まだ、自分たちが毎日使う教室でさえもきれいに使えないクラスが多くあります。これをどう考えれば良いのでしょうか。

本校の学習・教育目標に「相手の立場に立ってものを考える技術者」があります。この教育目標は、現在の屈折した個人主義の殺伐とした時代の中で、日本人がかつて持っていた心の温かさを思い起こさせるような、気高く、また、誇れる教育目標だと思います。しかし、この目標を達成させることは難しく、どちらかというと、学生自身が今まで培ってきた感性によって、この目標の達成が左右されるものだと思います。

土の付いた靴で教室に入ると、床が汚れます。これは仕方のないことですが、ここで多くの学生は「今日の掃除当番が清掃するから大丈夫」と考えるでしょう。「自分はこの前の清掃当番の時に清掃したのだから」とも考えるかもしれません。確かにこれは間違った考え方ではありませんが、なんだか淋しい気がします。「相手の立場に立って…」という言葉が、裸の王様のように虚しく一人歩きしているように思えます。

教室は綺麗であった方が良く考える人はいても、汚い方が良く思っている人はいないでしょう。そうであるならば、みんなのためにも綺麗な教室であった方が、誰も嫌な思いをすることは無いと思います。校舎の入り口で、何気なく靴底を拭いてもらえたら、それだけでもクラスの雰囲気が変わるでしょう。

やさしさ。思いやり。それは全て、相手の立場に立ったときに生まれてくるものです。それを気付かせる場として、校内清掃があればと思っています。

交通だより

学生主事補 山田 真義

半年足らずではあるが、交通担当主事補として自分が考えたこと、思ったこと、学生自身に考えてもらいたいことを簡単に書こうと思う。

第一に、学生の自動車、自動二輪、原付、自転車などの登録業務（高専ステッカーの交付業務）である。これは、学生会、学生委員会、学生課の方々に協力していただき、毎年2回実施している。特に隼人駅を利用している学生は、この高専ステッカーがないと長期休みに放置自転車として回収されてしまう可能性があり、回収されてしまった場合、引き取るには2,000円または半年経過後には処分されてしまう。このことを考えると本校に乗り入れるための高専ステッカーではなく、隼人駅で放置自転車と見なされないための高専ステッカーという認識が高くなるのではないかと思う。車両通学をしている学生には、自分の乗っている自動車や二輪車が安全運転に支障がないか、考えて欲しい。例えば、自転車のブレーキの効きは甘くないか、電気はつくかなど、定期的に自分自身でチェックするなり、自転車屋さんなどの専門家にチェックをしてもらうなどしてもらいたい。それは、なぜかと言ったら自分の身を守る、相手を傷つけないためである。学則の面から書くと、交通に関係する本校の指導及び懲戒は、全10号のうちの4つに該当する（間接的なものも含む）。第3号の車両使用違反、第4号の交通事故及び交通法規違反の軽微なもの、第5号の交通事故及び交通法規違反の重大なもの、自転車の窃盗も含めれば、第7号の窃盗または無断借用がある。第3号、第4号は嚴重注意から始まり、3回目の発覚で停学1週間となる。第5号、第7号は、1回目から停学1週間以上になることを覚えていて欲しい。なぜ、学則に交通の罰則があるのか？

第二に、交通安全講習会の実施である。1年に2回、低学年と高学年に分けて行っている。「そんな講習会受けたっけ？」と言う学生は、次年度からしっかりと受けて欲しい。自分たちが事故に遭わないように交通安全について学ぶための講習会である。霧島市役所や霧島警察署の方も本校まで来て講習会を開き、交通事故を減らそうと努力している。これに応えられるような学生になってもらいたい。なぜ、この交通安全講習会を毎年行うのか？

第三に、二輪車実技講習会である。この二輪車実技講習会は、自動二輪車及び原付で登校を認められた学生に対し、実施する講習会である。講習会は、土曜日の午後から半日、毎年、国分隼人自動車学校にお世話になっている。実技講習に入る前に学生が普段乗っているバイクのブレーキなどの点検、自賠責保険の有無の確認、実技講習では、急制動、一本橋、スラローム、危険予測な

ど、改めて学び技術の向上を行っている（写真）。私の立場から見ていると非常に良い講習会であると思うが、学生の立場からしてみるともしかしたら「何でこんなことをしなければいけないのか？」と思っている学生もいるかも知れない。なぜ、この講習会を毎年行うのか？

最後に、今までの全てに共通する交通安全・通学マナーである。隼人駅からファミリーマート周辺の交通マナーが悪いと電話などで苦情が寄せられる。その対応はどこがしているのか？学生課である。一部の交通法規を守れない、交通マナーが悪い学生は気付いて欲しい。自分がしたことでないのに頭を下げている人がいることを。隼人駅を利用する学生は、大半が学校に間に合う時間の電車を通うため、大多数が特定の時間の電車に乗って通っていると思う。それらの学生が、まとまって通学するわけだから見た目も交通マナーも悪く思われるのは仕方がない。ただ、信号無視や踏切の遮断機が下りてきているときに無理に線路を渡る、二人乗りをしているなどの行為は許されるべき行為ではない。本校の学習・教育目標の4番目には、「相手の立場になってものを考える技術者」と書かれている。この言葉は将来的な意味（5年卒業時までには達成すべき内容）であるが、学生一人一人は今現在実社会で生活している以上、法律（ここでは、道路交通法）を守り行動しなければ、自分自身に罰が降りかかることになる。また、20歳未満であれば、自分の親にも責任が及ぶことを忘れないで欲しい。「大勢いるから怖くない」とか「自己中心的」な行動は慎み、「相手の立場」に立ってものを考え、自分自身が傍迷惑（はためいわく）な人間にならないように気を付けましょう。なぜ、通学に関する交通マナーのことまで言われるのか？

今までの全ての「なぜ？」に共通することは、自分、他人を含め人の命に関わることだからだと私は思っていますが、これを読んだ学生はどのように思いますか？



写真 二輪車実技講習会の風景

鹿児島・都城高専親善試合結果

鹿児島高専会場 平成21年 5 月 9 日 (土)

競技種目	試合結果	鹿児島
陸上	総合点 ○ 都城 (1 7 2 - 1 5 2)	鹿児島
硬式野球	第1試合 △ 都城 (2 - 2) 第2試合 ○ 都城 (1 - 4)	鹿児島
男子バレーボール	第1試合 ○ 都城 (2 5 - 1 9) 第2試合 ○ 都城 (1 8 - 2 5) 第3試合 ○ 都城 (2 2 - 2 5)	鹿児島
女子バレーボール	第1試合 ○ 都城 (2 5 - 1 2) 第2試合 ○ 都城 (2 5 - 5) 第3試合 ○ 都城 (-)	鹿児島
卓球	◆ 団体戦 第1試合 ○ 都城 A (3 - 1) 第2試合 ○ 都城 B (2 - 3) 第3試合 ○ 都城 C (0 - 3) 第4試合 ○ 都城 D (0 - 3) ◆ 個人戦 1 位 野辺(都城) 2 位 松元(都城) 3 位 橋口(都城) 3 位 釜付(都城)	A B C D 鹿児島 鹿児島 鹿児島 鹿児島
テニス	◆ 男子団体戦 第1試合 ○ 都城 (0 - 3) 第2試合 ○ 都城 (1 - 2) 第3試合 ○ 都城 (3 - 0)	鹿児島 鹿児島 鹿児島
柔道	◆ 団体戦 第1試合 ○ 都城 (4 - 1) 第2試合 ○ 都城 (5 - 0)	鹿児島 鹿児島
弓道	◆ 男子団体戦 第1試合 ○ 都城 (1 1 - 9) 第2試合 ○ 都城 (8 - 1 0) 第3試合 ○ 都城 (9 - 1 2) ◆ 女子団体戦 第1試合 ○ 都城 (0 - 5) 第2試合 ○ 都城 (1 - 4) 第3試合 ○ 都城 (2 - 6) ◆ 男子個人戦 1 位 児島 成文(鹿児島) 2 位 泊 悠太(鹿児島) 3 位 本庄 健寛(都城) ◆ 女子個人戦 1 位 上野 瑞依(鹿児島) 2 位 西田 芽依(都城) 3 位 増元あずみ(鹿児島)	鹿児島 鹿児島 鹿児島 鹿児島 鹿児島 鹿児島 鹿児島 鹿児島

都城高専会場 平成21年 5 月 9 日 (土)

競技種目	試合結果	都城
サッカー	第1試合 ○ 鹿児島 (3 - 0) 第2試合 ○ 鹿児島 (2 - 1) 第3試合 ○ 鹿児島 (4 - 0) 第4試合 ○ 鹿児島 (0 - 0)	都城 都城 都城 都城
ハンドボール	第1試合 ○ 鹿児島 (1 0 - 8) 第2試合 ○ 鹿児島 (8 - 5) 第3試合 ○ 鹿児島 (6 - 4) 第4試合 ○ 鹿児島 (7 - 4) 第5試合 ○ 鹿児島 (6 - 7) 第6試合 ○ 鹿児島 (1 1 - 5)	都城 都城 都城 都城 都城 都城
男子バスケットボール	第1試合 鹿児島 (7 4 - 8 6) 第2試合 鹿児島 (4 4 - 4 6) 第3試合 鹿児島 (1 7 - 2 9) 第4試合 ○ 鹿児島 (1 8 - 1 8) 第5試合 ○ 鹿児島 (3 7 - 3 9) 第6試合 ○ 鹿児島 (2 0 - 2 3)	都城 都城 都城 都城 都城 都城
女子バスケットボール	第1試合 ○ 鹿児島 (3 3 - 3 0) 第2試合 ○ 鹿児島 (2 2 - 1 0)	都城 都城
バドミントン	第1試合 鹿児島 (1 - 2) 第2試合 鹿児島 (1 - 2) 第3試合 ○ 鹿児島 (3 - 0)	都城 都城 都城
ソフトテニス (男子)	第1試合 ○ 鹿児島 A (3 - 0) 第2試合 ○ 鹿児島 B (2 - 1) 第3試合 ○ 鹿児島 A (3 - 0) 第4試合 ○ 鹿児島 B (3 - 0) ◆ 個人戦 (男子) 1 位 三浦・有満 (都城) 2 位 濱園・平谷 (鹿児島)	A B A B 都城 都城 都城 都城
ソフトテニス (女子)	第1試合 ○ 鹿児島 (3 - 0) 第2試合 ○ 鹿児島 (3 - 0)	都城 都城
剣道	第1試合 鹿児島 (3 - 8) 第2試合 鹿児島 (4 - 9) 第3試合 鹿児島 (1 - 3) 第4試合 鹿児島 (2 - 3) 第5試合 ○ 鹿児島 (4 - 1)	都城 都城 都城 都城 都城
水泳	総合点 ○ 鹿児島 (3 7 6 - 1 2 8)	都城

◎第44回全国高等専門学校体育大会

(1) テニス

開催日：平成21年 8 月26日～28日

会場：熊本県民総合運動公園パークドーム

結果：団体戦 3 位

個人男子ダブルス 3 位

(2) 陸上

開催日：平成21年 8 月18日～19日

会場：宮崎県総合運動公園陸上競技場

結果：800m 4 位

4 × 400mR 3 位

(3) ソフトテニス

開催日：平成21年 8 月22日～23日

会場：霧島市国分運動公園テニスコート

結果：団体戦 予選敗退

個人の部 (男子) 3 位

個人の部 (女子) 2 回戦敗退

(4) 水泳

開催日：平成21年 8 月23日

会場：宮崎県総合運動公園水泳場

結果：自由形800m 6 位

背泳ぎ200m 6 位

(5) サッカー

開催日：平成21年 8 月22日～25日

会場：熊本県営八代運動公園陸上競技場 外

結果：初戦敗退

(6) 男子バスケットボール

開催日：平成21年 8 月22日～23日

会場：宜野湾市立体育館

結果：団体戦 予選敗退

(7) 男子バレーボール

開催日：平成21年 8 月22日～23日

会場：佐世保市立体育文化館

結果：団体戦 予選敗退

◎第31回全国高等専門学校通信弓道大会

開催日：平成21年 6 月28日

会場：都城市体育文化センター弓道場

結果：男子団体 準優勝

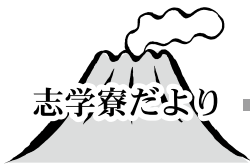
男子個人 準優勝

◎第46回

九州沖縄地区国立工業高等専門学校体育大会等結果

種目	成績	団 体 戦		
	1位	2位	3位	
陸上競技	佐世保高専	鹿児島高専	都城高専	
ソフトテニス	鹿児島高専	八代高専	熊本電波高専	
バドミントン	有明高専	北九州高専	都城高専	八代高専
水泳	有明高専	八代高専	久留米高専	
ハンドボール	八代高専	北九州高専	熊本電波高専	
硬式野球	北九州高専	久留米高専	八代高専	大分高専
バスケットボール(男子)	久留米高専	鹿児島高専	佐世保高専	沖縄高専
バスケットボール(女子)	有明高専	沖縄高専	八代高専	北九州高専
卓球	有明高専	都城高専	鹿児島高専	
剣道	北九州高専	佐世保高専	八代高専	大分高専
サッカー	鹿児島高専	佐世保高専	都城高専	熊本電波高専
柔道	大分高専	熊本電波高専	久留米高専	
バレーボール(男子)	佐世保高専	鹿児島高専	都城高専	大分高専
バレーボール(女子)	佐世保高専	有明高専	都城高専	大分高専
テニス(男子)	鹿児島高専	大分高専	北九州高専	都城高専
西日本地区弓道大会	松江高専	有明高専	熊本電波高専	
西日本地区空手道大会	北九州高専	大島商船高専	大分高専	
九州沖縄地区英語弁論大会				

種目	成績	個 人 戦		
	1位	2位	3位	
陸上競技	100m: 黒江拓也	走高跳: 大園晃平	200m: 松浦慎仁	
	200m: 中島祐太郎	砲丸投: 市野拓郎	400m: 松浦慎仁	
	400m: 中島祐太郎	4×100mR: 中島・黒江・松浦・大坪	800m: 田崎力也	
	4×400mR: 松浦・黒江・田崎・中島			
ソフトテニス			個人: 男子 森永・竹下組 個人: 女子 山元・今蜜組、 西田・塚田組	
バドミントン				
水泳	男子800m自由形: 西川炎哲	男子200m背泳: 西川炎哲	男子100m自由形: 豊田大輝	
		男子100m平泳: 荻原大貴		
		男子400m自由形: 中村彰		
ハンドボール				
硬式野球				
バスケットボール(男子)				
バスケットボール(女子)				
卓球				
剣道				
サッカー				
柔道				
バレーボール(男子)				
バレーボール(女子)				
テニス(男子)	シングルス: 田上康平	シングルス: 倉山直晃	シングルス: 内門大地、 亀澤祐樹	
	ダブルス: 田上・内門組	ダブルス: 内門・亀澤組	ダブルス: 追立・倉山組	
西日本地区弓道大会	女子: 上野瑠依			
西日本地区空手道大会				
九州沖縄地区英語弁論大会			暗唱の部: 高年禮綾	
		弁論の部: 岩元あすみ		



志学寮・雑感

寮務主事 南金山 裕弘

志学寮の各居室にエアコンが設置され、本校でのセメスター制度が開始されてから、今年で3年目となります。8月のお盆の週を境に、前期と後期に分割するのですが、今年は行事日程の関係から4月1日に入学式を行うことになり、志学寮もその日に開寮しました。

私事ですが、昨年10月1日に教授に昇任し、その2ヵ月後の12月には校長より寮務主事の打診を頂き、年度末のわずか3ヶ月ほどで新年度の体制を整えなければならぬという過酷な状況でした。幸いにして、4人の寮務主事補の先生方のご協力をもらい、加えて、ヤル気と行動力を兼ね備えた寮生会の役員たちにも恵まれ、何とか平成21年度の志学寮の体制を準備することが出来ました。

私は、鹿児島高専に着任以来、3度の寮務主事補を経験しましたが、当然、寮務主事は初めての経験であり、しかも、ここ4年ほど寮務関係から遠ざかっていましたので、志学寮の様子も寮生の気質もちょっと変わったものになっているように感じます。そんな中、現在、学生主事である岡林教授とは、6年前に岡林寮務主事の下、私が寮務主事補で共に働いた関係から、学生主事↔寮務主事の緊密な連絡を取るようになっており、4年間のブランクを負としない状況を作り出すように心掛けています。

さて、今年の志学寮の様子を少しお伝えします。4月1日の入学式の後、新入生の入寮式を行い、志学寮で生活する意義を保護者の方々並びに新入生たちに話をし、翌2日の始業式では、寮外生に無断入寮しないように伝えました。4日の土曜日には学寮リーダー研修（寮生会役員及び各棟班長による寮運営についての研修会）を行い、寮生からの要望や意見をもらいました。その要望や意見をもとに、早速対応できるものについては学生支援係長に伝え、設備の不備の改善や新規設備を設置して頂きました。少しでも寮生たちが生活しやすいように、改善すべき点は速やかに対応していくことを第一に考え、新年度が始まる前の春休み中には、各居室のベッドと机を新しいものと入れ替えています。

授業が始まるとともに、上級学年の寮生の生活は落ち着いて来ましたが、新入生たちはまだ落ち着かない様子で、夕方に寮務係事務室に居ると、多くの新入生がいろいろ質問しにやってきました。「寮生活の手引き」に書かれているような事柄から、これから少しずつ説明していこうと考えている先の事まで、それは様々です。中には、そんな事まで説明をしないと分からないのかと思うような常識的な事柄も多くて、いかに過保護な環境で育てられたのかを思い知らされました。

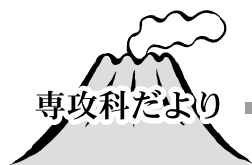
中間試験を受ける頃には、新入生も次第とその個性を見せ始め、志学寮全体でも少しずつ問題が見え始めまし

た。特に、今年度は新型インフルエンザの対応で振り回されました。幸いにして、本校及び志学寮での発生はありませんでしたが、朝、高熱発者の報告を受ける度に、関係各所への連絡、病院への手配など、もうそれだけで一日の仕事を終えたような気分になりました。他にも、自転車盗難など、寮を経験したことのある人なら、やっぱり思うことが目白押しです。5年生などは、就職活動も終わりに近づき、残るは大学への編入学試験を目指すのみといったところでしょうか。

7月に入ると、九州・沖縄地区高専体育大会に向けて、それぞれの部活動が活発になり、それと共に、寮生たちはムシ暑さとの戦いに入りました。各居室にエアコンが設置されたとは言え、電気料金を考えてか、点けっ放しというわけにもいかず、そうかと言って窓を開けて寝ると、朝の冷え込みで風邪をひく。部活動の練習で体力が落ちている状況での、この寮生活は、新入生にはちょっと厳しい夏だったようで、体調不良を訴える寮生が毎日のように続きました。中には、入院する者まで出る始末です。この暑い鹿児島には、セメスター制度は不向きなのかも知れません。

8月の前期末試験に向けて、7月末からは学寮チュートリアルを実施しました。8年前、昨年急逝された中島寮務主事が創められた制度（上級生が低学年生の試験勉強をサポートする）です。都合により昨年度の後期は実施されませんでしたが、今年度は前期・後期の期末試験前に実施することになっています。

さて、最後に…今は夏季休業中で、寮生はみんな思い思いの夏を過ごしていることでしょう。10月になって、また会えるのが楽しみです。卒業生のみなさんも、こんな志学寮を久しぶりに訪れてみませんか？



もっと勉強したい 学生のための「専攻科」

専攻科長 原田 治行

今回は、みなさんの今後の進路の参考にしてもらうために、専攻科の特長について説明をします。

専攻科は、本科の5年間の専門教育を終えた後、さらに高度な専門の技術や知識および環境に関する知識を身につけたい人や、研究をさらに続けたい人のための2年間の課程です。

機械工学科と電子制御工学科の学生は機械・電子システム工学専攻に、電気電子工学科と情報工学科の学生は電気情報システム工学専攻に、土木工学科の学生は土木工学専攻に進学することになります。

大学を卒業すると学士という学位が授与されますが、本校でも専攻科修了と同時に学士を取得することができます。本科卒業後、学士取得までの費用を、国立大学3年に編入学後に大学を卒業する場合と、本校専攻科を修了する場合の二つのルートで比較したものを表1に示します。国立大学の3年生に編入学するよりも専攻科に進学するほうが約80万円も節約できます。

表1 学士取得までにかかる費用の比較

学士取得までのルート	授業料 (円)	入学科 (円)	計 (円)
国立大学3年編入→卒業	1,071,600	282,000	1,353,600
専攻科入学 → 修了	469,200	84,600	553,800

専攻科を修了後の進路は、エンジニアとして企業に就職するか、さらに高度な学問を修めるために大学院に進学するかを選択することができます。

本科で実践的教育を受け、さらに専攻科では特別研究指導教員から研究方法の指導を受け、その成果を論文としてまとめて学会等で発表している専攻科生は、企業や大学院から高く評価されています。

そのため、就職に関しては、平成20年度の本科の求人倍率は24.9倍であるのに対して、専攻科の求人倍率は39.0倍です。また、大学院への進学に関しては平成20年度の進学率は29.2%です。「専攻科の近況」で述べているように、毎年、大学院から先生が来校され入試説明会を開催しています。大学院へ進学する学生のほとんどが推薦で合格しています。表2、3に、それぞれ、過去3年間の主な就職先と進学先を示します。

もう一つの特長は、大学4年間に相当する本科4、5年と専攻科1、2年の4年間の技術者教育が、国際的水準を満たした教育プログラムであることを、2003年度(平成15年度)に日本技術者認定機構(JABEE: ジャビーと呼びます)から認定されています。昨年、認定継続審査を受けて、2013年度(平成25年度)まで認定が継続され

ました。

今後、仕事グローバル化するにつれて、海外で働く機会が増えてきますが、その時に有利です。そのために、JABEE修了証書は英文のものも授与されます。従って、修了要件として、TOEIC400点以上または、英検準2級以上または、工業英検3級以上の取得を義務付けています。これは、最低の条件ですので、専攻科を目指す学生諸君は、入学時点でこの基準をクリアするように、英語の勉強にも力を入れて欲しいと思います。専攻科を修了時には、ワンランクアップの資格を取得して欲しいものです。

また、このプログラムを修了すれば、技術士の1次試験が免除され、技術士補となることができ、実務経験の後に技術者としての最高の資格である「技術士」の試験を受験することができます。

このように、専攻科へ進学すれば、さらに未来が開けます。もっと勉強したいと思う学生諸君は、専攻科への進学を目指して下さい。

また、43～45ページあたりに掲載されている専攻科を修了して就職や大学院に進学した先輩の記事を、ぜひ読んで下さい。

表2 過去3年間の主な就職先

★機械・電子システム工学専攻
富士通(株)、トヨタ車体(株)、(株)トヨタ車体研究所、本田技研工業(株)、川崎重工(株)、(株)アルバック、ソニーセミコンダクタ九州(株)
★電気情報システム工学専攻
富士通(株)、(株)日立製作所、本田技研工業(株)、第一生命情報システム(株)、パナソニックセミコンダクターオプトデバイス(株)、京セラコミュニケーションシステム(株)、デンソーテクノ(株)
★土木工学専攻
JR九州(株)、(株)大阪ガス、(株)熊谷組、(株)九電工、(株)KDDIテクニカルエンジニアリングサービス、(株)南生建設、大豊建設(株)

表3 過去3年間の主な進学先

★機械・電子システム工学専攻
東京大学大学院、名古屋大学大学院、長岡科学技術大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学、九州大学大学院、九州工業大学大学院、早稲田大学大学院
★電気情報システム工学専攻
北陸先端科学技術大学院大学、九州大学大学院、九州工業大学大学院、鹿児島大学大学院
★土木工学専攻
東北大学大学院、熊本大学大学院、福岡大学大学院

専攻科の近況

土木工学専攻長 堤 隆

本年度は機械・電子システム工学専攻に13名、電気情報システム工学専攻に10名、そして土木工学専攻に7名の新生を迎えることが出来ました。専攻科の在籍学生総数は54名です。以下、専攻科の近況について簡単にご報告いたします。

(1) 専攻科生連絡・交流スペースの設置

本科にはクラスごとに教室が割り当てられており、朝のホームルームで担任の先生が学生の皆さんへ連絡を行っています。しかし、専攻科の学生に対してはこれらがなく先生方や事務職員の方々および専攻科の学生の皆さんにはご不便をおかけしておりました。そこで、今年度より専攻科棟2階に専攻科の学生専用の「専攻科生連絡・交流スペース」を設けました。ここには、全専攻共通の掲示板と専攻ごとの掲示板を設置しています。また、学生ごとにメールボックスも用意しており、プリントでの事務連絡や学校に届いた専攻科生個人宛の郵便物を入れるようにしています。専攻科の学生の皆さんは必ず一日に一度は掲示板とメールボックスを確認してください。ソファやテーブルも設置していますので、授業や研究の合間の休息や昼食時に大いに利用してください。

(2) 大学院説明会の開催

4月20日に九州大学大学院総合理工学環境理工学専攻など5専攻から、4月27日に東京大学大学院新領域創生科学研究科人間環境学専攻から先生がお見えになり本校専攻科の学生を対象に入試説明会を行っていただきました。専攻科修了生がこれほどまでに期待される理由は、普通科の高校から大学に入学した学生とは異なる知識や視野を持っており、双方が刺激を受け合うことでともに一回り大きな人材へと成長することが期待されているからです。国立大学工学部の学生の多くは大学院（前期課程＝修士課程）へ進学し、九州大学や東京大学の工学部では大学院へ進学する学生が7割から8割にも達しています。科学技術が進展した今日、大学院は研究者を目指す人だけが行くところではなく、会社の中核を担うエンジニアを目指す人が進学する教育機関でもあります。本科の学生で大学院への進学を希望する人は、大学への編入学だけでなく本校専攻科への進学も検討してみてください。

特別研究の紹介

機械・電子システム工学専攻2年 森山 卓

私が、本科の五年次・専攻科での二年間で行っている研究はピッチング運動とヒービング運動が組み合った運動を行う運動翼の非定常推進力特性というものです。簡単に説明すると、流れがある水中で魚の尾ひれのような形をした翼を運動させることにより、どのような力が働き、どのような特性を持つかを調べることです。自然界において、昆虫や水棲生物は、自らの羽や尾ひれを動かすことで自身のまわりに発生する渦を巧みに利用し、遊泳・飛翔を行っていることが知られています。

このように昆虫や水棲生物が水中を移動するためには、渦というものが重要となっています。この渦のことを流体力学の言葉で、「カルマン渦」と言います。次の図でカルマン渦による影響について説明します。図1のような回転方向を持つ渦をカルマン渦、それと逆の回転方向を持つ図2のような渦を逆カルマン渦といいます。流れがある水中で静止している物体の後方にはカルマン渦が、運動している物体の後半には逆カルマン渦が発生します。逆カルマン渦ではその回転方向により渦の後方に左右の矢印で示してあるように翼に対して後ろ向きの流れが生じます。この後ろ向きの流れが物体に推進力として働きます。私の研究では、このカルマン渦がとても重要となっています。

近年、MEMS（超微小構造の電子機器システム）技術の発達に伴い、MAV（小型飛翔ロボット）や、水棲生物の遊泳や昆虫の飛翔のメカニズムを模倣した惑星探査や災害時の人命救助などを目的とする小型遊泳・飛翔体の開発、地球温暖化抑制策のために、風力発電などの再生可能エネルギーシステムが注目をされており、これらのシステムで用いられている運動翼の高効率化が求められている背景からこの研究が必要とされています。

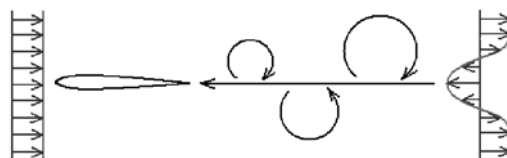


図1. カルマン渦

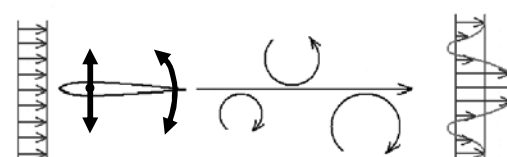


図2. 逆カルマン渦

レーザーカオス光を用いた テラヘルツ波の発生

電気情報システム工学専攻2年 野中 孝樹

私の研究は「暗黒の電磁波帯」であるテラヘルツ帯光源の開発です。

現在私たちの身の回りにではさまざまな電磁波が利用されています。たとえばTV、ラジオあるいは携帯電話など、これらは周波数が違うだけで、同じ電波と呼ばれる電磁波です（ $\sim 10^9$ Hz程度）。また、知っている人も多いと思いますが、一般に光と呼ばれているものも電磁波の一種です（ 10^{14} Hz程度）。

大雑把に電磁波を分けると、光と電波に分けられます。これらは本質的には同じなのですが、電波から光までを連続的に発生させることができないため、この電波と光の境界領域をテラヘルツ波帯と言います。

さて、このテラヘルツ波を何に使うのか？一つは高速無線通信に利用できます。他にも、分光分析という物質を調べる用途にも活用できます。物質は原子でも分子でも固有の周波数を持っており、分子の回転エネルギーや振動エネルギーに対応したスペクトルを観察することで物質の電子状態を知ることができます。このように人間の利用できる周波数帯が広がることは、そのまま人類の科学的な視野の拡大に直結します。そのため、テラヘルツ波発生装置はサイエンスを切り開く新しいツールとしても期待されています。

従来、このテラヘルツ波発生は技術的に難しい問題でした。しかし、近年の光ナノテクノロジーの発展とともに、このテラヘルツ帯研究も盛んに行われ、様々なテラヘルツ発生方法が考案されています。その中で私たちの研究室では、レーザー光の光ビート（差周波）を利用した方法を用いています。

光ビートとは周波数のわずかに異なる光波の重ね合わせによって発生する現象の一つです。周波数の異なる二つのレーザー光を半導体上で重ね合わせ、そのときの周波数の差がだいたいサブテラヘルツ程度になるので、これを取り出して利用するというのが私たちの行うテラヘルツ波発生原理になります。

光学実験は、部屋の中で行うので文字通り暗中模索の実験です。やっていることはかなり地味です。しかし、研究者は眼ではなく、心眼でものごとを見るのだと言われています。私はまだ修練が足りないので波長800nm以上の光は見えません。しかし、いずれは心眼で赤外光をとらえられるように日々精進していきたいと考えています。

異方性弾性円柱への圧裂試験に 対する理論解

土木工学専攻2年 岩下 寛

私たちの研究室は1名の専攻科生、4名の本科5年生が配属されており、複素座標上で定義された関数を使って力学の問題に対する理論解を導き、数値計算によって妥当性を検証しています。近年、力学の問題は市販の有限要素法などを用いたソフトウェアで計算を行うことがほとんどですが、私たちの研究では導いた理論解をコンピュータ言語に置き換えてプログラムの開発も行っています。プログラムはわずかなミスがあっても動いてくれません。完成したと思っても、それからのバグ探しが大変です。研究に行き詰ったときは、たびたび指導教官の研究室まで赴き、自分の理解できなかった専門知識やプログラムに対して指導していただいています。それだけに実際にプログラムが正しい数値を計算したときの喜びもひとしおです。

ちなみに私は「異方性供試体に対する圧裂試験によって生じる引張応力の理論解による解析」を行っています。コンクリートなどの等方性（すなわちどの向きに力をかけても同じように縮む）の脆性材料（力をかけてもほとんど変形しないでいきなり壊れる材料）に対する引張強度は圧裂試験（円柱を横倒しにして上下から圧縮を行う試験）によって求めることができます。これは載荷軸に沿って一様な引張応力が発生し、また脆性材料は圧縮よりも引張に弱い性質を利用したものです。しかしながら、向きによって弾性係数が異なる（すなわち押す方向によって縮み方が異なる）硬い岩などの異方性材料では引張応力の分布は等方性の場合とは異なったものとなります。さらに、同じ材料でも力かける方向によって発生する引張応力の分布は異なります。そこで、異なる弾性係数や力を加える方向を変えて解析を行ない、これらが引張応力に対しどのような影響を与えるのかを明らかにしようとする研究です。一昨年修了された上堀内さんは奥行きのない円板に対する圧裂試験を行いました。私はその解を基に実際の圧裂試験の状態に近い奥行きのある円柱について理論解を導き、数値計算で解の妥当性を検証しています。成果の一部は岩盤力学の問題に適用され、1月に東京で行われた「岩盤力学に関するシンポジウム」でも発表されました。

この研究室を修了された4名の先輩は全員国際会議で成果を発表されました。私も9月にラスベガスで行われた国際会議ISEC-5へ原稿を投稿し発表の許可も下りていたのですが、残念ながら新型インフルエンザの流行のため渡航を断念しました。

今後とも更なる問題追求を目指して、私を含めて研究室メンバー一同、研究活動に励んでいきます。

地域共同テクノセンター報告

地域共同テクノセンター長 芝 浩二郎

鹿児島高専の「地域共同テクノセンター」は、地域の企業や行政機関などと連携し、地域企業との共同研究や技術相談、地域企業の技術者の人材育成事業・リフレッシュ教育、本校学生に対する地域企業との協同教育（インターンシップ）などを行うための拠点施設です。本校がこれまでに蓄積した技術開発や研究成果を元に、共同研究、技術相談、技術者教育を集約的に行うことにより、地域の技術力を高め、地域産業の振興・活性化を助長し、地域の経済力の向上に貢献することを目的としています。

本センターは「地域交流部門」、「共同研究部門」、「創造工房部門」、「研究促進部門」の4部門を設け、地域の中小企業及び行政と連携して、共同研究や技術相談、技術者の再教育機能を強化し、産学官連携機能や地域の活性化を図っています。また、ものづくり基盤技術の教育研究機能を高め、より高度な専門性、創造性を持った実践技術者の養成も図っています。すなわち、本センターは研究機能と教育機能とを融合させて、その一元化を図っていることに特色があります。

平成21年度の地域共同テクノセンターは、センター長、上述の4部門の部門長4名、およびテクノセンターの各部門を支援する産学官連携コーディネーター2名を中心に運営しています。今後、「地域に技術で貢献」を合言葉に、テクノセンターの活動をより活発に行っていく所存です。

産学官連携による 長期インターンシップについて

産学官連携コーディネーター
中原 義毅、遠矢 良太郎

本校は将来の技術社会を支えるだけでなく、さらに強ちに推進することのできる創造型技術者の教育・育成をその使命として日夜努力しています。そのための有力な方策としてインターンシップが一部実施されてきていました。インターンシップとは「企業における就業体験」であって、企業との連携によって「学生が在学中に自分の専攻・将来のキャリア」に関連した業務を実体験する体験重視型専門教育です。

本校では、内容保教授をグループ長とした「連携教育WG」で本校の目指すべき長期インターンシップの方向性の検討を重ねてきましたが、平成21年3月に最終答申

として取り纏めています。

長期インターンシップの実施については、本校の教育カリキュラムとの関係、受入れ企業との信頼関係構築、学内各部門の理解と協力体制、派遣学生に関する諸課題等について詳細な検討をすることによって、目的とする有意義な成果が得られることとなります。

WGでは、従来までの短期インターンシップの実績と課題、単位との関係、参加学生の意見等について詳細な検討を重ねました。

今後具体的計画の策定については、学内諸部門との調整を重ね、実効のある長期インターンシップを構築すべく努力します。

産学官連携推進会議と 全国高専テクノフォーラム

副センター長・地域交流部門長 中村 格

本校では、本校の産学官連携に関する活動を全国の関係者の皆さまへ紹介することができる絶好の機会として、毎年、「産学官連携推進会議」と「全国高専テクノフォーラム」へ参加しています。本年も参加して参りましたので、ここにご紹介致します。

■第8回産学官連携推進会議

本年は、平成21年6月20日～21日、国立京都国際会館（京都市）におきまして、「オープンイノベーション型の産学官連携による新たな挑戦 ～環境・資源制約などの世界が直面する様々な制約への対応を成長の糧に～」をメインテーマに開催されました。

本校からは、高専機構知的財産本部ブース（国立高専の食品関連技術 ～全国の特産物と高専技術のコラボ～）に「きのこ生産を核とした焼酎粕乾燥固形物の他用途再生技術（土木工学科 山内正仁先生）」、九州・



鹿児島高専ブースの展示風景
（於 国立京都国際会館 イベントホール）

沖縄地区10高専ブース（九州・沖縄地区10高専の人間・環境テーマに関する研究開発）に「廃棄物を主原料としたエコ混合セメントの開発（土木工学科 前野祐二先生）」、鹿児島高専ブースに「錦江湾テクノパーククラブの活動および中小企業人材育成事業」を出展、紹介致しました。

■第7回全国高専テクノフォーラム

本年は、平成21年8月6日～7日、アルファあなぶきホール（高松市）におきまして、「高専パワー全開への軌跡、そして未来へ」をメインテーマに開催されました。

本校からは、全体パネル討論（高専、農林水産連携への挑戦 — 1次産業と2次産業の新たな連携・融合—）で、「きのこ生産を核とした食品廃棄物の多用途再生技術」と題して、土木工学科 山内正仁先生が話題提供され、口頭事例発表（環境・エネルギー問題への取り組み）で、「各種廃棄物焼却灰を主原料とした環境低負荷型混合セメントの開発」と題して、土木工学科 前野祐二先生が発表されました。また、ポスター展示へ「自動車・電子関連産業が求める『メカトロニクス技術者』人材育成講座（経済産業省 平成21年度 人材養成等支援事業（地域企業立地促進等事業費補助金））」、「もの



全体パネル討論で話題提供される山内正仁先生
（於 アルファあなぶきホール 小ホール）



口頭事例発表で発表される前野祐二先生
（於 アルファあなぶきホール 小ホール）

づくりを通した『低炭素社会に貢献できる問題発見型技術者』人材育成講座（全国中小企業団体中央会 平成21年度 ものづくり担い手育成事業（ものづくり分野の人材育成・確保事業））」、「きのこ生産を核とした焼酎粕乾燥固形物の他用途再生技術（土木工学科 山内正仁先生）」を出展、紹介致しました。

共同研究について

共同研究部門長 前野 祐二

本年度より共同研究部門長を拝命しその業務にあたるようになりました。本部門は共同研究の推進が主たる担当であります。本校は、高等教育機関として高専の地域への貢献や産学連携の重要性が高まっています。本年度も例年と同様に「地域に技術で貢献」をスローガンに掲げ、地域の企業との連携や貢献を重点的に行っています。例えば、平成21年4月に、ドラマテック！九州経済in鹿児島展（主催（財）九州経済調査協会）で展示ポスターや研究事例紹介を行うなど、錦江湾テクノパーク（KTC）例会、高専IT関連シーズ発表会、鹿児島ITフェスタを鹿児島市、霧島市で行い、産官学の意見交換会を数多く行う予定であります。また、毎年技術シーズ集を発行し、錦江湾テクノパーククラブ（KTC）会員企業などを紹介し、地域社会・地域経済界との協力関係を築いています。

県内に留まらず、高専機構や他大学・高専、県外の企業との連携推進を図るため産学官連携推進会議（京都府）、全国高専テクノフォーラム（香川県）、南九州発新技術説明会（東京）に参加し、本校の技術紹介と意見交換会を行い、本校教員と企業との連携研究の推進をしています。

本年度の新たな試みとして、本校テクノセンターの地域共同・受託研究室の設備による受託試験等を推進し、地域の中核施設としての充実を活動目標としています。以上のような活動を本年度実施して参りますので、今後ともご理解ご協力の程よろしく願いいたします。

「ソフトプラザかごしま」での活動について

研究促進部門長 玉利 陽三

ソフトプラザかごしまは、情報関連企業の育成支援や中小企業の情報化、情報関連企業の誘致などを促進する

ための拠点施設として平成13年に開設されました。開設当初より本校は「鹿児島高専産学官連携推進室」として入居しており、技術相談、共同研究、産学連携等の打ち合わせ等で利用しております。

ソフトプラザ鹿児島では、鹿児島市が主催して年に数回、産学官共同セミナーが開催され、そのうちの1、2回は、本校教員を講師として実施されております。昨年度は、平成20年11月21日に本校情報工学科の入江先生に「IPv6は普及期に突入か??鹿児島工業高等専門学校におけるIPv6接続環境の整備?」という演題で講演して頂きました。講演後のアンケートによると好評を得ております。さらに、産学官共同セミナーの1つとして本校IT関連技術シーズ発表会を平成20年9月24日に実施しており、こちらも概ね好評を得ております。

また、ソフトプラザかごしまへ入居している1団体として、平成20年12月12日（金）から14日（日）の3日間にわたり、「かごしまITフェスタ2008」にもブースを出展し、さらにロボット演奏会や高専ロボコンのデモンストレーション、ロボット工作教室を実施しました。本年度も、11月27（金）から29日（日）に「かごしまITフェスタ2009」が開催され、高専の人材育成関連の紹介や本校IT関連の技術シーズ紹介のブースを出展し、ロボット工作教室も実施する予定であります。ぜひ、ご来場頂けると幸いです。

このようにソフトプラザかごしま「鹿児島高専産学官連携推進室」は、IT関連の共同研究の推進や地域貢献のために鋭意努力していく所存ですので、ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

平成21年度人材育成事業について

創造工房部門長 島名 賢児

平成21年度は2つの人材育成事業が採択され、現在、本格的な実施に向けての準備作業に取り組んでいます。まず、「平成21年度鹿児島県本土地域自動車・電子関連産業活性化人材養成事業」として、①3DCAD技術コース、②NC加工技術コース、③PLC制御技術コース、④マイコン制御技術コース、の4コースを9月から12月の期間、コース毎に実施予定です。「作るために考える技術者」の育成を図ることを目的とし、県内関連企業の生産・製造技術の向上につながることを期待しております。

さらに、石油の枯渇に対する石油代替エネルギーの利用や、地球温暖化に対する温室効果ガスの排出削減という社会的要請に応えられる人材の育成を行う事を目的

として、平成21年度は新たに「ものづくり分野の人材育成・確保事業」として、新エネルギー（燃料電池・太陽電池）を応用するための基盤技術を学び、ものづくりを通して低炭素社会に貢献できる問題発見解決型技術者を育成するプログラムを実施し、ものづくり企業の技術力向上と失業者の雇用可能性向上をめざしています。

地元鹿児島のものづくり企業の技術的な底上げのため、ご理解とご協力の程よろしくお願い致します。

半導体関連企業での体験実習について

地域共同テクノセンター長 芝 浩二郎

本校では、はじめての試みとして、平成21年8月26日～28日にかけて、鹿児島県内の3つの半導体関連企業での企業連携型人材育成事業に鹿児島高専の電気情報システム専攻1年の学生10名が参加しました。この人材育成事業の目的として「半導体は、現在の日本のIT産業のベースである。今後とも日本のIT産業が生き残るためには、半導体に関する深い理解をもった技術者が必要とされている。そのような技術者となるため、実際に半導体の製造に係わっている企業で体験的な実習・講義を受けることによって半導体製造に関する技術を理解し修得する。」を掲げています。この人材育成事業は、九州半導体イノベーション協議会が主催したものです。九州半導体イノベーション協議会は、九州各地の大学などを対象として、同様の人材育成事業を展開しており、鹿児島県においては、本年度から開催されたものです。この人材育成事業には、本校の学生10名とともに鹿児島大学の学生11名も同時に参加しました。本校学生に対する地域企業との協同教育（インターンシップ）の一つの形として、来年度以降も参加できればと考えています。

以 上

メンタルヘルスと相談室

学生なんでも相談室長 松田 信彦

本年度から相談室長になりました松田です。普段は国語を教えています。

室長になって、ようやく5ヶ月が過ぎましたが、率直な感想は、こんなにもメンタル面での問題をかかえている学生が多いのか…ということでした。昨年度までの2年間は、低学年の担任をしておりましたが、それなりにクラスの中にも問題はあり、悩みやいろいろなトラブルをかかえている学生がいるのは、実際に学生たちと接し、話をしていくなかで知っていましたし、学年で担任の先生方と話し合いをするなかでも、他のクラスの問題も多く耳にしてきました。そんな中で、学生たちが様々な問題を抱えながら学生生活を送っていることは、重要な問題として感じていたつもりでした。

しかし、室長になると、立場上、学校内での様々な問題が耳に入ってきます。そのあまりにも多さと多様性と深刻さには、正直、これまで自分はいかにこのような問題から縁遠いところにいたのかということを感じさせられました。同時に、今現在そのような問題を抱え、悩んでいる学生をサポートし、少しでも問題を取り除くことは大切な課題ですが、もうひとつは、そのような問題が表面化してくる前に、どうやって予防していくのかということも重要な課題だと考えるようになりました。

そこで、私がまず考えているのは、このような問題を抱えているのは、一部の特別な学生ではなく、いつでも、どこでも、誰にでも起こりうる問題だということを、学生だけでなく、保護者のみなさま、そして教職員の方々にも知ってもらわなければならないということです。

例えば、全国的にも、社会人の中で、仕事のストレスや人間関係などで、うつ病をわずらい、会社を辞めてしまったり、休職をしたり、最悪の場合には自殺をしてしまったりということが問題になっております。現に、私の親友にも、残念ながら、うつ病で会社を解雇されてしまった者がいます。他にも同様の例は多く耳にしています。しかし、これは決して大人だけの問題ではありません。

例えばある調査では、未成年のうつ病の有病率は2～8%だとか、あるいは別の調査では5%程度だ、などと言われたりしておりますが、おおむねそのあたりの数字が出ているようです。仮に5%前後だとすると、例えば一クラスの中に、2人くらいはそういう学生がいるということになります。もちろん、これはあくまで計算上ということで、実際には、様々な環境で数字は変わりますので、本校でそうだということではありませんが、クラスに2人、学校全体では50人程度の学生がそういう問題を抱えて、人知れず悩んでいたとしても、決して不思議なことではないのです。

そのほかにも、メンタル面での問題は、パニック障害、摂食障害、適応障害、あるいは不安神経症、自律神経失調症、恐怖症、統合失調症など、様々なかたちで現れます。

例えば統合失調症などは、その発症のピークが男性で18才から25才（女性は26才から46才）という調査もあり、まさに高専生の年代は、その時期と一致します。有病率も全人口の1%と、実はそれほど珍しいものではありません。また、パニック障害などは、女性の発症者が男性の3倍もあり好発年齢は、15歳～24歳位がピークということで、これもやはり高専生の年代ということになります。有病率は人口の2%といわれます。

このように、様々なメンタル面での悩みを抱えている学生^{せんにく}の数は非常に多いえます。例えば喘息の有病率は3%と言われます。胃潰瘍や十二指腸潰瘍は1～2%と言われます。これらの病氣と単純に比較することはできませんが、同じような数字になっています。これらのメンタル面での問題を抱えている人は、何も特別な人ではなく、ごく当たり前にいるということを、是非知っていただきたいのです。

そして、保護者にあっては、自分の子に限って…とか、まさか自分の子には関係ないだろうとは思わずに、そういうことはいつでも起こりうると思って欲しいのです。また教職員においても、自分の学校には、自分のクラスにはそういう学生はいないだろうと、縁遠いものとするのではなく、いつでもそういう学生がいるということ、あるいは現れるということを念頭におき、注意深く学生を見守って欲しいと思っております。

そして、少しでも様子が違うと感じたら、「まさか…」とは思わず、すぐに相談をして欲しいと思います。そのために、本校には学生なんでも相談室を設置し、また外部からは専門のカウンセラーの先生をお招きし、学生相談の対応にあたっております。まだまだカウンセリングや、悩み相談などは、恥ずかしいことだという偏見があるのも事実です。まして心療内科や精神科を受診することは、より一層の偏見があります。そして、そのような偏見により、誰にも相談できずに苦しんでいる学生がいるかもしれません。私ども相談室では、様々な情報を提供し、メンタルヘルスの意識を、少しずつでも変えていけるように、これからも活動を続けていきます。そして、このような問題は、本当に身近なごく当たり前のこととして、多くの方々に理解してもらえるようにしていかなければならないと考えております。相談室には私をはじめ多くの相談室員が、学生の相談を待っています。学生だけではなく保護者のみなさまも（もちろん教職員も）是非、気軽に相談に来ていただければと思っています。

本年度の相談室の概要やスタッフの詳細については、学生便覧の93、94ページに記載しております。一度ご覧くだされば幸いです。

「ゲルマニスティク」とは何か？

一般教科ドイツ語 保坂 直之

Das Leben der Anderen（直訳は『他人の人生』、日本版タイトルは『善き人のためのソナタ』）はよくできた映画だが、冷戦時代を知らない若い学生には難解だろうと思い込んでいた。だが、それは誤解だったようだ。「この本は私のためですから」という最後の台詞は重く感動的で、蛇足の解説で授業を収めることが出来なかった。盗聴の標的だった劇作家がStasi（東ドイツ公安警察）の膨大な捜査資料を閲覧するシーンに触れ、「正邪の別なく膨大な過去の資料が整理・保管され、誰でも閲覧できる、自分のような外国人でもドイツ語が読めれば研究資料は際限なく得られる、だから自分は“ゲルマニスティク”を学んだ」という趣旨の発言をしたように思う。

Germanistikは仕方なしに「ドイツ文学研究」などと訳されるのだろうが、これは仕方なしの表現であって事態を正しく伝えているわけではない。だから、「ご専門は何ですか」「ドイツ文学です」「そうですか、ドイツがそんなに好きなんですか」などという頓珍漢な会話になる。仕方なしにビールの話題になる。

では、“ゲルマニスティク”とは一体何か？ 文研（大学院）時代の指導教授はDDR（東ドイツ）に7年間留学し、博士論文を通したという当時としては稀有な人だった。だが、そのH先生が「きみたちゲルマニストは…」と言う度に、「おれたちはそういうゲなんとか、というのとは違う」と内心想うのだが、正しくその違いを言表すことがその時はできなかった。

外国語を学ぶ目的は母国語を豊かにすることにある、という名言集でよく見るゲーテの説明は正しいと思う。さらに言えば、ドイツ語圏諸学の移入によって国を富ませることが「ドイツ文学研究」の意義である。異常に仰々しい言い方になってしまったが、英国研究から日本語そのものを富ませる道に転換した漱石は理解できる、と自分なら言う。だがフンボルト財団の援助下、DDRで「本物のGermanistik」を学んだH先生からすれば、こんなものは遅れたアジア人の非合理的な心性となろう。遅れた日本人を欧化し、啓蒙しろ、と言われてもゼミ生が悄然とするのは、われわれが頓馬だったからではなく、異文化に接するに際して必然的に生まれる亀裂のせいだからだ、と今なら言えるのだが。

かくして自分は理工学部在籍のS先生に論文副査を頼み、S先生と関心が近い数名の院生とリルケのオルフォイス・ソネットを読んだ。構造主義隆盛の時代の作品内在解釈法は、東独系のH先生が蛇蝎のごとく敵視した手法だ。

ベルリンの壁崩壊後、律儀なH先生はDDRに付き添うようにして早死にされた。自分は忘恩の学生だったかと

申し訳なく思うことがあるが、持って生まれた信念を変えることはできなかっただろう。

「ドイツ文学研究」という日本語には、「グローバリズムは是か非か」という問いと同根の埋められない断絶が含まれている。政治的両極を含むというだけでなく、最近では「地域研究」と称する社会科学や、言語情報処理なども含まれる。実のところ、「研究に際してドイツ語を使う」ということ以外に共通点のない諸学の混交である。

言語芸術作品に見られる比喻の働きを追うのが私の研究の主テーマである。資料に酔うとつい遠くまで深入りする悪癖があり、この春先以来バロック時代が気になる。機会が与えられれば、この本題についても語りたいところだが、今回は前口上だけで制限字数を遥かに越えてしまった。私たちは理解しあう前提の共通知識を失いつつある時代にいる。本稿はこの事情を投影した構成になったと、ご容赦いただければと思う。

研究雑感

情報工学科 加治佐 清光

現在、科学技術研究費補助金（基盤研究C、H19～H22）をいただいておりますことから高専だよりへの研究活動の執筆依頼がありました。ここでは、この個人研究の概要と研究全般に関する私事の雑感を書いてみたいと思います。

この科学技術研究費補助金の研究テーマは「静止画像の可逆・準可逆符号化と情報埋め込みに関する研究」という静止画像の符号化（圧縮）と静止画像への情報の埋め込みに関するテーマです。静止画像の符号化は、原画像へ完全に復元できる可逆符号化、完全には復元できないが圧縮率の優れた非可逆符号化、およびその間に位置する準可逆符号化に大別されます。代表的なJPEGは既に確立された非可逆符号化の国際標準ですが、その後も新たな符号化技術が研究開発されています。また、画像へ著作権、撮影条件、説明文、秘匿情報などの情報を埋め込む技術は電子透かしやステガノグラフィとも呼ばれ、世界中の企業や大学などで新たな技術が研究開発されています。

日進月歩のIT（情報技術）の分野で世界に通用する新たな方法や方式を提案するには田舎者にはかなり「しんどい」面があります。自分の場合は、「技術が進歩しても、まだ誰もやっていないことは結構ある」と鹿大工学部時代（約40年前）の授業中に安川電機出身のある先生から教わった言葉が励みになりました。一方、研究を遂行するにあたっては、「重箱の隅をつつくような研究はするな」という博士課程時にある先生から教わった言葉も戒めになりました。

科研費補助金の研究テーマ「静止画像の可逆・準可逆符号化と情報埋め込みに関する研究」に関連し、還暦になる今年までのこの5年間で10査読論文を発行しましたが、論文のテーマ決定や執筆にあたっては「重箱の隅」でない世界に通用する提案方式、実用効果のある提案方式を意識しました。また、研究内容に関しては、「この世界で今までに誰も考えたことのない方式」を考え出すことに注力しました。そのためには、先行技術や論文の調査を行い、実験を試行錯誤しながら繰り返しました。アイデアが浮かび、それが実験で実証できたときの喜びはささやかな研究者の喜びです。逆に、自分が考案した方式が実験で立証できないときのもどかしさや、自分が考え出したと思った方法を先人が既に行っていたことを知った時の落胆など、個人研究の過程では様々なことを実感しました。

自分の場合、この研究テーマに関し、H17とH18の2年間に5査読論文を発行し、それらの研究業績などを基に4年間の研究計画を作成し、H19の科研費補助金の交付申請を行いました。科研費補助金の申請を幸いに交付

決定していただいた後、申請した研究計画を遂行しながらこの3年間で5査読論文を発行しましたが、科研費補助金の研究期間の残りはあと1年となりました。学会への論文投稿はかなりのエネルギーを必要としますし、また、学会（自分の場合、電子情報通信学会か画像電子学会）への初回投稿から発行までにはうまく採録されても約半年から1年弱の時間を要するため、還暦を機会に学会への論文投稿はこれで一旦打ち止めにし、この研究テーマの整理に入ろうかなとも思っています。

科研費補助金申請時の4年間の研究計画では七つの具体的な研究課題に挑む計画でしたが、まだ五つしか達成できておりません。最後の二つの研究課題は自分にはかなりの難題です。その一つは無秩序の画像から圧縮するための規則性を見出すという一見、不可能と思われる課題への挑戦です。自分で自分にこの4年間に課した七つの研究課題ですが、研究中に別のアイデアも浮かび、そちらの実証にも興味があり、反面、来年には科研費補助金の4年間の研究実績を「研究成果報告書」としてまとめなければならず、悶々とした今日この頃です。



誤差拡散ディザ画像
（埋め込みなし）



15,860 文字埋め込み
（全画素の 48%）



標準試験画像 Lena
（512×512 画素）



23,003 文字埋め込み
（全画素の 70%）

部分拡大画像
（120×60 画素）

ディザ画像への電子透かし（情報埋め込み、H18）の例

私にとっての研究小史

土木工学科・特任教授 疋田 誠

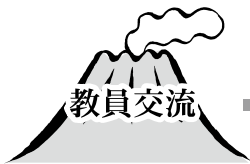
絞って、40年間を過ごすことができた。来年3月で研究生活を終える。感謝に耐えない。

「研究室だより」として原稿を依頼された。何を書いたらよいのだろう。学ぶことに集中できるとき、人は時間を忘れる。「研究って何だろう」と自問自答するとき、行き詰まったとき、学生時代の恩師からの言葉に、しばしば、励まされてきた。「研究者は3年経ったら、その分野では先生より優れていなければいけない。ヘドロのような論文を書いてはいけない。お金が多くあって自分のやりたい研究があまりできないことと、お金が少なくても自分が本当にやりたい研究ができること。君は、どちらを選ぶか。工学分野では、無駄・試行錯誤が非常に多い。インチキのような論文も少なくない。きちんとした理論に裏付けられた研究をなさっている方は、実は多くはない。高専に赴任するとしたら、PaperWorkができるか否か、でしょうか。云々」

【昭和の20年間（1969～1989）】：土木工学科の屋上からは、桜島をいつでも眺めることができる。火山活動を研究者の眼で観察するとき、色々な考えが浮かぶ。降下火山灰の地上堆積モデルを、火山灰粒子の大気中の挙動と捉え、数値計算し、地上の堆積火山灰の粒径を火口から数式で表現してみた所、観測データと理論値は不思議ながらよく一致した。噴出火山灰量の理論的推算値を算出する手法を導くこともできた。豪雨時に発生する土石流について実際に10年間、現地観測し、データを積み重ねてみた。16mm高速度カメラを用いた土石流実験、土石流の発生限界と流出流量の理論も構築、実証した。これらには、鹿児島県・旧建設省・鹿児島地方気象台・卒業研究生など、多くの方々から多大なご協力を頂いた。学位論文として纏め、鹿児島県内でどなたでも閲覧できるように、永久保存のために県立図書館に寄贈することもできた。

【平成の20年間（1989～2009）】：工学は社会に役に立つ学問である。一人前の研究者として自分は何をすべきか。（1）鹿児島県河川水辺のネットワークの構築と鹿児島県内の小中高校との地域交流。パソコン通信やインターネットに親しんだ。（2）平成5年の8・6水害の解明と甲突川の洪水浸水実績図の出版。（3）携帯電話を利用した土石流の検知警報システムの構築。定年退職に至る最後の5年間、このテーマでは科学研究費が継続して採択された。（4）平成18年の川内川の7・22水害の解明とさつま町の洪水避難地図の作成、公表など。これらの活動は、NHKや新聞による報道の機会も得られた。研究者として、学生諸君と共に、少しは社会的役割を果たしてきたのではないかと考えている。

24歳のとき水工学を専門として学生時代を終え、鹿児島高専に赴任し、河川や土石流の課題を選び、前半は自分自身のため、後半は社会のために貢献すべきテーマに



教員交流報告

機械工学科 池田 英幸

高専間の教員交流制度は、平成18年度から実施されています。昨年度から、高専・両技科大間教員交流制度となり、豊橋、長岡の科学技術大学間とも交流が行われるようになりました。その趣旨は次のとおりです。

「各国立高等専門学校、長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学の教員を、教員交流派遣者として他校へ一定期間派遣し、他校において教育研究活動に従事させることにより、教員の力量を高め、各学校における教育及び研究の向上を図ると共に、各高専と両技科大との連携強化を通じた、高専・両技科大全体の活性化及び人事の流動性の確保に資するため、「高専・両技科大間教員交流制度」を設ける。」

私は久留米工業高等専門学校（以後：久留米高専と略記）の材料工学科に、平成20年4月1日から平成21年3月31日まで派遣されました。久留米高専の沿革は次のとおりです。

- ・昭和14年 5 月久留米高等工業学校設立（旧制）
- ・昭和24年 5 月九州大学に包括され、九州大学久留米工業専門学校となる
- ・昭和26年 3 月九州大学久留米工業専門学校閉校
- ・昭和33年 4 月久留米工業短期大学設立 機械科、工業化学科
- ・昭和36年 4 月久留米工業短期大学附属高等学校設立 機械科、電気科、工業化学科
- ・昭和41年 3 月久留米工業短期大学廃止
- ・昭和39年 4 月久留米工業高等専門学校設立 機械工学科 2 学級、電気工学科、工業化学科、金属工学科、各 1 学級の 4 学科 5 学級設置

久留米高専は他の高専より歴史が古く、図書館には旧制の高専や短大時代のものと思われる図書もあり、古い文献を調べる際に助かりました。

久留米高専の学科構成は、設立当初から本科が 5 学科あり、改組などを経て、現在は、機械工学科（40名）、電気電子工学科（40名）、制御情報工学科（40名）、生物応用化学科（40名）、材料工学科（40名）です。そのため、体育館が本校より広く、全校集会でも窮屈ではありません。（本校体育館は、4学科の基準）専攻科は 2 専攻で1993年に設置されています。機械・電気システム工学専攻（12名）〔機械、電気電子、制御情報〕、物質工学専攻（8名）〔生物応用化学科、材料工学科〕。

すでに、教員交流を経験された先生から、教育システム、勤務体系や組織、職務分担、学生寮の管理方法などが、同じ高専であっても大きく異なっていることを事前に聞いておりました。そのことを実感しました。例えば、久留米高専では授業の開始、終了のチャイムが全く鳴りません。また、校内放送もなく、連絡は掲示板でな

されています。さらに、1年生から朝のSHRはありません。1年生から5年生まで水曜日に、こちらのLHRに相当するホームルームが50分間、週1回実施されるだけです。通常の授業は100分で行われます。また、4、5年生は固定した教室がなく、授業科目毎に講義室を移動しています。教務規定は開講時数の 4 / 5 以上の出席で履修となり、必修科目は1科目でも不合格（60点未満）であれば留年となります。今年は成績上位の学生が、必修の 1 科目が不合格のため留年しました。また、昨年は5年生が 1 科目不合格で卒業できなかったそうです。

クラブの部室や合宿のための建物もあり、学生寮を合宿所として流用する必要がありません。全寮制ではなく、交通の便が良いため、入寮生は約120名程度です。

体育祭や文化祭、クラスマッチなどは、学生の自主性を重んじて、その運営に教員は関与していません。バイクの使用について排気量の規制はありません。ですから、750ccのバイクで通学している学生もいました。

以上のように、本校とは種々の面で大きな違いがあり、久留米高専は本校より自由度が多いようですが、その反面自分自身で判断して行動しなければなりません。すなわち、自己管理と自己責任が求められています。

現在の高専が誕生してまもなく半世紀になろうとしています。その間、設置基準法に沿ってはいるものの、各高専は独自の「進化・多様化」を遂げています。これは、長所と短所の両刃の剣です。一般の小、中、高校のように頻繁に教員の移動を行う際の障壁となる反面、各高専独自の教育が期待できます。高専間のお互いの長所を取り入れて、より良い教育環境を構築することが今後の課題と思われます。

私の教員交流のため、本校特に機械科の皆様にご迷惑をおかけ致しました。この場を借りてお詫びいたします。



気骨ある卒業生たち 前編

鹿児島高専ドイツ語担当教官 政所 利忠

ドイツ語教師を定年退職して十二年、教え子たちも還暦を超え始めた。いまやその彼等に励まされ教えられる老人（後期高齢者）になった。彼等にさとされたり、叱られたりすることがある。微苦笑しながらも嬉しい。在職中は自分が工学専門でなく第二外国語担当である事に引け目を感じることもあった。今ではそれで良かったのではないと思う。米国のサブプライム・ローンを端緒に発生した金融市場における倫理の根底からの破綻、伴う世界規模の不況が生む大恐慌に経済界・産業界は右往左往している。その中高専卒業生たちのエンジニアとしての生き方に特有の姿勢を感じる事がある。己が置かれた状況に独特の大胆さや忍耐力で立ち向かっている。校歌にも歌い込まれている「薩摩隼人」の気骨と自信を感じとれる。卒業生の起業率や企業オーナー率も工学系大学卒者より断然高い（三倍）という調査結果もある。彼等が社会人としてかつての教師たちを乗り越え、追いついている姿を見ると「頑張ってくれている」と頼もしく思う。

彼等の特有さは何故なのか。我が国でのエンジニア養成は主として工学系高校、高専、工科系大学で行なわれてきた。高専は其中で制度としては最も後発組だ。視点を変えれば最新組ということになる。最新・革新という時代環境と時代精神を背景に彼等は育っている。伝統に安住し、安定したコース（例えば、入社係長課長一部長重役）というエスカレーターにも乗れる。そこに参加もできる。しかし先達たちもその座を占めている。「もっと別な道はないか」という常に刷新・改新という時代精神に育てられての生きる道も開けている。

高専卒業生のその後を総体的に、あるいは統計的に調べたわけでもないが、老いて引退した現在も親しく交流している卒業生たちに、以上のことを強く感じている。私的に片寄った狭い領域（二回生以降の教壇に立ったが、専門科目でなくドイツ語担当）での経験であり、全国高専あるいは鹿児島高専卒業生全般に共通した特徴と言うには正確を欠く。でも幾つかの具体例を挙げ、彼等の専門的職能だけでなく人物や生き方に焦点を当てて「何故か」を考えてみたい。

機械工学科第三回卒業生・木脇哲郎 氏

三十七、八年昔、筆者の文部省派遣・長期在外研究中のこと。ドイツのヴュルツブルク駅で数分後に到着するアテネ行き列車を待っていた。突然、髭もじゃの若い日本人男性がつかつかと歩み寄って来て大声で「先生っ！」と叫んだ。髭だらけの顔をよくよく眺めてみたら三年前に卒業し、スターライト工業（プラスチック製品製造）の技術研究部に勤めたはずの第三回生・木脇哲

郎君ではないか。びっくりして一体どうしたのか、と聞くと、またもやいきなり「S I C H I M M A T R I K U L I E R E N（大学入学の登録をする）という動詞の一人称語尾変化は「? - - -」とたずねてきたので、二度びっくりした。

「いまからドイツで勉強するが、目下は旅費節約のためホテルには泊まらず、ユーレイル・パスを使ってヨーロッパ中を駆け巡る長距離列車の中で眠っている。昨晩はパリはセーヌ河の橋下で新聞紙を体に巻き付けて眠った」と言う。当然ながら私は、彼を晩飯にでも招待し、小遣いでも渡すべきところであったのだが、一ヶ月続く夏休みの地中海沿岸旅行が始ったばかり。日程の時間に従った全ての列車・ホテルの予約に従わざるを得ず、わずかな数の出合いで泣く泣く別れ、ギリシア向けの特急に乗った。「勉強を続けろ。諦めるな」とだけ叫んで。見送る彼の顔が恨めしそうに見えて悲しかった。

彼はその後数年間、ヴュルツブルク大学やミュンヘン大学に在籍、ロンドン、イタリア、スペインを旅行、日本企業支社で現場通訳、ニューヨーク、シカゴ、サンフランシスコ、ロスアンゼルス等を武者修業、かなり大胆且つ冒険的な経験を経て、現在、日本バイオマス・エンジニアリング（鹿児島市）を経営している。

その企業内容は醸造・食品プラントの設計・施工、さらに醸造・食品機器販売・メンテナンス。実績は全国を範囲に焼酎・泡盛のプラントの設計・納入・設置の例が二十余の工場、ワイン・プラントだと一億円前後の規模を三工場、ビール・プラントだと一億円前後の規模を十余の工場、醸造機械（製麹ドラム、自動製麹ドラムなど）の納入だと六十の工場に達する。国外ではタイに十三億の工事費を掛けたシュナップス（焼酎）工場の二億円分のプラント・エンジニアリングを担当し、中国やソ連のウォッカ市場、ヨーロッパのシュナップス市場を展望の視野に入れている。

軌道に乗っているプラントの設計・施工・販売だけでなく、常に未来の新しい市場を考え、新機軸を打ち出すのが彼の流儀。その新しい例として、イスラエルの企業と契約して、日本でフレッシュ・デフロスト技術（FD技術）の市場開拓に着手している。

FD技術は三年前にイスラエルで開発され、生鮮食品の革命的に改良された冷凍技術だ。野菜や果実を従来のCASシステムの冷凍をすると、じわじわと水分が凍るために細胞の体積が増加し細胞膜が壊れ、解凍時にドリップ現象が生じ、細胞内の水分がしみ出て味が落ちる。FD技術はドリップ現象を抑え、電磁場の振動で過冷却状態を造り、冷凍の対象を均等且つ瞬間凍結する方法で、解凍後に細胞内の水分（味）がしみ出ず、栄養素も保存される。冷凍前の新鮮なままの形、色合い、味を留める技術で、生産者、加工業者、消費者にとって画期的利点を生む。

日本バイオマス・エンジニアリングでは既にイスラエ

ルの開発業者と特許の契約を終え、日本での野菜や果物の冷凍機を開発し、販売、据え付け等の市場開拓に乗り出す。

今後は野菜や果物の生鮮食品界では物流組織の革命が起こると彼は予想し、きたるべき時に彼は備えている。さらにまた、現在の我が国の農業は国際競争ではかなり劣勢にあり、食料自給率は四十％という。農産物の価格は国際的に対抗できないという数式の公式さえある。でも世界の食糧資源市場の近未来は逼迫している。膨大な人口を抱える中国やインド等の低開発国が豊かになれば、世界規模の食糧資源争奪戦が起こるのは必至。彼は物流組織の革命、農地法や海水面の法改正、コンピューター導入生産体制を確立すれば十分に日本の食糧資源開発や増産、つまり農水産業は成立つと考えている。農水産業革命への新機軸も彼の念頭にある。

機械工学科第三回生・鞍津輪 隆 氏

ドイツのヴィスバーデン市でドイツ人の妻と暮らす鞍津輪氏はこの夏のラインガウ音楽祭が待ちどろしい。年に十五回のコンサート・チケットも定期購入、仕事の合間に楽しんでいる。ヴィスバーデンには高専時代になじんでいた四季派の詩人・伊東静男に影響を与えた詩人ヘルダーリンも住んでいた。つまり、クラシック音楽、詩、読書、映画などを愛好していた事がオペラ愛好家の奥さんを知り得たし、ヨーロッパで自分の会社への理解や信用を高める要因にもなった。現在、音楽之友社の「二十一世紀の名曲三百曲」のCD全部をMP3化し、iPodと車のオーディオ装置に入れる事と英語力を高め、TOEIC九百九十点取る努力にいそしんでいる。

でも月の半分はヨーロッパ各地の支社を飛び回り、社員の指導、ゼミや会議の司会、現地生産の監督に忙しい。彼は工作機械製作会社・松浦機械の欧州販売の総責任者だ。ヴィスバーデンにあるドイツ支社以外にイギリス、アメリカ、カナダにも子会社があり、これらの支社の従業員は約五百人。さらにドイツ以外のスペイン、イタリアなどの欧州各地、東欧、ロシア、トルコ、イスラエルの販売店の管理も彼の責任だ。指導や会議司会の言葉は主として英語だが、国や相手によってはドイツ語だ。彼ばかりでなく部下たちも支社や販売店の面倒をみるが、現地生産での監督、工作機械展示会、販売店のホーム・ショー、客先訪問、各地での役員会開催などの時の彼の責任は重い。

高専時代の彼はいつもニコニコ笑顔の青年というより少年だった。英語やドイツ語も好きで得意だった。私の朝日出版社から出して当時使っていた教科書「初級ドイツ語」と当時の辞書をまだ本棚に持っているという。

当時の授業中の雑談で「卒業してからドイツ語の辞書を後輩に譲ったり、古本屋に売り払ったりするな。国語辞典にしても英語の辞書にしてもそうだ。辞書を手放す

奴は出世せんぞ。ちゃんと本棚に立てておけ。使う必要に迫られることがある。企業人になったら国際競争にさらされる。研究開発担当に配属されて上司からドイツ語の文献資料を『読んで来い』と渡されて『読めません』と答えるようでは駄目だ。その晩は本棚から辞書を取り出して徹夜してでも調べろ。なあと専門の資料は専門用語とヤーカニンさえ分かれば何とかなる。本棚に立ててある辞書が役立つ。そうしてあくる日、なに喰わぬ顔で訳文を提出してみろ。出世疑いなしだ。それからもう一つ大事なこと。本棚の本は年を経るにつれて数が増えていなければならぬ。所有者の人間の成長を示すからだ。ある日、恋人が君たちの部屋を覗くことがあるかも知れぬ。そういう時の本棚の効果ははかり知れないものがあるぞ」などと雑談的脱線をした事を思い出す。

電気工学科第三回生・高橋忠仁 氏

四年生、五年生の頃の彼は時間割りに従った専門の勉強のかたわら、ヘルマン・ヘッセ全集を読み耽り、水俣病の水銀公害に義憤を感じ、地球環境・公害学者の宇井純に傾倒していた。被害者を救うため法曹界入りし弁護士を志すようになっていた。電気工学という専門を離れた職業を本気で選択する気心を感じて、どうなるんだろうと心配だった。卒業後の彼はまず昼間は法律事務所でアルバイトをし、夜は中央大学で学んだ。でも法曹界の実状を知って、弁護士たちの日常のほとんどは社会正義の実現にほど遠く、多くが金持ちのお先棒を担いでいるにすぎない実状を知った。

保険会社など幾つかの職場を転々とした。しかし、いつも夢を追い、正論と思う自己主張を譲らず、周囲と対立するものだからどこでも長続きしなかった。家族がその日に食べるものにさえ事欠いた窮乏も経験した。そのような体験を経て気づいた事は、既存の組織に乗って自分の夢を実現しようとするから駄目なんだ。自分の責任で船をつくり夢を実現しようとの結論に達した。米国系半導体メーカーで四年間働き修業し、ユーザーの個別ニーズをすくい上げて付加価値を提供できるPLD（PROGRAMABLE LOGIC DEVICE）に着目した。半導体を半完成品の状態で出荷し、ユーザーが設計データをチップ内に書き込んで完成品にするASIC（APPLICATION・SPECIFIC・INTEGRATED CIRCUIT＝特定用途向け集積回路）の一種だ。

無一文でアパートの台所から特定用途向け半導体専門商社・PALTEKを一九八二年にスタートさせた。先発と競合しない専門性の強いビジネスを考え、ASICを主商品に選んだ。この特定用途向け半導体は、一人ひとりの設計者ニーズを深いレベルで把握し、それに対する適切なソリューション（問題解決）を提供することが目的だから、いくら先輩がいても結局は一騎討ちの勝負だ。さらに会社設立の当初から企業理念である「世界と

の共生」をめざし、従業員の多国籍化を図った。現在、社員百六十人の十%以上が世界十カ国からの外国人だ。

新しく主力商品にしようとしているのが、A T M（アシンクロナス・トランスファー・モード＝非同期転送モード）だ。このA T M技術は、近未来のマルチメディア社会を支える中心的技術になるはず。扱うのは難しいが将来は必ず大きなビジネス・チャンスがあると予測されている。誰でもが参入しにくい完全なニッチ（隙間）の分野に特化して事業を展開している。

現在のパルテック（P A L T E K）は資本金十三億四千万円、従業員百六十人を代表する彼が取締役社長である。半導体関連製品の設計開発、販売及び設計技術支援が主な仕事だが、一九九二年の売り上げ一七億余から一九九七年の五年間に百三億円に拡大し、驚くべき高成長を遂げている。店頭市場に株式を公開したのは十二年前。社員一人ひとりがそれぞれの道のエキスパートの頭脳集団である。

企業理念「世界との共生」は郷里・屋久島で少年の頃に感動した屋久杉を囲む生態系に由来する。常に高きをめざし、理念を追う人生を求めてきた彼はエンジニアリングには哲学が必須と悟った。数千年の長寿を誇る屋久杉は周囲の環境との共生という生態系の中心をなしていた。地球規模で社会が急速に変革し、環境問題も生じている。巨大な変革に対応して、グローバルなフィールドとグローバルな思想を基盤とし、周囲のすべての人々と共生を図り、共に成長して行こう、という技術商社を着実に実現している。

機械工学科第六回生・榎園 正人 氏

剣道部で稽古熱心だった彼は読書家でもあり、子供好きでもあった。我が家の幼少期の娘二人（当時は三才児と一年生）はとりわけ彼になついていた。彼が畳の部屋で四つん這いの馬になってくれると三歳の娘は騎手になり大得意、一年生の娘は夏休みの宿題研究に海岸の岸壁に印を刻んで行なう満潮干潮の研究を手伝ってもらった。彼が読み終えた岩波文庫や新潮文庫の百二十余冊を鹿児島市の福祉施設・若葉寮に寄贈した事があった。私の車に積み込んで二人で出かけたが、孤児や親と離れて暮らす子供たちが三十人ぐらいが住んでいた。老いた園長さんの感激した顔を今でも覚えている。卒業した彼は諏訪精巧社で水晶時計の開発や可塑性の磁石開発でゴムを混ぜる研究に従事、順調で毎日が楽しかった。秋の諏訪神社大祭に筆者も出かけて彼と一緒に御柱担ぎの荒行を見物する積もりだった。

そういう矢先に彼は実に悲惨な事故に遭遇した。会社のレクリエーション行事のピクニックに参加、山林の道で足を滑らし、十メートルの崖を落下した。首部分の脊椎骨折、それ以来は下半身附随、両手は不自由ながらもわずかに動かせる。指先は自由には動かせない。本人はもちろんご両親も絶望の淵に沈み、筆舌に尽くせぬ苦痛・

悲しみが続いた。婚約者にも自ら別離を宣告した。死を考えた事も度々あったと推察できた。病床に寝たままだったため背中下部から腰部にかけて危険なほど大きな褥瘡（とこずれ）ができ、腎不全も併発、人工透析を受けるようになり、長年塗炭の苦しみが続いた。「自分の生涯を消してしまいたい」と悩んだ。

諏訪市の病院から郷里の病院へと転院した。その頃の彼は人に会いたがらず筆者も彼に近付けなかった。霧島労災病院や加治木温泉病院に入院している頃から「自分に残された肉体的能力を使って生きてみよう」と覚悟を決めるようになった。高専時代に文学作品を読んでいても手伝って、苦しみや悲しみを文章にし、作品化する等の努力で自分の生を見詰めようと、短篇を実際に創ったこともあった。最後に「人の為に尽くすことで自分も生きてみよう」と考えるようになり「点字翻訳奉仕」にたどりついた。現在は鹿児島市の病院に入院、透析治療を続けながら毎日を点字翻訳に打ち込んでいる。唐牛先生が時々見舞いに来て下さっている。

その彼がこの三月に厚生労働大臣表彰の栄に浴した。生きる証にと点字翻訳の奉仕を始めてから二十二年が経っていた。最近では海音寺潮五郎著の「西郷隆盛」（全九巻）を三十六巻の点字本に翻訳、現在は福田和也著の「昭和天皇」（三部作）の翻訳に挑んでいる。以前は右手の手の平に点字用ペンをゴムひもでくくりつけ、一字一字をボール紙に印刻した。現在は専用ワープロの活字をペン先で押して印刻する。作業を日によって二時間から七時間、毎日平均四時間続けている。

彼に点字翻訳の奉仕を仲介している鹿児島県視聴覚障害者情報センターの資料によれば、彼は今までに十六万六千五百頁（点字頁）、普通の活字本に換算してほぼ四万二千頁、冊数にして三百二十三冊を翻訳している。現代の医学、東洋医学等の専門書、大学のテキストなどの翻訳を正確に行なうのはかなり難しいが、彼はそれを正確にできる全国的にも数少ない奉仕員のひとり。毎日平均四時間の二十二年間分という膨大な時間の集積。不撓不屈の精神の築く業績・金字塔を打ち建てつつある。高専の校歌にもある薩摩隼人の気骨だろうか。ベッドに横たわっての人生である。警官一家（父も二人の兄も鹿児島県警の剣道の達人）の気骨も受け継いでいるのかも知れない。

新任教職員紹介

一般教育科文系 中村 隆文

これまで哲学という分野は文系科目として独自の発展を遂げ、「価値」「正義」「善」に関する分析はもちろんのこと、「人間」「社会」に関する考察を掘り下げ、さまざまな理論を生み出してきました。もちろん、「これが正義だ!」あるいは「これが人間だ!」というような分かりやすい形での解答はなかなか得られていませんが、概念の一面性（あるいは与えられた特定の解答）のみにとらわれることなく、かといって極端な相対主義に陥ることもなく、「この状況において<正しい>ということはどういうことであるのか」と主体的に問いただすような哲学的営みの延長上にこそ、新たな知見が得られる余地がありますし、事実、われわれ人類はそうやって発展・進歩してきたように思われます。これは理系であろうが文系であろうが変わりません。もっとも、その一方で、「理系あるいは理系の恩恵を受けているこの社会を支える者にとって必要なのは専門分野であって、一般教養としての哲学は趣味的なものにすぎない」という考えもまた幾分かは広まっていたようにも思われます。

しかし、2009年4月より鹿児島工業高等専門学校（以下「鹿児島高専」）の一般教育科講師として「倫理学」「哲学」の講義を行うにあたり、まず最初に感じたことは、工学系の学問を専門としている学生の多くが、文系科目である「哲学」「倫理学」の科目に関し、多大な関心を寄せているということでした（ときには学生が積極的にこちらへ質問をしてくれます）。こうした背景には学生それぞれの学習意欲といった個別事情があるのかもしれませんが、根本的な理由として、さまざまな工学分野が誇る科学技術に支えられた現代社会というものが、もはや哲学的な思考法をぬきにしてこれ以上発展することがない、という現実があり、そして、多くの学生（さらには多くの市民）がその現実を実感していることがこの背景にあるように思われます。

昨今、科学技術は一昔前では考えられないほど発達しています。しかし、それを利用する側のわれわれ人類が技術の進歩に比例する形で幸福となっているかという、必ずしもそうはいえないでしょう。情報ツールの発達一方でそれを悪用した犯罪や常識的マナーの崩壊。生殖・クローン技術の発達の一方、その延長上での「人間（という概念）の揺らぎ」。一般人はもちろんのこと、工学系の技術者でさえも、「科学技術はどのように世界や概念を変化・破壊しかねないか」、さらには「科学技術は今後どのような形で使用されるべきか」というような思索は、これから不可欠なものとして求められるでしょうし、そうした思索を行うためにも、哲学的な素

養・教養というものもまた不可欠であるでしょう。

以上の事情を考慮するならば、哲学・倫理学の講義に関する鹿児島高専の学生の熱心な学習意欲は、単なる「まじめな学生」としての資質以上に、今後、社会で活躍してゆくような「物事をきちんと考える技術者」としての資質を示しているように私には思われます。鹿児島高専に勤務する哲学専門の教員として、そうした学生たちの素晴らしい資質を損ねることなく、さらにはそうした学生たちが活躍するための基礎部分を形成・発展させるためのお手伝いを今後ともしっかりと行ってゆければと考えています。

一般教育科理系 篠原 学

4月より鹿児島高専に赴任致しました、篠原学です。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度は、1、3年の物理と、4年の宇宙科学概論などを担当しています。これだけの講義を担当するのは初めてのことで、学期中は授業の準備に追われる毎日でした。学年によって学生の雰囲気が違うのは予想していましたが、同学年でもクラスによってずいぶんと違いがあることに驚き、その対応も含めていろいろと迷いながらの半年でした。

といっても、学生達は可能性を感じさせる素敵な若者ばかりですし、学校や地域もとても居心地良く感じています。いい授業ができるようになるまでは、まだまだ時間がかかりそうですが、じっくりとやって行きたいと考えています。

こちらへ赴任して一番驚いたことは、桜島の近さと、噴火活動の活発さです。学校の窓から目の前にあるように見え、そして、いつ見ても噴煙が上がっています。最初の頃は、すごいなーとのんきに眺めていたのですが、そのうち南風に乗ってやって来る灰に悩まされるようになりました。車は真っ白、家の中も油断していると砂だらけです。これには参りました。すっかり、窓開け恐怖症にかかっています。こちらも、慣れるまでじっくりとつきあうしかなさそうです・・・

3月までは、九州大学で宇宙天気の研究を行っていました。オーロラや磁気嵐、バンアレン帯（放射線帯）など、地球周辺の宇宙空間で起きる電磁気現象の研究です。

今年、若田宇宙飛行士が国際宇宙ステーションに4ヶ月もの長期滞在を行いました。あの宇宙空間には、真空という以外にもたくさんの危険があるのです。例えば、地上でオーロラが見えるとき、宇宙では電気を帯びた粒子が大量に降っています。この影響で、人工衛星に放電現象が起り、電子機器が故障することがあります。また、太陽から大量の放射線が飛んで来て、宇宙飛行士が被ばくしたり、衛星の電子機器が壊れてしまうこともあ

ります。この様な宇宙の環境変化「宇宙天気」を研究して、将来的には予報を行うことを目指しています。

鹿児島にはロケット発射基地があり、宇宙がとても身近な地域です。この地で宇宙天気の研究が続けられるのも意義深いことだと感じています。どうぞ、今後ともよろしくお願い致します。

機械工学科 岩本 才次

本年4月1日付で着任いたしました「いわもとせいじ」と申します。よろしく御指導下さるようお願い申し上げます。

昨年度末まで33年間勤務いたしました九州大学を退職し、生まれてこの方ほとんど縁のなかった鹿児島の地に、65歳の定年まで7年を残して、現役最後の希望を叶えるために赴任して参りました。高等専門学校の定年は63歳ですので、鹿児島高専での現役の期間は5年間ということになります。

九州大学では船舶工学及び制御工学を専門として、暇に任せて研究生活を送っていました。しかし、助教という身分のために学生に講義する機会に恵まれませんでした。以前から、今まで研究してきたことや学んだことを、学生に体系的にしかも主体的に教えてみたいという願望があり、その思いは年を重ねるにつれて次第に大きくなっていました。

鹿児島高専の教員公募を目にしたのは昨年暮れでした。それまでに何度か大学・高専に応募していましたが、船舶工学という専門の特殊性ゆえか、先方の希望とマッチングせず夢破れていました。今回も機械工学科だから多分駄目だろうな、という思いと共に昨年暮れに応募書類を郵送したことを覚えています。そんな風でしたから、その後応募したことはすっかり忘れていましたが、今年の一月下旬に面接試験の通知があり、二月下旬の面接の結果、採用通知をいただきました。「まさか」という驚きと共に多少狼狽いたしました。家には95になる義母とまだ大学生の末娘を抱えた現状を考えない訳にはいかず、「いくべきか、いかざるべきか」一ヶ月間悩み続けました。経済的に無理があるという家人の反対もありましたが、「学生を教育してみたい」という思いは日に日に募り、最後には娘たちの「あと少しだからお父さんの好きにさせてあげようよ」という応援もあって、単身で鹿児島高専にお世話になることを決心いたしました。

隼人の地に住んで早半年になりますが、土地柄、人柄が温厚で穏やかでのんびりしているというのが第一印象です。学生たちも礼儀正しく素直な印象で、実際その通りでした。このことは非常に好ましくうれしくもありま



したが、反面、進取の気風に欠ける面があることが気になっています。

定年まであと5年のリリーフピッチャー教員ですが、今までの思いを込めて、「腕も折れよ」とばかりに全力投球し、少しでも鹿児島高専学生の教育研究と成長のお役に立つよう、懸命に努力する所存です。

同窓生及び保護者の皆様の御支援と御鞭撻をお願い申し上げます。

機械工学科 小田原 悟

本年4月1日より鹿児島高専機械工学科の准教授として働くことになりました。以前は長崎県にある佐世保高専機械工学科で5年間講師として教鞭をとっておりました。諸事情により高専間を移動することとなりました。5年間佐世保高専で培ってきた研究実績や学生指導の方法をここで新たに生かして頑張りたいと考えております。



まず、同じ高専でありながら、両高専で様々なことが異なることに私は驚いています。例えば、佐世保高専では低学年1～3年生は制服の着用が義務付けられています。登校時は必ずネクタイを着用するよう学生主事関係の教員を中心に厳しく指導しています。しかし、学生全員に正しい制服着用を徹底させることはかなり困難です。これに対して、鹿児島高専では低学年1～3年生は制服の着用は自由です。私は4月当初に1年生でありながら私服で登校している学生を見てかなり違和感を覚えました。しかし、半年過ぎるともう慣れました。

また、佐世保高専と鹿児島高専が異なるのは学生数です。佐世保高専が4学科840名程度であるのに対して、鹿児島高専は5学科で1000名を超えています。この違いは大変に大きいものです。学生会活動は学生数が多いだけにほとんど学生会メンバーが中心となってイベントを進行できるのではないかと思います。

寮での生活は佐世保高専と違い鹿児島高専は大部分において学生の自主性に任せつつ、お互いに切磋琢磨する体制となっているようです。朝、夕の点呼のルールも寮生会自身で確認や指導を行い、当直教員としては大変によろしいです。

毎年秋の鹿児島高専での最大のイベントとして体育祭や文化祭があるようです。これは、大変に楽しみです。日ごろ教室やクラブ活動ではあまり見られない学生の自由闊達な表現力を垣間見ることが出来ると期待しています。

クラブ活動は佐世保高専と同様に鹿児島高専でも学生・教員ともに力を入れています。特に、サッカーや硬

式テニスなどは全国高専大会でも優勝を経験するという快挙を成し遂げているようで、クラブ顧問としては誇り高いものがあります。

最後に、私は鹿児島高専の今後の発展のために心血を注いでまいります。学生指導と専門の研究、さらには地域人材育成などやる仕事はとて多いです。しかし、私を鹿児島高専の教員として採用してくださった校長先生はじめ多くの先生方の期待に応えるためには、多少の困難も乗り越えて行かねばならないと考えています。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

電気電子工学科 楠原 良人

平成21年4月に電気電子工学科の教授として採用され、着任致しました楠原 良人と申します。故郷が大隅の鹿屋市であることもあり、縁あって採用となりました。どうぞよろしくお願い致します。

研究分野は、パワーエレクトロニクス工学における半導体電力変換ですが、特に、スイッチングコンバータを専門としております。最近、電気自動車や家庭用の新しい電源として応用され始めております、PEFC型燃料電池の発電特性に興味を持ち、これとスイッチングコンバータとを組み合わせた基本特性について研究しております。

これまでに、研究とともに技術教育に関する調査および報告を行い、教育分野においても実績を重ねて参りましたが、鹿児島高専における「早期創造教育」、「くさび型教育」、「キャリアパス教育」に魅力を感じております。

最近の技術教育は、専門領域が複合・拡大し、講義内容が多彩となることから、学生は、深く理解するよりは、公式等の暗記に留まり、物理現象を解明しようとする情熱を失っていく傾向にあるように思っています。高専教育はこの問題を払拭し、モチベーションを上げる実践的な技術教育のカリキュラム体系であると考えております。

今後の教育指導のモットーは、学理と実技を有機的に融合した技術教育を展開し、物理現象を理解し、「ものづくり」をベースとした解析・設計のできる創造教育・実践教育を展開して参りたいと考えております。

また、学生指導におきましては、高専の全人教育において、これまで培ってきた学務支援の経験を生かしながら、ヒューマンスキル、テクニカルスキル、コンセプトチャルスキルなど、スキルを如何に付与すれば技術者倫理が構築できるかを前提に技術者育成に取り組みたいと考えております。

さらに、研究の取り組み方として、科の垣根を越え、



他科の教員と連携しながら、複合化した研究に取り組むとともに、地域産業と連携することが重要課題と捉えております。

前職の共同研究や公開講座の経験を生かしつつ、各種の助成金獲得や技術相談などの業務に取り組んで参りたいと考えております。

霧島・始良地域はもとより、鹿児島県内における地域の産業振興策と連携した企業との実践的な研究や、鹿児島大学などとの学術的な研究など、地域ニーズを踏まえた社会に貢献できるような研究にも取り組んで参りたいと考えております。

最後に、教職員の皆様とともに、鹿児島高専に勤務できることを慶びとし、業務を遂行していく所存ですのでよろしくお願い致します。

電子制御工学科 新田 敦司

みなさん、はじめまして。4月から電子制御工学科の教員として着任しました新田です。出身はみかん、梅などで有名な和歌山県です。大学生から本年の3月までは大阪で住んでいました。前職は診療放射線技師の養成校で12年間教員をしていました。みなさん、放射線技師はご存知でしょうか。健康診断、病院等でレントゲンを採ったことがあると思います。そこで働いている方々が放射線技師です。そこで電気工学、電子工学などを教えていました。

鹿児島高専に来ての印象は今まで18歳以上の学生しか関わることがなかったので若いなと思いました。全校生徒が集まっての始業式での私語の多さには驚きました。人の話を聞くことも大事ですので注意してほしいです。また、放課後のクラブ活動は顧問の経験が無かったので新鮮でした。私は女子バレーの顧問を担当することになりました。バレーについては素人なので部員のみなさんには迷惑をかけています。先日の高専大会ではベンチに入り試合を見ました。部員の一生懸命な姿を見て、もっとサポートしていきたいなと思いました。

私にとって寮についてもはじめての経験で新鮮でした。500名強の学生をうまく管理されており、私もよい勉強になりました。学生が寮則をきちんと守り、自習時間もまじめに勉強に打ち込んでいる姿に感心しました。

授業での印象は基礎学力も高い優秀な学生が多くいますが、真剣さが不足しているようで少し残念です。前任教では基礎学力は低い講義を真剣に聞く学生がほとんどでした。学校を卒業できないと国家試験の受験資格が得られないためです。私も講義を工夫してより良いものにしようと思いますのでもう少し真剣さを身に付けてください。

鹿児島に住んでの印象は、人はみんな親切で住みやすいと思いました。小・中学生もよく挨拶をしてくれま

す。都会のぎすぎすした雰囲気ありません。時間の流れも緩やかです。この時間の流れについていけずイライラすることもあります。関西人はせっかちですから。

こんな私ですが今後とも、よろしくお願いいたします。

情報工学科 武田 和大

4月から情報工学科の助教として着任した武田です。これまでは鹿児島大学で勤務し、今年から鹿児島高専に籍を置くことになりました。私にとって「高専」という場そのものが初めてであり、戸惑いや驚きもありますが、早く鹿児島高専の空気に馴染んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

高専生は高校のように「生徒」ではなく、大学と同様に「学生」とよばれています。そのためか、着任前の私は高専について、どちらかというと高校というより大学・短大に寄ったイメージを持っていました。しかし、着任して間もなく、全校生揃っての始業式や、各クラスに用意された教室と担任、朝の正門での挨拶、SHRといったものを見て、「高校」の雰囲気を随分感じたのが印象的でした。

学生に関しては、全校生の授業をしているわけではありませんが、少なくとも私の知る学生については皆、真面目で優秀だと思います。おそらく他の学生もそうなのでしょう。学生が良いぶん、教育し、導いていく教員の責任はますます大きと感じます。ですが、実際には授業はまだまだ試行錯誤であり、今はまだ逆に学生の優秀さに助けられているようなかたちです。

クラブ活動はメカトロニクス研究部（メカ研）と男子バレー部の顧問になっています。メカ研の昨年のロボットである「篤姫と機械な仲間たち」と「黒豚大行進」のアイデアと技術に感心し、今年のロボットの完成を楽しみにしているところです。また、バレー部は九州地区大会で準優勝、全国に向けて練習しており、こちらも楽しみです。

当初は、ペースが速い、板書が多い、などの言葉も多少聞こえた授業ですが、最近はやり方を変えるなどして、お互いに慣れて（？）きているような気がします（私が思っているだけかもしれませんが）。これからいろいろな変えるかも知れませんが、私の授業担当第1号の学生達には感謝しています。

海、山、そして田畑と自然が多い霧島市ですが、このような環境の良い場所で仕事ができることを嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

総務課課長補佐（財務担当） 有川 博幸

平成21年7月1日付けで鹿児島大学から異動して参りました。

何事にも意欲的に取り組んで参りますので、ご理解とご協力方よろしくお願いいたします。

私は人の笑顔を見ること、笑顔に変えることが大好きです。

高専に来てとても気持ちいいことがあります。学生の大部分が元気のいい挨拶ができと言うことです。

挨拶は自分の中に溜まった心のかすみを取り除いてくれる七色の風だと…私は思っています。

挨拶を忘れている学生にはこちらから挨拶するようにしていますが、我々教職員も学生に負けないように、挨拶の励行に努めることで、組織の充実と楽しい環境と協調性に富んだ、どこにも負けない「鹿児島工業高等専門学校」を構築出来ると信じます。

生意気なようですが、これが大事なんです。礼儀礼節を忘れず日々を過ごして行きたいものです。

最後になりますが、私の座右の銘と理念を紹介させていただきます。

（座右の銘）

空想は実現しないけれど夢は必ず実現する。

なぜなら夢には可能性があるから…

（理念）

私を使ってください。私を利用してください。

こんな私ですが、一人一人、一つ一つを大事にすること、心は負けないつもりでいます。

これから皆様と共に喜怒哀楽を感じさせてください。

沢山の契りを結ばせてください。

前を…上を…向いて…試練も楽しく感じながら歩いて行きましょう。

そして、末永くよろしくお願いいたします。

総務課総務係 永田 淳子

私は、本年7月1日付けで、鹿児島大学理工学研究科等理学系事務課総務係から、総務課総務係へ赴任して参りました。

担当する業務は、会議の議事要旨作成、教員研究集会の周知、諸調査の取り纏め等です。

異動して間もない頃は、新しい環境に慣れることだけで精一杯でしたが、教職員の皆様の温かいご指導とご協力のおかげで、段々と落ち着いて業務を行えるようになってきました。学生の皆様も、とても礼儀正しく、大きな声で挨拶をして下さるので、仕事をする上で、励みになっております。

趣味は、映画鑑賞で、よく休日にビデオを借りて観ています。映画に描かれる風景や歴史、思想や人生観等

は、とても興味深く、感銘を受けることが多々あります。音楽を聴くことも好きで、ジャンルを問わず、気に入った曲を、情景を思い浮かべながら聴いています。通勤途中の車の中では、眠気覚ましに、テンポの良い曲をかけています。その他、家族で温泉に出かけたり、雑誌やテレビで美味しそうなお店を見付けては、食べ歩きをしたりしています。

また、ジャンガリアンハムスターを飼っていて、その愛らしさに、日々、癒されています。

鹿児島高専での業務につきましては、まだまだ把握できていないことが多く、そのため、皆様には、これからもご迷惑をおかけすることと存じます。

少しでも早く仕事を覚えて、微力ではありますが、鹿児島高専の教育・研究の発展にお役に立てるよう努力して参りますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

総務課企画係 山口 剛

鹿児島工業高等専門学校の皆さん、はじめまして。

7月1日付で、鹿児島大学病院経営企画課より本校の総務課企画係へ異動となりました、山口です。よろしくお願いします。

私が担当する業務は、主に科学研究費関係のお仕事です。今までは学生部から医学部、大学病院の医療情報係と、現在とはまるで内容が違う業務に従事していたため、初めての業務に戸惑い、周りの方々にご迷惑をかけながらも、勉強また勉強の毎日です。様々な通知文書や問い合わせが来ては資料を見て、内容を調べて対応する…この繰り返しで、今は業務に慣れることを心がけています。

自分自身が大学を中途退学したこともあり、学生生活を身近に感じる仕事にやってみたいと思い、8年半前に鹿児島大学にやって参りましたが、先述の通り6月までは大学病院の事務部に所属していたため、大学所属にもかかわらず大学生とほとんど関わりのない業務に従事していました。その事にちょっとした違和感を感じていましたが、今回の高専での勤務はまさに『身近に学生がいる環境での仕事』であり、数年ぶりに自分が思い描いていた仕事の環境にいるのかなと思っています。

鹿児島市内から高専まで、J Rと自転車を使って通勤していますが、それがとても良い気分になります。今まではバス通勤・電車通勤だったのですが、ほんの片道10分強の間とは言え自転車を使い、体を動かしていると心もスッキリしてきます。景色も良いですし、騒音がうるさいこともなく、通勤時間が今の私にとっての癒しの時間になっています。

以上のように、通勤に始まり業務内容から職場の環境に至るまで、初めて経験することがたくさんといった状

況ですが、この高専での体験を糧に、自分自身も成長しながら頑張っていきたいと思います。至らないところ多々あるかもしれませんが、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い致します。

総務課人事係 阿多 晴美

平成21年7月1日付けで鹿児島大学から総務課人事係へ赴任して参りました。初めての他機関への異動でしたので、赴任前は不安もありましたが、高専は教職員の方々や学生さんが笑顔で挨拶して下さるなど、アットホームな雰囲気ですので、すぐに馴染むことが出来たように思います。

担当業務は、給与計算や兼業、諸手当の申請、旅行命令です。赴任して数ヶ月経ちますが、こちらは、まだまだ勉強の日々です。

さて、趣味と言えるか分かりませんが、私はマリネリジャーが大好きで、今までにいろいろと挑戦しました。スキューバダイビング、ボディボード、ウェイクボードやシーカヤック…などなど。

特に、スキューバダイビングは、海中という別世界を体験できますので一番好きです。熱帯魚や生物のウォッチングは楽しいですし、何よりあの浮遊感がたまりません。無重力状態でフワ～となって、とてもリラックス出来ますよ。水が苦手な方でなければ、是非、一度体験されることをお勧めします！

最後になりましたが、経験したことのない業務が多く、不慣れなため、皆さまにいろいろとご迷惑をおかけすると思いますが、一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

総務課財務係 田畑 優子

平成21年7月1日付けで鹿児島大学から赴任して参りました田畑です。

私にとってこの鹿児島高専は採用から長く勤務させて頂いたなつかしい場所です。今回の異動で鹿児島大学から3年3ヶ月ぶりに帰ってきて“随分と建物等がきれいになったなぁ”というのが第一印象でした。それと反して変わらないのは、学生さん達の元気で楽しそうな姿…充実した学生生活を送っているのだらうなぁと感じさせてくれ“ほっ”としました。大学生とは違う雰囲気に、久しぶりに私まで元気をもらったような感じがしました。（大学では病院勤務だったので余計に感じるのかもしれませんが）

採用当時を思い出すと 学生の中に中学の同級生がい

たこともあり、ほぼ学生に近い目線でした。ですが、今ではすっかり“親”の目線になったような…（実際うちには保育園児がいます）

また本校で勤務させて頂くにあたり、この「違い」を上手く活かしてこれからの仕事を頑張っていきたいと思っています。

現在の職務は学生の皆さんと直接関わるのが少ないですが、仕事を通して少しでもこの鹿児島高専に貢献できるよう微力ながら頑張っていきたいと思っています。ご迷惑をおかけすることもあると思いますがよろしくお願いします。

総務課財務係 有働 穰嗣

7月1日付けで鹿児島大学から異動して参りました有働と申します。

私は、今回が初めての人事交流で、鹿児島大学以外の機関を経験するのは初めてですが、鹿児島高専の皆さんは高校生相当から大学生相当と年齢層が幅広いためか、赴任当初は大学とはまた違った雰囲気がとても新鮮な印象を受けました。また、仕事内容についても規則を始めとしてシステムなども色々と違って、毎日良い勉強をさせていただいております。

現在、財務係で主に決算関係と書類監査の業務を担当しておりますが、初めての業務内容で、まだ不慣れな点も多々あり、皆様には色々とご迷惑をおかけすると思いますが、何卒宜しくお願いいたします。

総務課用度係 小坂 真弓

平成21年4月1日付けで鹿児島大学から赴任してまいりました小坂 真弓と申します。

総務課用度係で物品の調達等を担当しております。

鹿児島高専で勤務させていただく事になりましたが、大学以外で勤務するのは初めてで、こちらに来てからは新鮮に感じる事が日々たくさんあります。

学生の皆さんが職員に挨拶をしてくれることにすら感動してしまいました。

高専は大学や3年制の高校とは違う面を色々持っている独特の学校ですが、学生の皆さんは学業も課外活動等にも一生懸命で、とても充実した毎日を送っているように感じられ、その学校生活を見ているととてもうらやましくなります。

また、高専のある霧島市にも鹿児島市とはまた違った文化や地域性があり、隣の宮崎県出身の私はこれからもまだまだ色々な人達と接しながら、新しいものを見つけ経験していくことができそうです。

新しい環境を楽しみながら、毎日新鮮な気持ちで勤務

していければと思います。

今年度は、学内の建物や設備等も新しくなる物がたくさんあり、事務部の方も慌ただしい日々を送っておりますが、学生の皆さんや教職員の皆さんのために少しでも役立てればと思っておりますので、至らぬ点多々あるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

学生課教務係 米村 栄太

平成21年7月1日付けで鹿児島大学から異動になりました米村栄太と申します。

鹿児島大学では、会計系の業務関係を担当しました。

鹿児島高専に勤務し感じたことは、学生からの挨拶してくれた事がとても印象に残っています。

現在、学生課教務係に所属していますが、学生関係の仕事が初めてで、毎日悪戦苦闘しながら頑張っています。

勤務当初から関係者の方々には、色々ご迷惑をお掛けいたしておりますが、どんなことにも負けずに日々努力していきたいと思っています。

今後ともご指導よろしくお願いいたします。

学生課学生係 川越 渚

平成21年4月1日付けで学生課学生係に採用になりました、川越渚と申します。3月まで鹿児島大学で学生生活を送っており、社会人として初めての職場がこの鹿児島高専でした。

生まれも育ちもずっと指宿でしたので、新たな土地での生活に少々不安も感じておりましたが、隼人ののどかな雰囲気や、住みやすい環境にすぐ馴染むことができました。町並みも指宿とよく似ている気がします。こちらでは灰がたくさん降ることにびっくりしましたが、居心地が良く温かみのあるところだな、と感じております。鹿児島高専に初めて来た時も、そういった温かさを感じることができました。学生の方々ははじめ、教職員の方々と接するなかで、そういった印象は一層強くなり、この学校で働けることを嬉しく思います。

学生から社会人になったということで、初めの頃は生活に慣れるだけでも精一杯という状況だった記憶があります。何が分からないかすら分からず、御迷惑をかけてばかりでした。しかし、少しずつですが慣れることができたのは、鹿児島高専の皆さん、特に同じ課や係の方々のおかげです。

今はまだ、自分の視野の狭さや至らない部分を痛感してばかりの毎日ですが、これから様々なことを吸収していき、もっと成長できるよう一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

学生課学生支援係 高木 直

皆さん、初めまして。

私は、この度平成21年7月1日付で学生課学生支援係（寮担当）へ着任しました高木直（たかきなお）といたします。とりたてて皆さんにお伝えするようなことは残念ながらありませんので、まずは、自分の生い立ちからお伝えしようと思います。

私は、熊本で生まれ育ちました。熊本といっても、小中高から大学の途中までは、熊本市に隣接するニンジンが特産の菊池郡菊陽町に住んでいました。その後、剣豪宮本武蔵の眠る武蔵塚近く熊本市武蔵ヶ丘へ引っ越し、就職のために鹿児島へ移り住んだわけです。

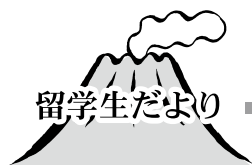
小さい頃から平凡な女の子で、中肉中背・成績はクラス真ん中、秀でた特技もなく、地味に過ごしてきました。このことから、逆転の発想で自分の長所を述べるとすると、目立つことなく周りに溶け込み、どんな場所でもすぐ馴染むことができる、といったところでしょうか。

かれこれ鹿児島に住んで約8年経ちますが、最初に赴任したのは鹿児島大学で、最近では大学附属病院に勤めていました。これまでの業務は事務一般で、鹿児島高専で配属された寮事務室のような、学生と直接触れ合うような窓口業務は、全く経験したことがありません。ですので、思いもよらない質問を学生や保護者の方から受けると、とっさに対応することができず固まってしまうことが度々あります。

ところで、寮事務室から見た寮生の生活は、大変規則が厳しいというのが私の素直な感想です。もちろん、寮生活など経験したことなく、朝の点呼から夜の点呼まで、今の私がスケジュールどおり生活できるかという、全く自信がありません。恐らく2日に1回は点呼不在でペナルティを貰う羽目になるでしょう。

しかし、一方では寮生の皆さんを大変うらやましくも思います。早くから親元を離れ、勉強や部活で互いに励まし競い合いながら、1日の大半を同年代の仲間と共に過ごした体験は、これからの人生で素晴らしい思い出になるはずです。また、厳しい寮の規則の中で、責任や自律した生活態度を身につけることは、社会人として生きていく上では必須の条件です。

これから私は、そんな寮生の皆さんが寮で過ごす日々がより充実したものとなるよう、自分なりのペースで寮事務室での業務を行っていこうと思っています。こんな私ですが、鹿児島高専の皆さん、これからどうぞよろしく願いいたします。



平成21年度留學生活動報告 (1)

一般教科文系 精松伸二

本年度から留学生担当統括員という務めはなくなり、新に校長特別補佐（国際交流・留学生担当）という職務が位置づけられるようになりました。その任に当たることになり、国際交流という広範囲で難しい活動にも従事しなければなりません。

留學生活動に関しましては、関係教員、事務その他で援助してくださる学生支援係、チューターの皆様方のご協力を頂きながら、これまで同様邁進していく所存でございます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

本年度は2名の留学生が入学し、各科に1名ずつ、全体では5名の留學生が在籍しております。以下の表に留學生、指導教員（クラス担任）、チューターの方々をご紹介します。

クラス	外国人留學生	略 称	国 籍	指導教員	チューター
3 M	ラナトウングゲ・サチト・ メーヌカ・ウイジェスンドラ	メーヌカ	スリランカ	椎 保幸	鮫島 佳
3 C	サムレット・クッチ・ヴッテイー	ヴッテイー	カンボジア	前野 祐二	竹内 護
4 S	ゴー・テー・ギア	ギア	ベトナム	河野 良弘	久保田吉博
4 I	サイカー・カオヤン	カオヤン	ラオス	加治佐清光	田ノ元正和
5 E	リム・キムスルン	キム	カンボジア	須田 隆夫	

次に、本年度前期（4月～8月）の留學生活動を報告致します。

*学 内

- 4月2日（木）新留學生オリエンテーション
- 29日（水）留學生会合
- 5月7日（木）チューター会合（年間計画について）
- 25日（月）新留學生クラス担任・清水先生（日本語）・留學生担当者面談
- 6月28日（日）留學生会合
- 7月1日（水）7時限1年特活「留學生との国際交流」
4Sギア君（1M, 1E, 1S）、4Iカオヤン君（1I, 1C）

*霧島市内

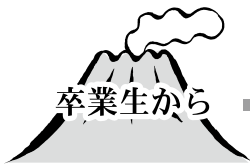
- 4月20日（月）霧島市国際交流協会会合（国分シビックセンター）
- 5月2日（土）－3日（日）学生会主催ボランティア活動（サテにて）
- 22日（金）新入留學生歓迎会
- 6月7日（日）鹿屋バラ園見学
- 25日（木）霧島警察署管内国際化対策協議会（ホテル京セラ）
- 9月6日（日）国際親善レガッタ（隼人町）5Eキム君、4Sギア君

*霧島市外

- 4月23日（木）各大学の留學生担当者意見交換会（県民交流センター）
- 5月4日（月）－5日（火）知覧町（内蘭様）でホームステイ
- 6月13日（土）－14日（日）多国籍合宿（鹿児島大学留學生センター主催・国立大隅少年自然の家）
- 20日（土）－21日（日）留學生・国際交流担当教員研究集会（沖縄高専）
- 7月8日（水）鹿児島地域留學生交流推進会議および懇談会（鹿児島大学）
- 9日（木）－10日（金）平成21年度留學生交流研究協議会（東京） 坂井学生課長出席
- 18日（土）－19日（日）知覧町（内蘭様）でホームステイ
- 25日（土）－26日（日）隼人地区子ども会との宿泊研修（国立大隅少年自然の家）
（霧島市隼人地区子ども会育成連絡協議会主催）
5Eキム君、4Sギア君参加
- 27日（月）留學生会合
- 28日（火）チューター会合
- 8月8日（土）始良町重富花火大会 3M メーヌカ君 3C ヴッテイー君
- 12日（水）高山町花火大会 4S ギア君

留學生諸君は、諸行事を通して多くの方々と交流をしています。このような地域社会との交流活動はお互いにとって貴重な体験であることは確かだと思います。

終わりに、留學生活動をご理解くださり、一層のご指導・ご鞭撻をくださいますようお願い申し上げます。



高専七年間を経て

新日本石油株式会社 鶴田 裕介

時が経つのは早いものであり、執筆時点で高専専攻科を卒業して2年4カ月が経ちました。15歳で親元を離れ、高専に入学した日からもうすぐ10年が経つ事を改めて知り、自分ももう若くはないな…と思いつつ原稿を書いております。私は高専の機械工学科、専攻科を出た後に早稲田大学大学院へと進み、今年の4月より新日本石油株式会社へ入社致しました。高専を離れ、大学院、会社へ就職した今だからこそ感じる、これだけはみなさんにお伝えしたいと思う事を書かせて頂きたいと思います。

まずは、実は高専の学習プログラムは本科、専攻科共にとてもハイレベルなものであるという事を認識してもらいたいと思います。私を知っている先生方が見たら「あの鶴田が勉強の事を語っている…」とおっしゃるかもしれませんが、勉強を厳かにしていた者だからこそ同じ仲間を増やさない為にも言っておきたいと思います。授業はもちろんの事、実習や卒業研究など普段何気なく受けているかもしれませんが、大学院や会社に入った場合においても充分通用するレベルです。また、その大学によってレベルの差はありますが、ほとんどの4年制大学出身の学生には味わう事の出来ない学習プログラムを高専では受ける事が出来ます。と、ここまで熱弁を振るってもその恩恵を理解し、今日から猛勉強する人はいないと思います。私がみなさんの立場だったら「こいつ何言ってるんだよ。」と思って絶対にしません。ですので、家に帰って何時間も勉強するのもいいですが、とりあえず授業だけは真面目に聞く事をお勧めします。私もそうでしたが授業中って暇だなあ…と思っているあなた！暇だしやる事がないなら、せっかくだし授業を聞こうかなと思って取り組んでみて下さい。その小さな努力は全てあなたの知識に変わり、将来必ずあなたの役に立つと思います。その心掛けが重要であり、あなたの力を伸ばす一番の近道となるはずですよ。

勉強の事をあまり語るつもりはなかったのですが長々と書いてしまいました。最後にみなさんに伝えたい事ですが、とにかくアンテナを高く張り巡らして、たくさんの仲間と色々な事を経験してもらいたいと思います。その経験は部活やアルバイト、遊びと何を通してでもいいと思います。私自身がそうであった様に、高専時代に経験した全ての事があなたの財産になると思います。特に、一番多感な時期に縁あって出会った高専の友達との思い出は、未だに鮮明に覚えているものであり、この年になっても時間さえあれば一緒に笑いあえる心の支えとなっています。これから楽しい事も辛い事もまだまだたくさん待ち受けているとは思いますが、何事も全力で立ち向かい、後悔のない高専生活を送って下さい。

ご挨拶

電気工学科 第28期生 小迫 雅裕

九州工業大学大学院 工学研究院
電気電子工学研究系 電気エネルギー部門・助教
(平成6年度 電気工学科卒業)

学生のみなさん、お久しぶりです。元・電気電子工学科教員の小迫です。母校での教員生活は3年5カ月と短いものでしたが、私にとって非常に素晴らしい有益な経験になりました。ご挨拶遅れましたが、昨年9月から上記の機関で研究中心の生活に没頭しております。高専では教育・指導・研究の三つを同時に運営せねばならず、研究は疎かに（ならざるを得ない？）しておりましたが、今は研究成果が求められる環境にあり、逆に言い訳ができなくなっております。

思い返すと、授業のやり方については、現場で試行錯誤の連続でした。脱線し過ぎると授業進行が遅くなり、後半は駆け足で終わらせてしまい、消化不良になる科目もありました。改めて授業のやり方の難しさを痛感したのと同時に、理解してくれた学生が増えることの喜びや教壇に立つ楽しさを知りました。この経験は本当に貴重な財産になりました。4年担任時には工場見学旅行としてドイツへ行かせて頂きました。参加した学生にとっては大変貴重な経験となり、非常に成功だったと自負しております。また、学生時代にお世話になったサッカー部に少しでもサポートできたのは光栄でした。

寮生に一言、「朝のラジオ体操をしっかりとやりましょう。」私の学生時代よりも幽霊体操の比率が高いように思いました。一日の始まりを体に伝える打って付けの時間です。それが終わったら食堂へ行って美味しい朝食を取り、朝の時間を予習・復習に充てるなど有意義に過ごしましょう。私の心残りは「寮歌」を復活できなかったことです。寮務主事補を務めていた時には復活を考えていたのですが、実現できませんでした。せっかくの伝統ある素晴らしい寮歌をどなたか復活して欲しいものです。ちなみに、私の学寮時代には毎年1年生に朝礼後に大声で歌わせていました。

学生へのお願いとして次の三つをあげます。①授業内容は全て覚えていなくても、習ったことは必ず覚えておいて下さい。（習ったことだけ覚えていれば良いというわけではありませんので、悪しからず。）卒業後、うろ覚えな専門用語に会ったときに、あの教科書・ノートを見ればよいのでは？と思いだして行動に移してほしいです。②基礎学力をしっかりと身につけて下さい。高専生は会社のみならず大学からも（編入生・大学院生として）優秀な人材であると注目されています。しかし、一方で数学や英語などの基礎学力が大学生より劣ることが私の経験上痛感しています。教科担当の先生方の指導にも更に頑張ってください。

ントを磨いて下さい。卒業後は大卒生と肩を並べて競います。もし学力や知識で敵わなくても、協調性、コミュニケーション力、リーダーシップ力などでカバーするなど自分の武器は何かと常に自問自答して磨いて下さい。そのためには寮生活、応援団、部活動、課外活動などの環境は鹿高専には揃っていると思います。それらのハードウェアを活かすも殺すも学生諸君の心がけ次第です。何事にもチャレンジしましょう。

以上、取りとめのない話で申し訳ございません。最後になりましたが、学生皆様の益々の活躍と、鹿児島高専の益々の発展を祈念し、締め括らせて頂きます。

新社会人になって

電子制御工学科卒業生 原田 竜昇

とある居酒屋の席。

同期：「君はどこの出身？」

私：「九州の鹿児島だよ」

同期：「お酒強いでしょう？」

私：「いや、すごく弱いよ」

同期：「へー、意外だね」

…。東京に出てきてから間違いなく10回以上は交わした言葉です。

高専を卒業し、新社会人になってから、約4ヶ月たちました。初めて鹿児島以外での生活をはじめ、ようやく環境に慣れてきたところですよ。社会人になってたくさんの人たちとの出会いがあり、出会いがあるたびに、飲み会もたくさんあります。私はお酒がとても弱いので、酔って潰れてしまわないように、日々頑張っています。

もちろん頑張っているのは飲み会ばかりではありません。まだ研修中ですが、業務も頑張っています。今回は入社してから間もない研修の様子についてお話します。

私が働いている会社は、新入社員が800名近くいて、高専のように1クラス40名程度で研修を受けています。研修では、「社会人としての知識（ビジネスマナー、ビジネススキルなど）」や、「SEとしての知識（プログラミング、ファシリテーションスキルなど）」といった内容を学んでいます。学生と違い、給料を貰いながら研修をさせてもらっている立場であるので、今まで以上に勉学に励んでいます。

高専卒として、研修を通して感じることは、経験が足りないことだと思います。学んでいる内容は同じでも、周りの同期は、ほとんどが年上なので、知識や経験が豊富な人が多く、自分自身に全然知識や考え方が足りないと思い知らされる場面が多々あります。それは、物事の分析能力だったり、英語能力だったりします。しか

し、正直なところ、あまり気にしていません。知識については、2年や4年などの差があるので、仕方のないことで、逆にいえば、若いからこそ知らないことがあって当たり前、失敗もあって当たり前だと思います。だからこそ能動的に行動することが出来るようになります。それを常に考え行動し、研修クラスのリーダーや飲み会の幹事を率先して引き受けました。それまでは人前で話すことが苦手でしたが、このような経験を通してそれを克服することが出来ました。このように、言われたことだけに対して働くのではなく、何か、考えや目的を持って行動することが大切だと思いました。

高専での5年間の生活はあっという間で、同じように研修も毎日が忙しく、あっという間に感じます。一つひとつ物事をしっかり学び、理解し、それ以上に楽しみ、配属後も自分が選んだ進路に自信を持てるように元気に頑張りたいです。それと飲み会も頑張りたいです。

知識のつかいどき

情報工学科卒業生 柏木 梨沙

皆さん、こんにちは。情報工学科第18期卒業生の柏木です。高専だよりの記事ということで、保護者の方々、諸先生方、そのほか多くの方がお読みになると思いますが、今回は在校生の皆さんに的を絞って書かせていただきたいと思います。

今回、私が言いたいことは、人生のうちにどんな知識をいつどこで使うことになるかは分からない、ということです。当たり前だと思われるかもしれませんが、私は、社会人になってからその当たり前のことを思い知りました。例えば、開発系の仕事に就く予定なのに、地理や歴史などの科目は何の役に立つの？というような疑問を抱えている人は、高専に入る年齢になっても少なくないのではないかと思います。ですが、そういった知識は、職場・プライベート問わず、どこかで使う機会に出会う可能性があるものです。しかも、そんな機会は大抵、突然訪れるのです。

地理や歴史は常識にも通じる科目ですから、やっぱり当たり前じゃないかと思われる方もいらっしゃるでしょう。ですが、これが平面・空間座標の求め方だったり、行列式だったり、内積・外積の使い方といった知識だったら、皆さん、こういった場面で必要になるのか想像できますか？

私は、つい最近、こういった知識の必要に迫られました。職場で仕事としてでした。Google先生のお世話になったことは言うまでもありません。手元に教科書もノートもないのに、突然思い出せといわれても土台無理な話です。むしろ、学生のうちからその”いつか”を

想定して勉学に励む人は、ほとんどいないのではないでしょう。

もちろん、卒業までに学ぶ科目の中には、一生縁のない知識もたくさんあるでしょう。でも、それと同じぐらい、何かの拍子に縁ができる知識もあるかもしれません。ちなみに、前述の突然必要になった数学的な知識は、職場内のチーム異動によって再び無縁のものとなりました。もしかしたら、またお世話になる日が来るのかもしれないかもしれません。

さて、ここまで書いておいて話を覆しますが、在校生の皆さん、勉強にばかり没頭せずに、今しかできないことも目一杯楽しんでください。部活、遊び、バイト、学校行事、たくさんあると思います。どんな知識をいつどこで使うことになるかは分からない、ということは、どれだけ手を広く伸ばそうともきりが無い、ということ。ただ、いつでも知識の深い人（先生）に教えることができる、疑問を共有できる人（クラスメイト）がたくさんいる時間は、今しかないことも事実です。「どんな知識をいつどこで使うことになるかは分からない」ということを心の片隅に置いておけば、将来、少しでも楽ができるかもしれません。

卒業して一年ちょっとの私が皆さんに言えることは、これだけです。それでは皆さん、楽しい高専生活を！

本科を卒業して思うこと

鹿児島高専土木工学専攻1年 黒田 恭平

高専の本科を卒業してから4ヶ月ほどが経過しました。私自身は本校の専攻科に進学したために、廊下を歩いているところを西留先生に呼び止められ、執筆を依頼されてしまったがために悩みながらこの文章を書いているところです。

本科の5年間は私にとって、サッカー部がほぼ大半を占めていました。鹿児島高専のサッカー部といえば、他の高専のサッカー部の目標であり、常に勝つことを当たり前とされる部活でした。そのため監督の指導や上下関係はとても厳しく、ときには辞めたいと思うことも少なくありませんでした。しかし、5年間サッカーをやり通せたのも仲間の支えがあったからです。喧嘩もしたりしましたが、それでも仲間のみんなと一緒に最後まで頑張ることができました。部活動に入っている学生もいれば、どこの部活にも入っていない学生もたくさんいると思います。私が言いたいのは、仲間を大切にしたいということです。本科の5年間は長く険しい道になる人も少なくはないでしょう。そこで、頼れるのは同じ時間を過ごしてきた仲間だと私は思います。その繋がりには社会に出てからも役に立つことでしょう。本科の学生が

仲間と一緒に笑顔で卒業できることを願っています。

先程、偉そうなことを言いましたが私もまだ高専の専攻科に在籍しています。学校で見かける人も少なくはないでしょう。私は今将来のために勉強をしています。今切実に思うことは、もっと本科のときに勉強をしていれば良かったと強く感じます。勉強をするということは何も恥ずかしいことではなく、就職した同級生からも勉強面での後悔は色々と聞いています。どうせ、社会に出たら勉強しないといけないのであれば今勉強したほうが良いと私は思います。私の話を聞いて、少しでも勉強する学生が増えたなら嬉しいです。

最後に本科のみなさんに言いたいことは、明確な目標を持って日々の生活を過ごして欲しいということです。漠然と過ごすだけではやはり記憶にも残らないし、虚無感がどうしても残ってしまうと思います。なにかやりたいことがあるなら、行動してください。考えるだけでなく、行動することに意義があると私は思います。学生の間は責任も無いので失敗することを恐れず突き進めばいいと思います。その失敗の中で、少しずつ学んでいけばいいのではないのでしょうか。高専の教育は学生の自主性に任せている点が多くあります。そこで、学生の意識の高さが学生の将来にとって大事なのではないかと強く感じます。

皆さんの一度きりの高専生活が悔いの無い形で終わるように願っています。

大学院進学について

名古屋大学大学院 濱田 廣貴

私は鹿児島高専を卒業後、専攻科に進学し、さらにその後は名古屋大学大学院へと進学しました。今回、高専便りの原稿の執筆の機会をいただいたので、大学院進学というものについて少し述べたいと思います。

今、この文章を読んでいる方の中には大学への編入、専攻科への進学を考えている方や、現在専攻科に在籍している方がいると思いますが、そういった方たちには是非、大学院への進学を考えていただけたらと思います。私が以前、学会へ行ったときに、様々な大学の先生とお会いし、話を聞きました。それによると、高専生は大学生にはない魅力があるのだそうです。高専では5年生から卒業研究を始めますが、専攻科の2年間の特別研究と合わせると3年間、大学で言うところの2年生から4年生の間、研究をしています。一方、大学ではだいたい学部4年時の1年くらいしか研究をしません。研究の経験で言えば、高専生のほうがはるかに長い間研究に携わっています。また、たとえば、実験装置を作らせると大学生が作ったものよりもはるかに良い装置を作り上げることが

できるそうで、大学の先生方の評判がいいようです。私もたくさんの先生から「うちの研究室に来ないか」と誘われました。それともう一つ、大学院の進学試験について述べたいと思います。大学院の進学試験というもののすごく難易度の高いものだと思える方もいるかもしれませんが、実際はそうでもありません。推薦入学の制度のある大学院では筆記試験をせずに面接のみで受験することができます。つまり、難しい編入試験を経て大学に編入するよりも、専攻科から大学院へ進学するほうが簡単でお得だというわけです。

ところで、大学院での授業についてですが、私の場合は1週間のうちに授業は7コマ（高専で言うと14時間分）で、そのほかの時間は研究です。定期試験というものがあったのは1教科のみで他はレポートによる評価です。難しくて全くついていけない教科があっても、とりあえず出席してレポートを書けば単位はもらえます。私は、大学院では自分の専門分野に全力を注いで、ほかの教科はそこそこでもいいと思っています。

将来、研究職に就こうと考えているなら、やはり大学院卒の資格、つまり修士は必要ようです。それ以外にも、たとえば今やっている研究をまだ続けたい、こんな研究をしてみたい、学歴がほしいなど理由は様々だと思いますが、みなさんも専攻科から大学院へ進学するということを考えてみてください。

専攻科を修了して

ソニーセミコンダクタ九州(株) 島田 晃聖

何も分からないところからのスタートはとても不安でした。新人研修で社会人としての心構え、業務に必要な知識を学び、部署に配属され、すべてが初めての仕事をします。毎日新しいことを学び、必死に覚えバタバタと過す。気付けばもう4ヶ月が過ぎました。そこで感じたことを書いて見ようと思います。

まず、仕事は大変だということです。学生は時間があるので、計画を立てなくても「なんとかやる」でうまくいきますが、仕事は違います。「ケツを決めて仕事をしなさい」とよく言われます。スケジュールを立て、期限までに完璧に完了させる。毎日時間に追われて仕事をしている気がします。テスト前の勉強はそれに近い感覚だと思います。社会人になると勉強する時間がないので、今のうちにしっかり勉強して下さい。高専で学んだことは必ず役に立ちます。完璧でなくてもいいです。こんな公式があった。あの教科書に載っていた。と覚えているだけでもいざ必要になり勉強を始めた時にスーッと頭に入ってくると思います。

そして、趣味が大事ということです。社会人になり、

休日の過ごし方がとても大事だと感じました。休日をただの休みに使うのではなく自分のために過ごして下さい。新しい環境で楽しく過ごせるか、趣味を通しての人と出会えるかで生活が変わると思います。

最後に、時間を気にしないで好きなことに没頭できるのは今だけだと思います。色々なことに興味を持ち、経験し、自分の視野を広げて下さい。そして就職してから大きな支えとなってくれる高専の仲間を大事にして下さい。

～進路を悩んでいる学生へ～

高専卒と大卒を比較すると高専卒の方が実習や研究などを多く経験していますが、給料面で大きな差があります。専攻科に進学し「学士」を取得し、大卒と同じスタートラインに立ってみてはいかがでしょうか？専攻科では一人で研究を進めることで、課題への取り組み方、プレゼン力などを確実に自分の力にできます。さらに、就職した人の話を聞くことで進路のことについて考える時間もあります。自分にとって専攻科はとてもよい環境だったと思っています。

鹿兒島高専専攻科を 修了して思うこと

平成18年度 電気情報システム工学専攻修了 大石 直樹

私は現在、東芝テック株式会社のインクジェットヘッド事業推進部という所で産業用インクジェットヘッドの開発を行っています。まだ入社して間もないですが、色々な仕事を経験し、充実した日々を過ごしています。

仕事内容としては、インクジェットヘッドの考案・プロセス開発・試作を行っています。インクジェットプリンターは液体を扱うため、情報・電気に加え物理の知識が必要となります。圧力計算や流体の制御など大変ですが、とてもやりがいのある仕事です。

私は電気工学科を卒業し、専攻科・電気情報システム工学専攻へ進学、その後、大学院を経て今の会社に入社しました。電気工学科を卒業したのは4年前になります。しかし、高専で学んだ知識・技術・経験が、今とても役に立っています。高専の講義は大学に比べて実践的なものが多いため、すぐにいろんな仕事に対応することができると思います。だからこそ、高専は社会的に高く評価されているのだと思います。

私も大学院進学や就職活動の際、高専が高い評価を受けていることを実感しました。高専というブランド力は在校生のみなさんが考えている以上に高い力を持っています。周囲から一目置かれ、期待を寄せられます。でも、不安になることはありません。今、学んでいる知識・技術は社会に出ても役に立つ本物です。学んだこと

をそのまま発揮すれば、それが良い結果になって返ってきます。

また、役に立つのは知識・技術だけではありません。友人や先輩・先生との交流によって、自分の視野が広がり人間力を磨くことが出来ると思います。会社にいる人は年齢も専門も様々ですが、一緒に仕事をする機会は多々あります。そのとき、重要になってくるのは知識・技術よりもコミュニケーション能力だと思います。年の離れた先輩や個性的な先生との会話など、コミュニケーション能力を鍛える場は沢山あると思います。高専というすばらしい環境にいる内によく学び、よく遊ぶことが将来の自分に繋がると 생각합니다。

不景気な中、進路を決めるのは大変だと思いますが、今のうちに色々な経験をし、将来の自分を創造しながら、有意義な学生生活を送ってください。

専攻科で学んだこと

平成19年度 土木工学専攻修了 上堀内 亮太

私は専攻科修了後、大阪ガス株式会社に勤務しております。会社では、ガス工事の維持管理に従事しており、他設備業者との打合せや工事の立会・内勤では資料作成など行っています。振り返ってみると専攻科で学んだ知識や技能・そして考え方が社会に出て大いに役立っているのご紹介致します。

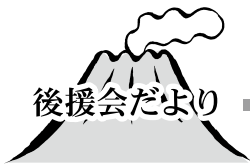
高専の5年生の時に、卒業研究があります。専攻科に進学するとさらに二年間継続した内容の研究を行うということで、知識や研究を掘り下げることができ、より高度な専門的な知識とそれらを活用する能力を身に付けることができました。また成果を発表する場も与えられ、それに伴う原稿作りから発表に至るまで先生のご指導頂きながらも主体的に学ぶことができました。会社に入ると、自分のやってきたことそしてアイデアをお客様に分かりやすく説明しなければならない場面や資料を作る・議事録を書くという機会が非常に多く、私も仕事で資料を作成し人前で発表することが多々あります。学生時代の研究発表や苦勞して論文を書いた経験を通してプレゼンテーション能力と資料を整理する能力が段階を踏んで蓄積され、今の仕事に役立っているものと感じております。

私の専攻科での研究テーマは岩盤の引張試験に関するもので、今の仕事とは直接関係ありません。皆さんの中にも専攻科で高度な知識と技能を学んだとしても全く専門とは無縁の会社に就職したとしたら意味がないと思っている人がいるかもしれません。でもそれは誤解です。高専・専攻科で身に着けた考え方（工学的思考）が大いに役に立ちます。物や技術には必ず筋道（理論）があ

り、一本の線のようにつながっており、辿っていくと答えが必ず出てくるものです。私は他設備業者とのガス管の経路について打合せすることがあるのですが、打合せの中ではやはり専門用語もたくさん出てきて、何をいつているのか分からず頭を悩ます事が多かったです。しかし、現状の把握と問題点の抽出、それに対する解決方法という視点から物事を捉えることで、今はまだなんとなくですが現場のイメージを連想させることができるようになりました。このように工学的・論理的思考力は社会に出てからも確実に通用します。また知識も着実に増えていきます。

また、専攻科に進学すると講義内容が自分の専門の科目だけでなく他の科と合同で授業を行う機会が増え、他の分野への幅広い知識や技術者としてのあり方なども学ぶことができます。専攻科には社会に通用する教材が揃っていると思いますが、それを生かすも殺すも自分次第です。やはり自主的に取り組むことが大事です。7年専門分野を勉強するということが、その道のプロを目指す近道ではないでしょうか。専門性を極めたいなら専攻科に進んでみるのも方法かと思います。親しみのある先生がバックアップしてくれますね。

最後になりますが、私は今の社会人生活を満喫しつつも学生時代に学んだ経験を糧にプロ意識をもって仕事に望み、今後とも精進して参りたいと思います。お世話になった先生方へ感謝の意を込めてお礼申し上げます。どうも有難うございました。



鹿児島高専後援会活動について

後援会副会長 菊谷 祐次

今春、長男の鹿児島高専入学に伴いまして担任の山崎先生よりクラス理事のお話があり、引き受けしました所（私の自宅が高専に一番近い事が理由だと思いますが）その後理事会にて、なぜか後援会副会長をお引き受けした次第です。まだ詳しい後援会の活動状況等が分からずに戸惑っておりますが、各理事皆様方のご指導を賜って精一杯に取り組みたいと思っております。

後援会活動は高専と各家庭の連絡を密にし、学生達の健全育成を全うする為に、学校事業を助成する事が第一の目的です。諸先生方をはじめ、後援会常務理事の岩元さんと各理事の方々のご尽力で5年前から始まりました授業参観と懇談会には、多数の保護者の方が熱い眼差しで見学されていました。

教室では担任の先生との話が弾み寮生活等の様子が伺え安心しました。回収されましたアンケート結果からもあり意義だったとのご意見が多く、学校に対する関心の高さが示されています。また本年度も支部会が開催されます。ぜひ参加されて寮生活や学校の様子など様々な情報交換の場として活用され、高専を深く知っていただきたいと思います。

また鹿児島高専は、全国55校ある国立高等専門学校の一つで、昭和38年の開校以来46年の歴史ある伝統校となり、優秀な卒業生を多く社会に送り出しています。ロボコンを始め、体育・文化活動におけるバックアップも後援会の重要な活動です。本年夏の大会にも多くの学生が様々な競技に参加し、好成績を残されています。

「躍進を続ける鹿児島高専」を、後援会は一丸となり応援したいと思っております。

今年もまた、10月31日に文化祭、翌11月1日に体育祭が開催されます。ぜひご覧いただき、高専パワーを感じる「感動の日」を体感して下さい。

最後になりますが、今後共後援会活動にご理解とご協力をよろしくお願い致します。

前期を振り返って

後援会副会長 2M 堤 明美

まず、ごあいさつ申し上げます。

今年度副会長をさせて頂く事になりました。機械工学科5年と2年に息子が居ります。家が学校に近い事（応援団の太鼓の音が聞こえます）、体と声が大きくてどこにいるかわかりやすい事、が取り柄のふつつか者ですが、何卒よろしくお願いいたします。

さて、前期のハイライトは、何と言っても6月17日の「後援会総会&授業参観」でした。同日開催は、鹿児島高専開校以来初の試みで、奇しくも“トカラ列島の皆既日食”並みの一大イベントとなりました。

週の真ん中水曜日にも拘らず、たくさんの保護者の御参加を頂き、役員一同「すごいね、すごいね」と、まさにうれしい悲鳴でした。

去年は、昼食＝寮食試食、授業参観＝学生課の職員さんをお願いーと、楽チンだった我ら2年生理事。今年はドッコイ全部自分たちで仕切る！ため、緊張しました。事前に担任の先生方との打ち合わせと下見もしていたのですが、当日はやっぱりバタバタでした。至らぬ所はどうぞお許しください。

2Mの授業は物理Ⅲ。我が子らがとても賢く見えました。クラス懇談は、今年担任になられた嶋根先生と保護者の初対面、そして個人面談。充実した一日でした。

授業参観は今年で5回目。我が子と学校の様子を知る貴重な機会としてご好評頂き、昨年度からは学校主催となって定着しつつあります。より充実した行事として継続していきたいですね。

もうひとつ、これも後援会行事ではないのですが、ぜひご報告したいのが「第2回高専ロボットと音楽会」の盛況ぶりです。6月21日（土）鹿児島市民文化ホール第二の1階は立ち見が出るほどのお客様でした。吹奏楽部と演奏ロボットの熱演、メカ研の西郷さん・篤姫ロボットの共演を楽しんで頂けたと思います。小・中学生たちが熱心に質問し、ロビーに置いた本校のパンフレットを両手いっぱい抱えて笑顔で帰っていく姿に、「鹿児島高専の未来は明るい！」と、胸が熱くなりました。

日々、勉強に部活に頑張る我が子らと、ご指導くださる先生方、見守り支える保護者の皆さまーその一員であることを誇らしく思います。

今後とも、後援会活動へのご理解とご協力を、よろしくお願い致します。

15の夏、成長の記録

情報工学科1年 保護者 古居 智子

春と呼ぶにはまだ早く、足元から寒気が忍び寄る4月の初日。親も子も緊張した物腰で、それぞれよそ行きの顔を貼り付け、ひんやりとした体育館のパイプ椅子に座っていたあの日のことが思い出されます。

風に舞う桜の花びらの下、「じゃあね」とまるでちょっと買い物に行くような軽い乗りで、息子は照れた背中を見せながら学生服の群れの中に消えていきました。

それから2か月半後。緑に染まったキャンパスに再び足を踏み入れる機会に恵まれました。確かに季節は変わり、息子は想像以上の成長を遂げたことを実感しました。

後援会総会、全体懇談会、授業参観、クラス懇談、個人面談と当日のメニューは多彩で、少々気忙しいスケジュールではありましたが、徐々に気持ちりがほぐれ、開放的でフレンドリーな雰囲気になんか自分を感じました。

中学校までとは異なり、急に縁遠くなってしまった学校の存在に戸惑っていた矢先、高専後援会の一員として、学校運営に携わる方々と時間を共有させていただいたことは大きな喜びでした。

特に、クラス単位で保護者が一緒にお昼の弁当を広げたひとときは貴重でした。

名前だけは聞いていた息子の友人のルーツを求めて、「〇〇君のお母さんですか？」と声掛けすることで、和やかな楽しい会話が弾みました。別れる時にはしっかりメール・アドレスの交換も果たせました。

授業参観の教室では、高専生となった息子の姿を初めて目にすることができました。言葉を交わす時間はありませんでした。言葉と静寂の間、横顔がなぜか眩しく、ほっと胸をなでおろしました。

学生たちの目を見つめ、情熱的に語りかけられる先生のリラックスした中にも緊張感のある授業には深い感銘を受けました。

たまに送付されてくるメールの断片から想像していた息子の日常を、現実のものとしてほんの少しか垣間見ることができた一日でした。

滑り込みセーフで飛び乗った屋久島行き最終便の飛行機の窓から、隼人の町と高専のキャンパスがパノラマ模型のように見えました。

「頑張ってるね」初夏の風に乗せて落としたエールは、キミに届いたかな？

新人生の親となり

土木工学科1年 保護者 高山 弥生

「高専桜、咲いた姿を見られるかな。」冬深く凍えるような曇り空の二月の日、まだ固くつぼんだ桜を見上げながら最後の戦いである『国立・鹿児島工業高等専門学校』受験当日を迎えました。あの日から瞬く間に時は過ぎ、あの時の中学生は有難く『高専生』となりこの夏を過ごさせて頂こうとして…いないんです。いきなり前期の中間試験が出来ない、早くも窮地に立たされてしまった、そんな息子の姿にこちとら呆然自失しております。

合格の喜びと共に、厳しい世界へのかかなりな覚悟を決め、まるで入隊するかの様な入学、今生の別れかと見紛うほどの入寮。当初は離れた（と言っても同じ市内）我が子を思い幾晩眠れなかった事でしょう。それに引きかえその我が子は日に日に活き活き！！中学から始めた大好きなハンドボール部への入部に加え、アダルトな先輩方との交流など…予想をはるかに越えた楽しい学生生活により、完全に学生の“本分”を忘れてしまったらしい。高専という学校は入学式で校長先生方が口をすっぱくして（？）お話された通りの所でした。今、身に染みて親子共々実感中であります。人は弱いもの、楽な方楽な方へと行ってしまふもの…、まず高専の楽しい部分で目が眩んでしまった息子、次は正しく“苦”を味わっています。部活動を休部し、赤点打破に必死な状況です。受験の際「二度とこんな思いはごめんだ。」と思い、ここまで来た苦なのに？と、己の思慮の浅さに考え込んでいる間もないほど今さらがむしゃらです。馬鹿め…と怒りがなきにしもあらずですが、これも良い修行をさせて頂いていると感謝（と思いたい）。

そもそも文系を得意分野とする自分が、『世の中で一番楽しく立派なことは一生を貫く仕事を持つことです』という自己理念をコンセプトにやりたい事、なりたい自分に近づく為に苦手な分野に飛び込んだ事への挑戦が何をもたらすのか？喜びか？挫折か？それは分からないかも知れない。しかしいつかこの失敗に笑える自分となっていられる様に、今はこの涙を力にかけて悔いの残らない位のがんばりを、今こそ！見せて欲しい!!と切に願います。

まるで息子への応援歌みたいになってしまいました。が、このように十五の子供時分から人生の苦楽について学べるすばらしい学校、それが高専です。さすがは国立。と、そこの一員としてずっといられるよう、そこに入学できた自分を誇りにこのピンチをチャンスに切り抜けて欲しいを思っています。答えを出さなければ、そこで何もかも終わってしまう。入学の春より心から教えられた事―“学生の本分は勉強です”（裏を返せば、勉強さえまともにやっていれば何も問題はなかったのにね…。）息子よ、健闘を祈ります。

鹿児島高専で感じたこと

情報工学科 1 年 理事 室屋 留美

娘が鹿児島高専で学ぶようになり、数ヶ月が経ちました。素晴らしい環境に恵まれ、そのような環境の中で学べることを、娘も家族も大変良かったと思っています。

娘が中二の時に、初めて鹿児島高専の体験入学を申し込み、何もわからないまま参加し、その際に私も一緒に参加させて頂きました。

校内は、とても広く綺麗な学校であるということが、私の第一印象でした。体験入学の一日の中で、一番印象に残ったことは、学生の方々が気持ち良い挨拶をしてくださるということでした。日頃から子供に、挨拶の大切さを教えてきたつもりでしたので、このような先輩方のいらっしゃる環境でなら、きっと大丈夫だろうなと思っておりました。

それから一年経ち、中三の時に体験入学へ参加させて頂き、娘自身が進学を目標を鹿児島高専一本に気持ちを決めたようでした。

ご縁あって合格することができ、数回ではありましたが、会社の昼休みを利用して書類を持参する機会があったのですが、この時も体験入学の時のような学生の方の気持ち良い挨拶を体験し、本当に感心させられました。

社会に出て、一番に大切なことは「挨拶」です。気持ち良い挨拶を交わすと、気持ち良く仕事が出来ます。その点は、鹿児島高専の学生の方々はきっと大丈夫だろうと思いました。

入学してから、仕事で疲れて娘を迎えに行った際も、校内で出会う学生の方、寮の先輩方の元気な挨拶は、とても気持ち良く、疲れが消えて元気になります。皆さんのこの元気な挨拶は、社会に出た時に素晴らしい「力」を発揮してくれると思いますので、忘れずに続けて欲しいと思います。そして、後輩達にもこの鹿児島高専のすばらしい挨拶を引き継いで欲しいと思います。

娘の学生生活はまだこれからですが、この鹿児島高専で学ぶ勉強だけでなく、寮の先輩方や周りの方々から、勉強以外のことをどんどん学び、人間をしても大きく成長して欲しいと思っています。

私達親子の鹿児島高専生活は、これから暫くは続きますが、楽しく元気に過せることを願っております。

保護者懇談会実施について

電子制御工学科 4 年 理事 二階 直美

我が子が鹿児島高専に入学して早いものでもう 4 年生になりました。私は縁あって 2 年生の時に理事を引き受け現在に至っていますが、他の理事さん方に色々な事を教えて頂きとても良かったと思っています。

ところで鹿児島高専では 5 年前から 1 年生～3 年生までの授業参観ツアーを実施し、担任の先生との顔合わせ & クラス懇談会を開催していますが、4・5 年生については 10 月の保護者懇談会まで何もなく、それまで担任の先生が分からないという状況でした。

そこで今回、6 月に保護者懇談会を実施してほしいという事を各クラスの理事さんが担任の先生方に相談したところ、気持ちよく引受けて頂き全クラス開催する事ができました。

というのも、4 年生という学年は進路を決める大事な時期でもありますし、また、工場見学の先行や夏休みに実施されるインターンシップなど色々な行事がある学年なので早めに懇談会を開く事が絶対に必要だと思ったからです。

実際うちのクラスは 52 名中 29 名の保護者の方が出席して先生の話に耳を傾けていました。先生の方からは単位取得の話・クラスの状況・工場見学など盛りだくさんの話をして頂き時間がアッという間に過ぎました。子供達も二十歳を目前に口数も段々と減り、親との会話も少なくなってくる時期でもありますので、担任の先生との連絡を密に取り進路に向けて後悔しないように過ごしていければと思います。

今回この時期に懇談会を実施出来た事は大変良かったと思いますので出来れば来年以降も早い時期での実施を計画して頂ければ有難いと思います。

また、当日お忙しい中朝早くから足を運んで下さった保護者の皆様に感謝いたします。本当に有難うございました。

授業参観ツアー 5 年目にして

機械工学科 5 年 理事 石塚 洋子

「授業参観ツアー」…なんともおもしろい名目で始まった高専独特の授業参観ですが、始まって5年目を迎えた今年の参観は、例年とは違い、午前中が後援会の総会があり、午後が1～3年生までの授業参観という何とも過密なスケジュールで忙しい一日になりました。しかし、そのせいだったのでしょうか？それとも保護者の皆様が子どもの置かれている環境や学習状況に大変、興味があるということなののでしょうか？クラスによっては、100%に近い保護者の参加がみられ大変驚きました。

参加される保護者が年々増えて主催する後援会側としては、準備の大変さも吹き飛ばすほどうれしい様子でした。

さて、話は授業参観が始まった1年目にもどりますが、当時の先輩理事さん方が、幾度となく学校側に授業参観をしてほしい旨を申し入れ、話し合いの末、実現したものです。保護者に学校に行きやすい日を一日、提供してくださったのだと私は、解釈しています。

「高専、授業参観があるの??」と他の高校に通う子を持つ親からは不思議がられることもありましたが、子どもが初めて、親元を離れて寮生活を始めたり普通の高校とは少し違う環境の学校であることなど、親子して戸惑いと不安の中でスタートした学生生活を少しでもかいまみることができるのではという親としては何とも有難い話にワクワクしながら学校内を見学したものです。しかし、その反面、理事としては何をどうしていいのかわからないまま段取りしたのが、つい、この前のことのように懐かしく感じられた今年の参観日でした。あれから5回目の授業参観に5年の理事は、1～3年の理事のサポートをする立場になってしまいました。

今後、この『授業参観』が後援会主催ではなく学校の年間行事計画の中にかきこまれることを願っています。

1 年生授業参観・懇談会 アンケート集計結果

当日参加199名

①今回のこの様な機会は必要ですか？

Q1. 全体懇談会について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	9	20	14	27	23	93
必要ない	2	7	0	3	3	15
その他	1	3	2	1	4	11
計	12	30	16	31	30	119

その他・意見詳細

- ・1年生は初めてで不安だらけの為、情報を知る事が出来る。
- ・初めてで分からないことばかりなので出席してみました。次年度以降は今日の内容を踏まえて判断したいと思います。（①全体の感想）
- ・時間の配分が合っていないのでは？予定通りに進まない内容の多さだと思います。
- ・あってもよいと思います。
- ・時間厳守をお願いします。
- ・短めに。
- ・情報交換の場として有意義だと思います。
- ・1年生は入学式に説明があるので不要。他は必要。
- ・いろいろな情報を得るために必要。

Q2. 授業参観について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	12	30	16	30	29	117
必要ない	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	1	1	2
計	12	30	16	31	30	119

その他・意見詳細

- ・はじめての事で1年に1回くらいあってもいいと思います。
- ・日曜日、祝日にあって欲しい。主人がお休みなので。
- ・1, 2年はあってもいいと思う。
- ・学校に来る事も少ないので年に1度くらいはいいと思います。
- ・他の科も見てみたい
- ・上級生との交流が必要だと考えます。
- ・初めてだったので良かったです。
- ・初めて見るものばかりで見学できて良かったです。
- ・授業態度を確認できてよかったし、実習の専門的な場面にただ感心しました。
- ・聞くと見るのでは全く意味が無い。よく判りました。
- ・離れているので子供の様子がとても気になります。
- ・5年、専攻科の方の様子も見せていただき参考になり

ました。

Q3. クラス懇談会について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	12	28	16	27	27	110
必要ない	0	1	0	3	1	5
その他	0	1	0	1	2	4
計	12	30	16	31	30	119

その他・意見詳細

- ・各方面より参加し、親同士の交流の場として必要だと思う。
- ・もっと時間に余裕が欲しかった。
- ・近況を知る事が出来ました。
- ・会う機会が無いのでいい機会でもかったです。
- ・他の保護者とも交流をしたいので。
- ・我が子からだけでは情報が少なく保護者同士の繋がりも無いので助かります。

Q4. 個人面談について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	12	29	16	28	30	115
必要ない	0	0	0	1	0	1
その他	0	1	0	2	0	3
計	12	30	16	31	30	119

その他・意見詳細

- ・子供の学校、寮での様子が分かるから。
- ・今回は希望していません。
- ・やはり学習面が不安なので必要です。
- ・学校での様子を知るいい機会なので。
- ・子供の様子を聞きたいです。

②後援会開催日時について

入学式後 53名

理由)

- ・1年目は出席者も多いと思うので同日の方が良いかも。
- ・遠方の方だと少しでも1日で済んだほうが良い。
- ・入学式の後でも良い 2名
- ・終日になると出席が難しい
- ・時間の節約になると思う
- ・1年生は1度で済むと思う 2名
- ・家から学校まで来るのが大変
- ・どちらでもいいです。
- ・1回で済むから2名
- ・何度も休めないため。
- ・時間が取りづらかったため、参加できなかった。
- ・時間が長くなるので1日中学校にいるのは少し大変です。
- ・沢山の人が参加できると思います。

別途の日が良い 35名

詳細↓

4月	2
4月初旬	2
4月中旬	1
4月下旬	5
5月	2
5月初旬	2
5月中旬	14
5月下旬	0
その他	7

理由)

- ・1年生は様子、内容がまだ分かっていないので1ヶ月あると分かりやすいと思います。
- ・懇談会、授業参観、面談と同じ日でもいい。
- ・入学式では日程が多く、荷物購入も多く大変ですし、本日も朝から17時くらいまでとても長くて体力が要ります。体調等考えないといけない方も要ると思います。しかし、遠方の方には1日で終えるほうが助かるのかなぁとも考えます。
- ・ある程度学校の様子が見えてきてからの方が認知しやすい。
- ・学校に慣れた6月頃。
- ・入学式では何かとバタバタしたので本日の様なスケジュールがよいと思う。2名
- ・6月になると暑いので。
- ・授業参観の日でよいと思う。入学式当日だと駐車場その他が混雑すると思うので。
- ・できれば土曜日がいい。
- ・今回みたいに授業参観なんかと同日にさせていただくありがたい。
- ・5月中旬は休みが取りやすい。
- ・4月、5月は何かと忙しいので6月
- ・月初めは仕事を休みにくい。
- ・子供がしばらく学校生活をした後で、気になる事があるときは担任と話が出来る。1年生は特に入学式後に話をされても何の事だか理解に苦しむと思う。
- ・入学式が4月1日、2日辺りの為、異動時期は時間をとるのが難しい。

その他 13名

- ・本年度参加率も良いようなので同様でも良いのでは。
- ・役員の学校日程に合わせてよいと思う。
- ・入学式後でも授業参観・懇談会時でも、学校行事と同日ならばよい。
- ・PTA、授業参観の日が良い。
- ・今回のように授業参観と一緒に日時がいいです。2名
- ・特に指定無し(いつでもいい)4名
- ・総会、年1回の授業参観でOKです。

③学校に対する要望

- ・学校に来たときに案内が分かりづらいところがあります。
- ・今後もよろしくご指導ください。
- ・銀行引き落としの明細を送付してもらえたらありがたいと思う。
- ・校内の美化にもう少し力を入れてもいいと思います。
- ・生徒の事を考えて取り組んでくださっているのがよく伝わりました。
- ・できれば授業参観、懇談会を金曜日にしていただければ遠方の人は1泊出来るので助かります。
- ・面談のスケジュール等保護者への連絡を子供からさせてください。
- ・校内見学をしたかったです。今回は時間の関係で自由に回れませんでした。クラス単位で回ってみてはと思います。
- ・子供が楽しくしているとは思いますが、何も語らずでするので情報をお願いします。クラス懇談会を内容濃くして欲しい。

④後援会に対する要望

- ・講演会と草払いを一緒にしたら出席者も多いのではないのでしょうか。
- ・年間費が高いと感じておりましたが、本日に参加して納得できました。役員の方々大変だと思いますが宜しくお願い致します。
- ・総会の会計報告は大切なことですが、口頭で説明されるより文字で記入し時間短縮できませんか。また、昨年度より変更された事項等は別途で詳細説明を入れると後にきちんと残ると思われます。
- ・準備等いろいろありがとうございました。
- ・後援会の大切さは十分わかりますが、この高専は遠方の方が多いので、クラス懇談会、面談が大切だと思いますので、時間通りに進めていただきたいと思います。
- ・後援会の方々がお忙しい中一生懸命してくださって大変ありがたいと思っています。遠方の為、ご協力出来ませんが、出来る限り参加したいと思っています。今日は有難うございました。お疲れ様でした。
- ・携帯メールを利用した行事や情報伝達。使い方様々な事ができると思います。
- ・総会資料の内にもっと支出の内容を書き込まれたらよいと思います。

2年生授業参観・懇談会 アンケート集計結果

当日参加153名

①今回のこの様な機会は必要ですか？

Q1. 全体懇談会について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	4	21	13	12	16	66
必要ない	1	1	2	2	0	6
その他	1	2	4	1	1	9
計	6	24	19	15	17	81

その他・意見詳細

- ・最近の学生の様子をもう少し知りたかった。
- ・高専の雰囲気がわかって良かった。
- ・なかなか機会がないので良かったと思います。
- ・必要であるが、1日中参加なので出来るだけ手短に済ませて欲しい。数字の読み上げは内容見れば分かる。
- ・欠席しました。
- ・クラスで情報を知る事が出来ればよい。
- ・先生方のお話を聞きたいです。（話を聞くいい機会）2名
- ・校長先生をはじめ色々な先生方から学校の様子を聞ける機会があまり無い為。

Q2. 授業参観について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	5	20	19	13	17	74
必要ない	0	2	0	0	0	2
その他	1	2	0	2	0	5
計	6	24	19	15	17	81

その他・意見詳細

- ・学校の授業の雰囲気が分かり良かった。
- ・子供の学校での様子を見たいので必要だと思います。5名
- ・各棟見学させてもらい、良かったと思います。
- ・授業参観はもっともっと増やして欲しい。
- ・授業の様子がみれるのはいいが、落ち着いて授業が出来ていない。

邪魔になるのが懸念される。（不要だと思う）

- ・どちらともいえないです。2名
- ・寮生活なので勉強する姿が見れて良かったです。
- ・役員さんが案内してくださって、いろいろな所も見れました。良かったです。
- ・他学科や学年も観れて良かった。
- ・1年生だけでよいような気がします。
- ・とても必要だというわけではありませんが、学校内で子供の顔を見れるというのも親としては有難いものです。

- ・参観では授業で何をしているのか分からなかった。
- ・様子を見たい親心。
- ・日ごろの子供の様子が少し分かるし、どんな勉強をしているのか少しは分かる。
- ・自由参観があるといいと思います。教室で授業を受けている姿だけでなく、実習などの様子も観てみたいので。
- ・どんな勉強をしているのか興味があったのでよかったです。
- ・クラスの雰囲気やクラスメートの様子が分かるので。

Q3. クラス懇談会について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	6	24	17	14	17	78
必要ない	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	2	1	0	3
計	6	24	19	15	17	81

その他・意見詳細

- ・年に1回を楽しみにしていました。
- ・担任の先生に会う機会が無いのでぜひ必要。
- ・担任の先生の話聞ける場（たった1回の）です。
- ・クラスの先生やお母さん方と話が出来てよかった。必要。2名
- ・5年間同士になると思うので良いと思います。
- ・クラスでの様子等がなんとなく分かって良かったと思います。
- ・担任の先生からのお話をいろいろ聞きたいです。
- ・普段先生と話をする機会が無いので、話を聞ける良い機会です。
- ・やはり先生の言葉で教室の様子を聞きたいです。2名
- ・いろいろな情報も得られ、クラスの様子等も分かりよかった。
- ・1年過ぎてもクラスの方を知らないから。
- ・あまり学校の事は話さないのであっていいと思います。
- ・時間は短くていいと思いますが、クラスの様子が分かると思います。
- ・出席の人数がもう少し多ければもっとよいと思います。
- ・先生のお話や保護者の方の顔と名前を少しでも覚えられたらいいです。

Q4. 個人面談について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	6	24	6	14	16	66
必要ない	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	1	1	2
計	6	24	6	15	17	68

その他・意見詳細

- ・今回は仕事の都合のため出来ませんでした。
- ・遠方からなので遠慮しておりますが、1～2年通して済んだ方がおられたら順番にしてもらってもいいのではと思います。
- ・今回は受けてはいないけれど、受けた人もいるでしょうし、この機会にあればいいと思います。2名
- ・今のところ心配な事がなかったので必要ないにしました。何かありましたら、宜しく願い致します。
- ・勉強面や不安な事などもあると思うので、必要だと思います。
- ・希望者が多いので時間、もしくは日数を増やして欲しい。
- ・短時間ではありましたが、細かいところまで色々お話が出来て嬉しかったです。
- ・親元を離れているのでユックリ話したい。
- ・日常生活、学校生活など子供からの情報が少ない為、子供の様子を知りたい。3名
- ・希望があればクラスの中に先生がいてくださればその中でもよいのでは。

②後援会開催日時について

入学式後 25名

理由)

- ・例年と同じ日だと予定が組みやすいので。
- ・体育館暑かった。
- ・出席者が多いのでは？
- ・遠方の為入学式後がよい。何度も来るのが大変。2名
- ・4／1に入学式が無ければ入学式後がいい。授業参観は後日希望。学校に何回も来られるので様子が見られて有難い。

別途の日が良い 19名

詳細↓

- 4月
- 4月初旬
- 4月中旬 1
- 4月下旬 4
- 5月
- 5月初旬 4
- 5月中旬 8
- 5月下旬
- その他 2

理由)

- ・入学式後だと、たぶん新入生の親と役員の方ぐらいしか出席されないのでは？
- ・入学式が前もって早めに分かるとそれでもいいが、休みが取れにくい。今年は早めに分かっていたため、予定が立てやすかった。(2ヶ月前)

- ・4月は行事が多く、ゴールデンウィークが済んでからがよいと思う。
- ・総会と授業参観を同じ日(1日)でお願いしたい為。
- ・今回のように学校行事と一緒にあると1日で終わるので都合がよいと思います。

その他 26名

- ・今回のように、午前総会、午後懇談会でいいと思います。5名
- ・入学式の日是新入生しか聞けない。
- ・同日開催で他学年も出席できるので良かった。(授業参観と)
- ・今年は1日で全て終わったので良かったです。5名(2年生以上の参加も多くなると思いました)
- ・例年通りで良いと思う。
- ・どちらでもかまいません。3名
- ・何も分からないので何か行事のある際に最初に開いてください。できれば土日で。
- ・特にこの日というのはありません。学校の都合に合わせていただければと思います。
- ・理事の方々の都合の良いときで、なるべく早い時期が良い。
- ・年度初め～5月くらいまでは小中学校の行事も多いため今年のような開催が良い。
- ・年度始め、5月は連休と忙しいので今回のように6月ですと参加できて良かった。
- ・いつでもよいのですが、早めに知らせていただくと休みを取れるので2～3ヶ月前には知らせていただきたいです。
- ・遠方からの参加の為、授業参観等と同時に開催だと助かります。
- ・授業参観と同じ日にしていただくとありがたい。ただ、5月中にいただくと気候もよくて暑さを我慢せずに済みますね。

③学校に対する要望

- ・携帯や色々なルールが結構甘いと思う。生徒の服装など見てもだらしない。もっと厳しくやって欲しい。
- ・年に1～2回授業参観は出席したいと思います。遠くで寮に入っていますし、高専の学生を見かける事がないのでどういう感じなのか少しは分かりますので。あったほうがよいのでお願いします。
- ・いつもお世話になっております。勉学のみならず、生活面でもご指導いただき有難く思っています。
- ・学校のホームページ各科のホームページなどをもっと検討していただきたい。更新して欲しい。(セキュリティ問題等もあると思いますが…)

- ・駐車場の入口が分かりづらいので、正面玄関の案内だけでなく点滅信号のところにも表示して欲しい。一旦通り過ぎて玄関で聞いてまた戻る事になった。（初めての人は戸惑います。宜しく取り扱いください）
- ・年間スケジュールを保護者にもプリントアウトしてほしい。
- ・学生が余り挨拶しない事が気になります。一般の高校等と違うとは思いますが、将来社会人になったときにも大事な事だと思います。学校側としての指導は全く無いのかどうか気になります。（もちろん家庭での躾も大事なのですが）
- ・授業参観の機会は必ず組んでいただきたい。
- ・学校の情報が入ってこないの、学校便り等は年何回か発行して欲しい（学年、学級便りなど）

④後援会に対する要望

- ・授業参観、懇談会が金曜日なら子供を連れて帰れるのですが…
- ・準備等色々大変だと思います。有難うございます。
- ・後援会の皆様、本当にご苦勞様です。家が遠いという事で何も協力できず申し訳なく思っております。大変だと思いますが、今後とも宜しくお願い致します。
- ・いつも有難うございます。
- ・どうしても活躍する部活の援助が大きくなると思うのですが、同好会等で活動している生徒へも対外試合等への援助や活動費としての援助があればと思います。
- ・役員の皆様本当にご苦勞様です。これからもよろしくお願い致します。
- ・いつもお世話になっているばかりで有難うございます。
- ・別な日になっても参加が少ないかもしれないのですが、1日学校にいるのも厳しいと思います。

3年生授業参観・懇談会 アンケート集計結果

当日参加133名

①今回のこの様な機会は必要ですか？

Q1. 全体懇談会について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	16	16	22	12	16	82
必要ない	2	2	1	1	3	9
その他	1	0	0	5	1	7
計	19	18	23	18	20	98

その他・意見詳細

- ・すみません。出席していません。2名
- ・予算報告があるので。
- ・学校の様子が分かっていいです。2名
- ・各クラスで担任より説明があればよいと思うから。（必要ない）
- ・中身の濃いものにして欲しい。（必要）
- ・どちらともいえない。
- ・説明について、変更部分だけがよいのでは。（必要）

Q2. 授業参観について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	19	18	19	16	18	90
必要ない	0	0	3	0	2	5
その他	0	0	1	2	0	3
計	19	18	23	18	20	98

その他・意見詳細

- ・無くて当たり前かもしれませんが、思いがけなく参観できて楽しかったです。
- ・授業の様子、子供の様子が分かるのでよいと思う。
- ・どちらともいえない。2名
- ・なかなか学校に来る機会が無い分あれば参加したいと思う。（その他）
- ・クラスの雰囲気が伝わってきます。
- ・毎回参加はしますが、やはりいつもとは違うだろうし…（あまり必要ない）
- ・子供の様子というただ座っているだけなので。（必要ない）
- ・時間の都合で出席できませんでした。（その他）
- ・やはり学生である以上授業態度は見てみたい。
- ・体育以外にして欲しい。専門科目が観たい。（必要：情報5名）
- ・2回参加できていたい分かりました。（必要ない）
- ・微積分の丁寧な授業に感心いたしました。

Q3. クラス懇談会について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	19	17	23	18	20	97
必要ない	0	1	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0
計	19	18	23	18	20	98

その他・意見詳細

- ・クラス全体の親睦を深められるし、他の方々と話が出るから。2名
- ・学生の様子がよく分かる。2名
- ・保護者の方々と情報交換などが出来るのでよいと思う。
- ・なかなか親同士のふれあいなど無いのであって欲しい。
- ・せっかく教室に保護者がいるので一人一人自己紹介できたら名前等覚えられ付き合いも広がる。
- ・学校の様子が全く分からないので、少しでも知りたい。2名
- ・同じ科として色んな情報がもらえればいい。
- ・担任の先生の話が聞けてよかったです。
- ・情報伝達の意味でも必要。
- ・就職の話など具体的に説明してもらいよかった。

Q4. 個人面談について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	19	18	23	15	19	94
必要ない	0	0	0	0	1	1
その他	0	0	0	3	0	3
計	19	18	23	18	20	98

その他・意見詳細

- ・1日に集中し時間がかかると思われるのでできれば割り振って面談日を設けてもらいたい。
- ・個人的にお聞きしたい事があるので必要。
- ・直接学校の様子が分かるから。
- ・希望があれば機会を設けていただけるとありがたいです。
- ・遠方より寮での生活であり、心配も多くお願いしたい。
- ・相談したいとき”場”が設けてあるのはありがたいと思います。
- ・子供の素の様子を聞きたい。
- ・先生と子供の事について話をしたいので。相談が出来る。3名
- ・今回は申込をしなかったのですが、必要。
- ・どちらでもよい。
- ・個人面談のスタートが遅い。面談希望者が帰りが遅い理由で辞退した。(必要)
- ・家でも学校の話とかあまりしたがらないので様子が分かればと思います。

②後援会開催日時について

入学式後 31名

理由)

- ・より多くの人が総会に参加できるため。集まりがよさそう。3名
- ・1年生の父兄の参加を重視。2名
- ・遠方からの出席のため。今回のように授業参観時でもよいと思います。
- ・日程が組みやすい。
- ・新入生の保護者がよく理解できるから。
- ・今年のように1日がかりになりなかなか参加しにくい。
- ・まだ涼しいのでは？

別途の日が良い 29名

詳細↓

4月	
4月初旬	1
4月中旬	2
4月下旬	6
5月	2
5月初旬	3
5月中旬	7
5月下旬	
その他	8

理由)

- ・年度終了後のすぐ後のほうがよいような気がする。(4月下旬)
- ・今回のように授業参観と同日で良いと思います。6月？5名
- ・仕事の都合で4月は休みが取れないので。(5月)2名
- ・季節的にもいいかと思います。今日は暑かった。(5月中旬)
- ・入学式後は疲れてとても長く感じた。(5月中旬)
- ・同じ日にあると1日中になってしまうため。(4月中旬)
- ・涼しい頃がよく、年度初めで少し落ち着いた頃なので。(5月中旬)
- ・入学式後は時間的に無理なような気がします。時間にゆとりが無いような気がする。(5月中旬)
- ・新年度が始まり少し落ち着いて子供たちの様子が分かったほうがよい。(4月下旬or5月初旬)
- ・出来るだけ涼しい時期がいい。(4月初旬)

その他 14名

- ・仕事を持っているので休みを何回ももらえません。授業参観と同じであれば1日で済むので助かる。9名
- ・参加者が多いとき(総会出席者が多いとき)

- ・入学式後には必要なければ遠いので出席が難しい。
- ・本日は出席できませんでした。
- ・後援会総会＋全体懇談会（クラス懇談会）or授業参観＋個人面談（クラス懇談会）とかすべてが1日だといろいろな意味で大変。
- ・どちらでもよい。
- ・本日開催が良かったです。

③学校に対する要望

- ・良いと思います。
- ・学級連絡を充実して欲しいです。
- ・新学期提出の生活調書などクラスはそのままなので繰り上げは出来ないのか？
- ・高専祭の（体育）時、昨年の先輩方がふざけるのはいいのですが、校長先生が台に乗っているときもふざけている様には「けじめ」の無さを感じました。毎年なのですか？1年の時は無かったようですが…
- ・各学年もしくは各クラスの情報を月1回のペースで配信して欲しい。
- ・3Cの教室が狭い。
- ・3Cの保護者です。授業が分からないといいます。本人にも話はしていますが、底上げ対策指導等を是非お願いします。
- ・よい環境で学んでいる事に感謝いたします。

④後援会に対する要望

- ・なかなかお手伝いが出来ずお世話掛けます。有難うございます。
- ・情報の入らない状況でお世話をさせていただき有難うございました。

その他（5年）授業参観・懇談会アンケート集計結果

①今回のこのような機会は必要ですか？

Q1. 全体懇談会について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	0	0	1	0	0	1
必要ない	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	0	0	0	1
計	0	1	1	0	0	2

Q2. 授業参観について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	0	1	1	0	0	2
必要ない	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
計	0	1	1	0	0	2

Q3. クラス懇談会について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	0	1	1	0	0	2
必要ない	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
計	0	1	1	0	0	2

Q4. 個人面談について

	電気	機械	制御	情報	土木	計
必要	0	1	1	0	0	2
必要ない	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
計	0	1	1	0	0	2

②後援会開催日時について

その他 2名

- ・入学式後だと1年生だけになりがちなので、入学式以外の日が良い。
- ・ある程度学校に慣れた頃。1年だけでなく他の学年の親も参加できるような日。

③学校に対する要望

- ・こういう機会が無いと学校に足を向ける事がないので是非授業参観、クラス懇談会は続けてやって欲しい。情報交換の場としてもよい機会になります。
- ・参観日と総会が同じ日の方が一度に終わるので今日のようなやり方がよいと思う。

④後援会に対する要望

- ・これ以上ありません。

編 集 後 記

「高専だより」第61号をお届けいたします。

今号の特集は平成20年度から平成21年度にかけて本校において実施されている「教育GP」です。本校ではこの他にも昨年度まで実施していた地域連携型クラブ活動支援プログラムの「学生支援GP」や、鹿児島県内すべての大学・短大と連携した「戦略的大学連携支援事業」など、様々な事業に学校をあげて取り組んでいます。

また、昨年度に引き続いて今年度も実施される校舎改修工事や、今年度から鹿児島市立科学館で開催されることになった、小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日」など、今年も本校にとって忙しい夏となりました。この忙しさが秋以降に実りへと繋がることを期待しています。新型インフルエンザの流行もありますので、まずは健康に気をつけて万全を期していきたいと思います。

最後になりましたが、発行に当たりましては、行事の重なる多忙な期間の中で快く原稿執筆をお引き受けいただいた執筆者各位に対して委員一同厚く御礼申し上げます。

電気電子工学科 前蘭 正宜

「高専だより」専門委員会委員

委員長	前蘭 正宜（電気電子工学科）
委 員	塚崎 香織（一般教育科文系）
	大竹 孝明（一般教育科理系）
	小田原 悟（機械工学科）
	福添 孝明（電子制御工学科）
	武田 和大（情報工学科）
	疋田 誠（土木工学科）

担当事務 有蘭 俊子（入試広報係長）

「鹿児島高専だより」第61号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報委員会
発 行 鹿児島工業高等専門学校
〒899-5193
鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1